平成 24 年度　社会福祉法人クムレ法人事業報告

はじめに

クムレは「ともに育ち、ともに生きる」の理念の更なる追求の為、平成 24 年度も様々な取り組みを行いました。

年間の法人スローガンとして「生きる力を培う」を掲げ、利用者が本来持っている力を最大限発揮できるよう、保育、療育、支援内容の向上を目指しました。また、職員に向けても、支援目的を明確にすることで、達成感ややりがいを強く感じられる環境づくりを目指しました。

職員のレベルアップ面に関しては、23 年度より運用開始した「キャリアパス」制度を根幹に、人材育成の体系を構築、新入職員には対しては、チェックシートを用いたＯＪＴトレーニングを実施、職務基準チェック表、役割基準チェック表法人のキャリアパスに基づき、職員の階層、役職毎に求められる期待像に照らし、評価することで、職員の成長段階に応じた、能力開発課題を明らかにでき、職員の計画的な能力開発を支援する制度を整備しました。また、それぞれの役職、階層毎に分類し、階層別研修の研修を実施し、職員一人一人が適切な研修を受講できるように定めています。

24 年度は特に、平成 26 年開設予定の倉敷市北圏域における地域密着型特別養護老人ホーム整備事業者への応募に向け、高齢者介護事業の強化を行いました。平成 24 年４月１日、中庄のなないろにて訪問介護事業をスタート、同年６月１日には庄新町において通所介護事業所を開設いたしました。尚、先の地域密着型特別養護老人ホームについては、当法人が事業者に選定され、法人本部内に開設準備室を設け、鋭意、開設に向けての準備を進めております。

25 年度計画として、４月開設の栗坂地区における精神障害者向けグループホーム、及び同年５月開所の水島地区における児童発達支援センターの整備等が予定されており、その開設準備を進めています。

法人の運営に対しては、理事会・評議員会において審議し、法人運営へのご協力並びに貴重なご意見を賜りました。今年度もより良い法人を目指してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

（法人本部）

1.新規事業

（1）訪問介護支援事業所開設

開設に先立ち、23 年度職員を１名採用し開設の準備を行った。２４年 ４ 月1日開始した事業の内容は以下の通り。

① 事業名：（介護予防）訪問介護
② 事業所名：訪問介護支援事業所　ないろ
③ 住所:〒710-0075　岡山県倉敷市中庄 11-1　TEL　086-435-0075
④ 管理者：加来　亜希子
⑤ 職員数：１名(常勤 １名)
⑥ 指定日：平成 24 年４月１日
⑦ 開所日：平成 24 年４月１日

（2）通所介護支援事業所開設

開設に先立ち、23 年度職員を１名採用し開設の準備を行った。２４年 ６ 月1日開始した事業の内容は以下の通り。

① 事業名：通所介護　予防通所介護
② 事業所名：通所介護支援事業所　クムレ
③ 住 所 ： 〒 701-0102　岡 山 県 倉 敷 市 庄 新 町 9-3-6　TEL 086-435-0030
④ 管理者：渡邊　哲也
⑤ 職員数：３名(常勤 ３名)
⑥ 指定日：平成 24 年６月１日
⑦ 開所日：平成 24 年６月１日

2.人材育成

①リクルート活動

ⅰ.新卒者向け法人説明会
　　平成 24 年６月 24 日（日）11：00～13：00
ⅱ.新卒者採用試験（夏期）
　　平成 24 年７月８日（日）10：00～
ⅲ.内定者親睦会
　　平成 24 年 10 月６日（土）10：00～
ⅳ新卒者採用試験（秋期）

平成２４年１０月２８日（日）10：00～

ⅴ.新卒採用者交流会

平成 25 年１月 12 日（土）10：00～

ⅵ.新卒職員宿泊研修

平成 25 年２月 21 日（木）～2月２３日（土）

② 法人内研修

階層別研修

マネージャー
サブマネ・チーフ
リーダー・キャップ
一般
新任

職員のキャリアに応じ、必要な知識を身につけるため、それぞれ年２回実施している。

③ 外部を招いての研修

ⅰ.実践研究発表会

目的：日常業務の中の問題や課題を整理し、問題解決を行う自己研鑽及び発表の場とする。

日程：平成 25 年１月 20 日（日）10：00～16：30

参加対象者：全正規職員

発表：35 題

（子育て支援事業部 12 題・発達支援事業部 12 題・
自立支援事業部　11 題）

ⅱ.五法人研修

目的：クムレを含む、友好五法人が、それぞれで行っている先進的な取り組みについて発表し、自己研鑽及び双発の場とする。

日程：平成 24 年６月 15 日～6月１６日

④ 韓国（韓国子ども財団　チャイルドファンドオブコリア）研修の受入れ

日程：平成 24 年 10 月 21 日～１０月 27 日

目的：例年行っている、韓国子ども財団との交換研修。日本での児童、障がい者福祉事情の視察。

⑤　オールジャパンケアコンテスト

目的：全国から介護従事者を選手として募り「認知症」「食事」「入浴」「排泄」「看取り」「口腔ケア」の６分野で課題に応じた実技を披露

日程：平成２４年１０月２日（火）

結果：通所介護事業所クムレ山下典子が認知症部門で優秀賞獲得

3.理事会・評議員会の実施

第１回：平成 24 年４月１日（木）

第１号議案　役員改選に伴う理事長選任の件

第 ２ 号議案　通所介護事業所クムレ改修工事に伴う指名競争入札参加業者(案)の件

第２回：平成 24 年５月 26 日（土）

第１号議案　平成 23 年度事業報告（案）の件　各事業部別

第２号議案　平成 23 年度決算報告の件

財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、

事業活動収支計算書、監事監査報告書、自主監査報告書

第３号議案　評議員の選任の件

第４号議案　地域密着型特別養護老人ホーム開設の件

第５号議案　児童発達支援センター開設の件

第６号議案　諸規程の改廃の件

第７号議案　定款変更の件

報事項　１．福祉・介護人材処遇改善事業に伴う給付の件

第３回：平成 24 年８月 25 日（土）

第１号議案　　平成 24 年度第一次補正予算の件

第２号議案　　地域密着型特別養護老人ホーム開設の件

第３号議案　　水島地区児童発達支援センター開設の件

第４号議案　　福祉総合相談センター(仮称)の件

第５号議案　　福祉・介護職員処遇改善加算事業の件

第６号議案　　不動産所得の件

第７号議案　　基本財産追加の件

第８号議案　　基本財産処分の件

第９号議案　　理事・評議員選任の件

第 10 号議案　　定款変更の件

第４回：平成 24 年 10 月 24 日（水）

第１号議案　　精神 GH 入札公告（公募条件案）の件

第５回：平成 24 年 11 月７日（水）

第１号議案　　精神 GH 入札参加予定業者の件

第６回：平成 24 年 11 月 29 日（木）

第１号議案　　精神 GH 入札結果の件

第 ２ 号議案　　児童発達支援センタークムレ指名競争入札参加予定業者の件

第７回：平成 25 年１月 26 日（土）

第１号議案　平成 24 年度第２次補正予算の件

（平成 24 年度下期賞与について）

第２号議案　水島地区児童発達支援センター開設の件

第３号議案　精神 GH 新設の件

第４号議案　地域密着型特別養護老人ホームの件

第５号議案　クラシス農業事業の件

第６号議案　平成 24 年度岡山県障害者自立支援対策臨時特例事業費補助金による事業の件

第７号議案　福祉・介護職員処遇改善加算事業の件

第８号議案　基本財産追加の件

第９号議案　定款変更の件

第 10 号議案　規程変更の件

第 11 号議案　鶴心寮責任者変更の件

第 12 号議案　あしたば抵当権抹消の件

第８回：平成 25 年３月 16 日（土）

第１号議案　平成 24 年度第３次補正予算の件

第２号議案　平成 25 年度法人事業計画の件

第３号議案　平成 25 年度法人予算計画の件

第４号議案　平成 25 年度の新組織の件

第５号議案　地域密着型特別養護老人ホーム建設予定地造成工事の件

第６号議案　福祉の相談センタークムレ開設の件

第７号議案　あしたば生活介護　活動場所不動産取得の件

第８号議案　諸規定の改廃の件

第９号議案　役員改選の件

その他報告事項

4.法人行事

（1）辞令交付式
　　平成２４年４月１日（水）
（2）新年互礼会
　　平成 25 年１月４日（金）

子育て支援事業部
平成 24 年度　重点目標に対する取り組み

1.重点目標

（1）支援の充実：地域・関係機関との連携、乳児から就学前までの一貫した保育体制の構築、継続的な改善

（2）人材育成：職員間コミニケーション、研修

（3）地域貢献：地域における子育て支援活動の実施、地域行事への参加、社会貢献活動

2.主な取り組み

（1）支援の充実

① 事業部会議・連絡会・保育確認会の実施（保育３園）

② 児童発達支援事業所（発達支援事業部）への施設研修派遣（保育３園）
（キャップ層以上　目的：気になる子どもへの支援強化　連携しての支援。

③ 小ざくら保育の浸透を目的とした、保護者向け保育説明会の実施（保育３園）

④ 入居世帯の支援強化を目的とした連携会議の実施（鶴心寮・児童家庭支援センター）

（2）人材育成

① 内部研修

・公開保育の開催（乳児・夜間・センター）

② 外部研修

・３法人合同研修（８月 24 日　白鳩会（大阪）にて開催）への参加

・他園視察

その他、事業所毎の課題解決に向けた、内部研修の実施及び外部研修への参加を行っている。（詳細は各事業所報告書　参照）

（3）地域貢献

① 地域における子育て支援

・ 水島地区わんぱく広場の参加（９月 25 日　ライフパークくらしき）

・ 育メンひろば（１月 19 日　ライフパークくらしき）

② 2012 水島港祭り　「和太鼓演奏」「夢ｋｏｉｋｏｉ」参加
（平成 24 年８月５日）

（4）その他

① 第三者評価へ向けた「自己評価（点検）」の実施

発達支援事業部
平成 24 年度　重点目標に対する取り組み

1.重点目標
（1）子供が、その持てる能力や可能性を伸ばしていくことができる支援体制の充実
（2）家族を含めたトータルな支援体制の充実
（3）障がいの有無にかかわらず地域で共に暮らしていく「共生社会」の実現

2.主な取り組み
（1）子供が、その持てる能力や可能性を伸ばしていくことができる支援体制の充実
①機関連携
・移行支援　就学に備えた勉強会（6 月)、
・就園に向けての個別面談（8 月）（倉敷市教育委員会と共同　倉敷学園）
②職員派遣
・倉敷市 1 歳半・3 歳児健診（各事業所共同　毎月）
・すきっぷ教室（各事業所交代　1～3 月）
・保育園・学校・家庭への訪問　（児童発達支援事業所　随時）

（2）家族を含めたトータルな支援体制の充実
①保護者向け勉強会　座談会の実施（年 3～4 回）
②ペアレントトレーニング（児童発達支援事業所　年 2 クール）
③家族見学週間の実施

（3）障がいの有無にかかわらず地域で共に暮らしていく「共生社会」の実現
（1）くらしき発達障がい支援フォーラム開催（平成 24 年 10 月 17 日）
（2）クラ☆コトフェスティバルの開催（倉敷学園・きらり中庄）

（4）その他
（1）第三者評価へ向けた「自己評価（点検)」の実施
（2）児童発達支援センター移行へのプロジェクト会議（下半期　きらり水島）
（3）事業所毎の課題解決に向けた、内部研修の実施及び外部研修への参加を行っている。（詳細は各事業所報告書　参照）

自立支援事業部
平成 24 年度　重点目標に対する取り組み

1.重点目標

（1）地域貢献を意識したサービス創り
（2）ひとりひとりのニーズに合った権利擁護の追求
（3）時代・制度の要求に応えられる人の育成

2.主な取り組み

（1）地域貢献を意識したサービス創り

① 地域の方を招いた行事の開催（あしたば）
お花見　納涼　お月見　節分会の開催
② クラ☆コトフェスティバル　（コトノハ）の開催
③ ナイトクルーズ（コトノハ）※夜間を利用した、ライブの開催

（2）ひとりひとりのニーズに合った権利擁護の追求

① 人権プロジェクトによる権利擁護ガイドラインの整備
（あしたば・コトノハ）
② 権利擁護に関するプロジェクトの開催
※ 平成 25 年 4 月　ＮＰＯ法人「はれるや」（家族参加型の成年後見を目指した法人）設立
③ 第８回くらしきフォーラム開催（平成 25 年２月）

（3）時代・制度の要求に応えられる人の育成

① 外部有識者による勉強会の開催・支援に対する助言
・自閉症の方への支援、構造化
（コトノハ・あしたば　川崎医療福祉大学　寺尾教授）
・業務改善　施設の機能充実
（あしたば　美作大学　薬師寺准教授）

・事業所毎の課題解決に向けた、内部研修の実施及び外部研修への参加を行っている。（詳細は各事業所報告書　参照）

（4）その他

② 第三者評価へ向けた「自己評価（点検）」の実施

中期経営計画

法人本部

1.財務の視点

（1）収支バランスの安定

（2）計画的な投資と償還

2.顧客の視点

（1）法令遵守の徹底と・周知

3.業務プロセスの視点

（1）職制ごとの権限の明確化

（2）決裁・伝達の円滑化

（3）管理者の養成支援

（4）定着率の向上

4.学習と成長の視点

（1）業務・書類の統一化

中期経営ビジョン

子育て支援事業部

1.財務の視点

（1）０歳児の安定した入園

2.顧客の視点

（1）利用者満足度の向上

① 第三者評価受審

② 自己点検

③ 利用者アンケート

（2）地域住民、関係機関、保護者との連携

（3）児童家庭支援センターの草の根活動

（4）子育て支援センターとの連携

3.業務プロセスの視点

（1）保育内容の充実

① 小ざくら保育ＰＴ

② グループ活動

③ 他施設の見学

（2）有効な情報の発信

① ホームページ

② ちらし

（3）民間委託による事業の拡大

4.学習と成長の視点

（1）リーダーとなる人材の育成

（2）提案制度の導入

（3）働きやすい職場づくり

中期経営計画

発達支援事業部

1.財務の視点

（1）地域への情報発信

（2）利用者の安定した確保

2.顧客の視点

（1）相談支援体制の充実(支援センター)

（2）訪問支援の充実(きらり)

（3）障害受容期における家族支援の充実　(小ざくら園)

（4）ボランティアの育成

（5）家族支援の充実

（6）利用者満足の向上

3.業務プロセスの視点

（1）ケース会議の充実

（2）移行支援会議の実施

（3）チームアプローチによる療育体制の確立

（4）療育システムの構築

（5）専門職の活用

4.学習と成長の視点

（1）人材の定着化

（2）人材の育成

（3）明るく活気のある職場づくり

（4）提案制度の導入

中期経営計画

自立支援事業部

1.財務の視点

（1）利用者の地域移行

（2）ショートステイの体制整備

2.顧客の視点

（1）重介護型ケアホームの開設

（2）利用者満足の向上

3.業務プロセスの視点

（1）サービス効果の検証

（2）行政への提案

（3）職員の定着

4.学習と成長の視点

（1）現サービスの問題・課題把握

（2）契約・嘱託職員の研修

（3）職員提案の活性化

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら保育園】【事業所責任者:財前　亘】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援	気になる親子への支援体制の構築については、連絡会を開催し、相互利用児についての情報交換を密にした。 発達事業部への施設研修を実施した。
小ざくらの目指す保育の浸透	公開保育を実施し、各年次ごとに実施し、保育講師の指導を年４回実施し、その時期の課題をおさえながら、保育内容を高めた。次年度に向けて保育内容や課業の実施の検討を行い、デイリーを次年度は変更します。
継続的改善の実施	利用者アンケートを実施し、保護者にも結果を伝えた。意見からは、十分に伝わっていない部分が多くみられましたので、次年度は、具体的にわかりやすく保育説明会などの場も使いながら改善を行います。
職員の育成	事業部のキャップ会や施設体験を通じて、職員の育成を行いました。課題を横のつながりで共有化したことで、理解が深まったと考えます。
地域貢献活動の実施	水島夢 koikoi への参加や和太鼓演奏での参加など例年取り組んできた港祭りへの参加に継続して取り組み、夢ｋｏｉｋｏｉは優秀賞をいただきました。

（説明）

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援	ふれあい広場　6/1 開催 育メンひろば 1/19開催
セミナーの実施	子育て講演会を保育園の参観日の機会を通じて開催し、保護者に子育てについて考える機会を提供した。
保育内容の充実	０歳から就学前までの一貫した保育体制の構築にむけて、研修や公開保育を実施した。
継続的改善の実施	職員による改善について、園内キャップ会を中心に改善についての共通認識を持つように取り組み。 必要なことはその都度改善した。

職員の育成	各階層の法人研修に参加し、目標管理活動、ＯＪＴに取り組んだ。 理念についてブランドブックを活用し、職員の認識を深めた。

（説明）

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	22	25	26	26	257	255	−2
5月	22	25	24	24	257	255	−2
6月	22	25	26	26	257	255	−2
7月	22	25	25	25	257	255	−2
8月	22	25	27	27	257	255	−2
9月	22	25	23	23	257	255	−2
10月	22	25	22	22	255	253	−1
11月	22	25	24	24	255	253	−2
12月	22	25	23	23	255	253	−2
1月	22	25	24	24	255	253	−2
2月	22	25	23	23	255	253	−2
3月	22	25	23	23	255	253	−3
合計	264	300	290	290	3072	3056	−28

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）年度当初は、年度末に急きょ退園者が出ている為、予算計画との差異が出ている。年度途中になると年度により途中入所の児童のニーズがこちらと合わないため退園者と入園者のバランスとることが難しい。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
入園式	４月	入園式	途中入園を含め７０名を超える児童が入園した。
春の遠足	４月	遠足	近隣の公園や公共交通機関を使って遠足を行った。
花まつり会	５月	仏様の誕生日を祝う	地域の参加方も含め実施することができた
参観日・保護者会総会	５月	参観日	県大中野先生の講演を合わせて実施しました。
プール開き	７月	プールの開始	事故もなく実施しました。
七夕会	７月	七夕について	短冊に願い事を書き、由来を学びながら楽しく実施しました。
お泊り保育	７月	雪組子どもが園に泊まる	岡山少年自然の家に行き、自然体験をするなど楽しく開催しました。
港祭りへの参加	８月	港祭りでの雪組鼓隊による演奏	水島サロンで演奏し、多数の保護者もみに来られました
お月見会	９月	お月見	地域の方も参加していただきました。
参観日	９月	参観日	多数の保護者が参加しました。
運動会	１０月	運動会	水島児童館で例年通り開催しました。
卒園旅行	１１月	バスによる親子遠足	とらまるパペットランドへ行きました。
星・花発表会	１２月	２歳児、３歳児クラス発表会	今年度より３歳児も園内で発表会を開催しました。
もちつき会	１２月	おもちつき	例年通り開催しました。
クリスマス会	１２月	クリスマスについてしり。友達と楽しむ	子どもたちが楽しく参加しました・

雪遊び	１月	雪を知り、遊ぶこと知る	蒜山へいきました。
節分会	２月	節分を楽しむ	鬼を怖がる子どももいましたが、節分について学びました。
保育発表会	３月	保育内容の成果を披露する	４歳児、５歳児が参加しました。
ひな祭り	３月	ひな祭りを楽しむ	ひな祭りについて学びました。
卒園式	３月	雪組の卒園式	子どもたちも上手に卒園式を行い、無事終了しました。
個人懇談	年２回	保育に参加してもらい。その後懇談を行う	例年１回でしたが、年度末に２回目を実施しました。
保育の説明会		今年度の保育について説明する。	年次ごとに１回ずつ開催しました。

4. 保護者（家族）との交流事業

・護者会と連携しながら、バットマナー、友愛セール、秋祭りなどを開催し、利用者だけでなく地域の人にも参加できるようなイベントなどを通じて、保護者と協力関係を作りました。
・園内プロジェクトにて、保護者間のコミュニケーションを題材に、掲示板を使った情報交換や、クッキング等を通じたコミュニケーションに取り組みました。
・日ごろの活動をクラスごとに掲示したり、写真販売を取り入れるなどした、保護者に日ごろの様子が伝わるように工夫をしました。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	昼礼や相互の情報交換を通じて共有するようにしています。
意見・苦情	未対応０件	４５件
事故	重篤な事故を 発生させない	発生１４０件 怪我だけでなく破損等を含めた件数です 総合遊具でのけがなどがありました。

上記を受けての具体的改善活動

キャップ会を活用し、日ごろの保育の中で改善できるものは改善していきました。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・水島夢 koikoi への参加や和太鼓演奏での参加など例年取り組んできた港祭りへの参加に継続して取り組み、夢ｋｏｉｋｏｉは優秀賞をいただきました。
・エコキャップの収集に取り組みを行いました。
・水島中学校との交流を行いました。（中学校のカリキュラムでの取り組み）
・チャレンジワークの受け入れ（２４名）

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
基本の理解	マニュアルにある手順を理解し、必要なことがきちんと実施できるかどうか。 チューターとのコミュニケーション

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所おいて特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ	・保育の計画的推進をすることができた ※職員の育成、指導に取り組み、現場のまとまりが見えてきた。 ・
	・リーダー、キャップ	・保育内容の理解（小ざくらの保育の道筋） ・発達に応じた保育実践 ※職員によりばらつきがあるが、仕事の軸が固まってきているように感じられる。
	・新任、一般職	・業務内容の理解 ※ＯＪＴについては、すべての内容を充分ではない部分もあるが満了している ・
監督職→管理職	・マネジャー	・ ・ ・
	・サブマネジャー	・ ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
食事・アレルギーについて	６月	全員	アレルギー時の対応について、確認しながら実施できている。
衛生研修（看護師）	７月	全員	衛生面の手順や確認事項を習熟できた。
保育について（横山先生）	5.9.11.2 月	全員	発達に応じた保育や遊びの提供について学んだ
【組織性関係】			
パート職員の役割について	５月	キャップ・リーダー（９名）	役割として期待することを共有した。
ＯＪＴシートの進捗	10.１月	チューター（３名）	ＯＪＴの進捗について研修を行った。
理念について	６月、３月	全員（正規）	理念の実現に向けた目標を共有し発表を行った。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
子どもの発達を考える会	７月	田口	気になる子供の発達と理解について学んだ。
関西保育セミナー	８月	田口、渡邊、服部、古閑	遊びにつて理解を深めた
３法人合同研修会	８月	財前　田口　中川、吉田	立腰保育について研修を行った。
１年目保育士研修	９月	佐田野　藤原	新人として求められていることの理解。
あおぞら保育園視察研修	９月	中川　吉田	保育内容について研鑽を深め復命報告を実施した
愛和保育園視察研修	１２月	山本あ　横田	保育内容について研鑽を深め復命報告を実施した
岡山県保育研究大会	１月	田口	保育内容について研鑽を深め復命報告を実施した
【組織性関係】			

社会福祉経営者セミナー	7月	財前	施設経営や今後の制度動向について学んだ
全国社会福祉施設経営者大会	9月	財前	施設経営や今後の制度動向について学んだ

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

1．防災計画に基づいた毎月の避難訓練の実施
2．１０月に消防署を招いて避難訓練や消火訓練を実施、子どもには消防車の写生を実施し、意識づけを行った。
3．交通安全教室を開催し、子どもたちに道路でのマナーや安全について学習を行った。
4．安全点検に基づいて安全、衛生管理を行った。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

1．ツリーハウスの撤去
2．厨房雨漏りの修繕工事（防水の修繕）
3．積み木を中心に玩具を購入した

10.その他特記事項

特にありません

11.総括及び次年度の課題

今年度は、保育内容について小ざくらの道筋に基づいて見直しを始めた一年であった。曖昧であったことを確認しながら、マニュアル化したり、キャップ会を通じて共通認識をはかったりしながら、保育内容について検討を重ね、年度途中で発表会についても見直しを行い、３歳児は例年倉敷市芸文館で発表会を実施していましたが、園内のホールで実施に変更しました。

その都度必要なことを見直していったことは、アンケートから出てきた結果として、途中でブレているように感じている保護者もいたようですが、情報提供や説明の機会を通じて浸透させていく必要を感じた。

厨房の雨漏り等、施設の老朽化を含め、厨房の改修計画を次年度に取り組むことになっているが、費用等も高額となり、次年度はしっかり内容を検討し次々年度に計画的に実施できるように取り組む必要がある。ハード・ソフトの質の向上が次年度以降も求められていると感じています。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら乳児保育園】　【事業所責任者:　山本己晴】

平成 24 年度法人方針を受け下記のとおり事業を計画します。

1. はじめに

① 年次事業計画概要

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援	キャップ以上発達事業部の施設研修に参加。 情報の共有。
小ざくらの目指す保育の浸透	小ざくら保育の実践を行いながら、各事業所の状況確認会の実施と公開保育の実施。
継続的改善の実施	自己点検の実施。
職員の育成	事業部キャップ会の実施。
地域貢献活動の実施	わんぱく広場の参加、育メンひろばの開催。 水島港まつり（和太鼓、夢ｋｏｉ、ボランティア　）に参加。エコキャップの収集。清掃活動の実施。

（説明）

子育て支援事業部では、①子育て支援の充実、②人材育成、③地域貢献の３つの柱を立て計画に基づいて実施していきました。気になる親子への支援については、キャップ以上の職員が発達支援事業部の各事業所での研修を受け保育の参考にさせていただきました。小ざくらの保育の浸透については、保育説明会の実施や公開保育を通して目指す保育のスタートラインに立つことができたように思います。事業部のキャップ会では、情報交換をしたりキャップの役割などを確認したりと良い刺激になりました。第三者評価受審に向けて自己点検を実施しました。子育ては平成２６年度に受審することが決まり準備を進めていきたいと思います。地域貢献活動は水島港祭り、清掃活動、エコキャップなど職員が団結して参加出来ました。又、子育て支援活動として「水島地区わんぱく広場」への参加、倉敷市との協賛で「育メンひろば」をライフパークで実施できたことは良かったと思います。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援	キャップ以上発達事業部の施設研修に参加。 情報の共有。
セミナーの実施	児童虐待防止に向けたセミナーを実施する
保育内容の充実	０歳から就学前までの一貫した保育体制の構築をする。 小ざくらの保育の説明会の実施。
継続的改善の実施	職員による改善の提案し実践発表に繋げる。
職員の育成	階層別研修に参加（各階層、年２回）

（説明）

保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援については、各事業所に関わる利用者の方だけでなく地域の子育て家庭の方にイベント等通して子育ての楽しさや食育、保健などについて情報提供していきました。イベント開催には、倉敷市の協力や事業部の職員を中心に準備をすすめ実施できました。保育内容の充実については一貫した保育体制の構築ということで、小ざくらの保育の取り組みをもとに保護者に保育の説明会を実施しました。出来るだけ具体的に説明を行い、担任からも大切にしたいことや実施していこうと考えていることを自分の言葉で伝えるようにしました。まずは、職員自身が子どもに良いお手本を見せることが大切であるということで、職員会議やミィーティングの時に何故必要かということを伝えたり、演習をしながら考えていく時間もつくりました。そうすることで、意識を持って取り組んでいくことができるようになっていると思います。継続的改善は、保育の中での困りごとや気になることを提案し、緊急度や重要度を考えて実践発表に繋げていきました。進めていく中で、なぜだろうと考えることを投げかけながら皆が考えて工夫や改善に繋がったと思います。階層別研修は年２回の実施で、それぞれの階層に合わせて参加させていただきました。育成には時間がかかりますが、個人の課題や目標をしっかりと計画し実践できるように働きかけ、確認をしながら進めていきたいと考えます。物事を前向きに考え、どうしたらできるか、なにをどうしたらよいかを考えられる職員の育成を行っていきたいと思います。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画　と　実積						利用者合　計実積（人）
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	0歳児計画	1歳児計画	0歳児実積	1歳児実積	
4月	26	27	24	30	30	61	32	60	92
5月	26	27	24	30	30	61	32	60	92
6月	26	28	26	33	33	61	34	59	93
7月	29	29	25	34	34	61	38	60	98
8月	27	27	27	36	36	61	41	61	102
9月	29	29	23	38	38	61	47	61	108
10月	29	29	26	42	42	61	52	61	113
11月	29	29	24	45	45	61	54	61	115
12月	30	30	23	47	47	61	58	61	119
1月	31	31	22	49	49	61	61	59	120
2月	33	33	23	51	51	61	61	59	120
3月	33	33	25	51	51	61	61	59	120
合計	348	352	292	486	486	732	571	721	1292

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

3. 行事計画

行事名	実施月日	内容	目的
入園式 平成２３年度途中入園２４名 平成２４年度新規入園３９名	４月３日	２３年度途中入園児及び２４年度新入園児の入園式	小ざくらの取り組みを理解してもらう
花祭り	５月８日	花見堂を飾りお参りする	お釈迦様の誕生をお祝いする
個人懇談	６月、１月	園の様子を伝える	園と家庭との情報交換
七夕会 保護者参加人数３７名	７月６日	由来を聞いたり催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
お月見会 保護者参加人数３４名	９月２８日	由来を聞いたり催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
親子遠足 １歳児クラス親子	９月２１日	ぶどう狩り、ドイツの森	子ども、保護者同士の交流
運動会	１０月８日	親子で参加	親子で体を動かすことを楽しむ
クリスマス会 保護者参加人数４３名	１２月２１日	由来を聞いたり催しを楽しむ	行事を楽しむ
もちつき	１２月１２日	もちつきの様子を見る	日本古来の伝承行事に親しむ
節分会 保護者参加人数３５名	２月１日	由来を聞いたり催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
ひなまつり会 保護者参加人数４３名	３月１日	由来を聞いたり催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
参観日	５月１２日 ９月８日 ３月２日	親子で遊んでもらったり日頃の園の様子をみてもらう	園の取り組みを理解してもらう
誕生会 毎月第２水曜日	毎月	誕生児のお祝いする	成長を皆でお祝いする

4. 保護者（家族）との交流計画

〇保護者会環境整備の実施

・保護者会役員さんを中心に運動会前、卒園前に園内・駐車場などの環境整備を実施。

〇伝承行事の実施

・七夕、お月見、クリスマス会、節分、ひなまつりの行事を実施。

〇子育てサロンの開催

・看護師より防災グッズの紹介、乳幼児のかかりやすい病気について

・絵本、わらべうたについて、スクラップブッキングなど

〇個人懇談の実施

・年２回(６月、１月)実施しました。保育園での生活や遊びの様子を伝えたり、家庭での様子教えてもらい情報交換の場としました。又、発達の見通しを持って少し先の課題についても話ができるようにしました。

5.「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善計画

	目標	方針
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	「ヒヤリはっと」報告の多い職場は、危険予知意識の高い良い職場。
意見・苦情	未対応０件	「意見・苦情」を残さず汲み取る。放置せず、サービスの向上を目指します。
事故	発生１６件	「ヒヤリはっと」「意見・苦情」への適切な対応で、事故を未然に防ぎます

上記を受けての具体的改善活動

・意見、苦情、要望については行事の詳細を１～２ヶ月前に知りたい、配布物の渡し忘れ、ケガの対応等についてありましたので、その都度個人的に対応しました。また、職員にもミーティング等で周知しました。

・事故（擦り傷、打撲、切り傷）については、看護師が状況を見て判断していますが、念のために受診するようにしています。

６．　地域貢献活動・地域との交流計画

① 地域における子育て支援活動の実施

・水島地区わんぱく広場の参加・・・９月２５日（ライフパークくらしき）

・育メンひろばの開催・・・１月１９日（ライフパークくらしき）

② 地域行事への参加

・水島港まつり（和太鼓・夢ｋｏｉ）・・・８月５日（水島商店街）
ボランティア含む

③ 社会貢献活動への参加

・エコキャップ・・・うっふっふっ本舗が毎月回収
ベルマークの収集・・・集計後、寄付する

７．　人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導指導を行った項目	指導上の留意した点と結果
○○ＪＴチェックシートに沿って毎月確認と次月の課題 ○要領書に沿った援助の習得	・乳児保育の基本を繰り返し伝えたり、クラスのリーダーが手本となって見せ、習得できるようにする。 ・毎月の振り返りをすることで、現状の確認と次月の課題が明確になり課題を意識して取り組むことができていた。個別の課題はあるが、前向きに取り組んでいる。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点） 及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ	○部下への指示指導 ・部下への指示や指導についてリーダーシップを発揮し、まとめていけるようにその都度声かけを行った。　現場への指導も細かく実施できている。 ○職員間コミュニケーション ・普段から声掛け、相談、状況の把握をし、意見の吸い上げを行うように声かけを行った。又、日常的に報連相を意識して行ったが、確認不足や連絡漏れがありその都度確認していくようにした。
	・リーダー、キャップ	○人材育成・教育 ・新人職員の育成、担当職員の課題を把握し、指導助言ができるようにした。キャップとしての力量をつけていくことは時間がかかるが、根気強く実施していく必要がある。 ○職員間コミュニケーション ・方針の伝達、相談、意見の吸い上げを行うようにした。課題に対して解決策を考えるという習慣をつけていく必要がある。
	・新任、一般職	○新任：ＯＪＴチェックシートを使用。毎月チューターと振り返りを実施し次月の課題を決めて取り組むことができた。 ○一般：職務基準チェック表を使用し、業務遂行レベルを確認。自己目標に繋げるようにした。自己目標については、毎月の取り組みを記録し経過を確認、２ヶ月に一度コメントを記入しやりとりを行っていった。（チーフ、リーダー、キャップ、も同様）
監督職→管理職	・マネジャー	・該当なし
	・サブマネジャー	・　〃

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月日	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
公開保育	5月２２日 6月１４日	・０歳児、他園職員 ・１歳児、他園職員	小ざくらの目指す保育の確認と意見交換の場
離乳食の進め方、 アレルギーについて	5月２８日 5月３０日	・全職員	離乳食の進め方、食事提供の仕方を習得
幼児安全法、救急法	6月1、8、 １１日	・全職員	知識、技術の習得
衛生研修 体調不良時の対応について	6月　4日	・中途採用職員 ・新任職員	知識向上に繋ぐ
接遇について	6月１２日 6月１８日	・全職員	実技演習にて習得
衛生研修 病気について	7月　3日 7月２３日	・全職員	感染予防、病気について知識の習得
保護者対応について	8月　7日 8月２１日	・全職員	知識向上に繋ぐ
事故対応について	9月　4日 9月１１日	・全職員	事例を検討し周知
エピペンの使用方法について	9月２６日	・全職員	知識、技術の習得と周知
安全について	１０月9日 １０月１５日	・全職員	知識向上に繋ぐ
プラン書の立案、反省について	１１月１３日	・中途採用職員 ・新任職員	月齢発達に応じた作成
不審者対応について	１２月　4日 １２月１１日	・全職員	対策の理解と周知
保育勉強会(外部講師)	6月、１１月 2月	全職員	年齢発達に応じた保育援助及び環境構成の理解
【組織性関係】			
法人：階層別研修 幹部研修	4月１４日 １０月3日	山本	各職位別研修に参加し、情報収集しながら、自己の向上に繋げる
サブマネ・チーフ研修	6月1日 １０月２０日	尾崎、福田	〃
リーダー・キャップ研修	6月２３日 １１月１０日	野瀬、三村、朝島 稲谷、森谷、高田 安藤、五嶋	〃

一般職研修	7月21日 28日 12月15日 22日	岡田、竹村、松尾、 藤田、河本、渡邊、 緒方、角南、串田、 小谷、應本	〃
新任研修	8月18日 1月26日	深川、西道	〃
事業部内キャップ研修	4、5、6、7、 9、11、12、 1、3月	事業部内の キャップ	下位者指導、情報の共有 についてディスカッションし ながら実践に活かす

⑵.外部研修

研修項目	月日	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
保育実践講座	7月26日 27日	高田、三村 山本	発達に応じた援助と保育 環境の習得
乳児保育基礎講座	8月　2日 9日	西道 深川	乳幼児の基本的な発達の 理解
初任保育士研修会	8月8日	西道、深川	社会人としてのマナー と若手保育士に対する期 待について
乳児保育研修会	8月17日 12月11日	藤原 應本	傾聴力、乳幼児の成長に 関する知識の習得
三法人研修会（白鳩会）	8月24日	尾崎、野瀬、山本	立腰保育を含めた保育の 実践と情報交換
主任保育士研修会	10月24日 12月25日	尾崎	専門的な知識習得の為
感染症対策研修会	10月30日	山本	感染症及び対策について 確認と情報収集
公開保育(香川愛和保育園)	11月6日 7日	尾崎、児子	知識向上の為
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

８．　防災安全衛生活動計画

〇防災：毎月、防災訓練を年間計画に沿って実施しました。消火器の模擬訓練や二次避難訓練も実施しました。

〇安全：施設内外の安全点検を毎週行い、記録に残しました。
幼児安全法の講習会を実施しました。日赤より講師を招いて救急法、心肺蘇生法、ＡＥＤ操作について実際に行いながら実技指導をうけました。
ＳＩＤＳ（乳幼児突然死症候群）の予防として、睡眠中の呼吸の確認をベビーセンスを使ってチェックを行い記録に残していきました。又、睡眠中の呼吸確認を１０分毎に確認し記録に残していきました。

〇衛生：環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施
施設内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
感染予防に努め、流行する疾患などの情報提供を園内に掲示し早目の受診を促がしていきました。

９．　施設設備工事及び高額什器備品購入計画

〇給食用リフトワイヤーの取替え：老朽化の為・・・９月

10.　その他特記事項

・特になし

11.　総括及び次年度の課題

今年度は、事業部全体で取り組む内容が多く役割分担しながら進めていきました。事業計画としては取り組み時期が前後したこともありましたが、計画に沿って実施できました。特に地域貢献は事業部が協力して取り組むことができ、地域の子育て家庭にクムレ（小ざくら）の取り組みをＰＲできたと思います。小ざくらの保育については、まずは職員が子どもに良い手本を示すということで取り組んでいきました。事業所内では職員同士で互いの状況を振り返りながら、良いお手本の職員を見て各自が改善していけるようになり、職員の意識も向上していると思います。育成については、すぐに成果のでるものではないと思いますが、個人の課題を明確にし計画をたて確実に実施することは中々難しかったのですが、目標管理活動については毎月の取り組みを記録に残していき課題を考えながら取り組む習慣は少しずつできていると思います。次年度は第三者評価受審に向けて自己点検したことをもとに、園全体の評価を考えたりマニュアル等の整理をし職員研修を実施しながら理解と周知ができるように進めていきたいと考えています。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら夜間保育園】【事業所責任者:　中谷　成美　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりをもった子育て支援	気になる親子への支援の実施体制をつくるため、情報の共有の場を定期的に設けたり、キャップ以上の職員が、発達支援事業部の事業所で施設研修を行ったりした。
小ざくらの目指す保育の浸透	小ざくら保育の実践を行いながら、実践状況の確認会を毎月行い、現状の確認及び課題の整理をしていった。各事業所の公開保育や外部講師の指導、行事や書類などの見直しも事業部全体で行い、目指す保育の共通理解につながった。
継続的改善の実施	自己点検を実施し、課題の確認を行い、次年度の計画に反映させた。
職員の育成	事業部キャップ会を計画に沿って毎月実施した。 下位者指導、保護者対応、コミュニケーション力など、ディスカッションを行いながら実施していくことにより、キャップとして身につけていかなくてはならないことを再認識し、各自、自身を振り返る場にもなった。
地域貢献活動の実施	和太鼓演奏や踊りパレードなど、地域の水島港まつりに参加した。

（説明）事業部で取り組む内容がほとんどであった為、役割分担、日程の調整を行いながら、話し合いや各種の研修、公開保育など協力し合って計画に沿って取り組むことができた。そうした機会を通して事業部に属する事業所間のコミュニケーションや職員間の交流も深まり、そのことが小規模事業所である自園の職員にとってはよい刺激になっている。又、発達支援事業部の事業所での施設研修も同様である。現場の職員は経験が少ない職員が多いが、保育援助や環境構成などのスキルアップに関する研修や自己点検を通して自身の保育を振り返り、問題点、改善点に気づき、チームで取り組んでいく意識も少しずつもててきている。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりをもった子育て支援	わんぱく広場への参加、育メンひろば、ふれあい広場の実施に協力した。現場の職員も参加する中で外部の機関や地域の方々と関わることができた。
セミナーの実施	虐待防止に向けたセミナーを実施。（同事業部事業所）
保育内容の充実	行事、保護者とのコミュニケーション（種類と理由）の整理、書類（保育プラン書）の見直しなどを行い、キャップ会にて説明。共通理解し、次年度より保育３園で取り組めるようにした。
継続的改善の実施	職員による改善の提案を毎月の職員会議で実施した。現場目線の小さな事柄が中心であったが、気づきを大切にしていった。
職員の育成	階層別研修に参加し、それぞれの階層での役割を身につける研修を受けた。

（説明）事業部で取り組む内容がほとんどであった為、計画に沿って、事業部全体で役割分担を行い、協力し合って取り組んでいった。※詳細は上記の表参照。
継続的改善の実施については、次年度はテーマを絞った業務の改善提案へと結びつくようにしたい。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計　　画					実績				
	配置基準	現員	0歳	1・2歳	3歳	4歳上	合計	0歳	1・2歳	3歳	4歳上	合計
4月	9	10	4	11	4	14	33	3	11	5	14	33
5月	9	10	4	12	4	14	34	3	11	5	14	33
6月	9	10	4	12	5	14	35	3	11	5	14	33
7月	9	9	5	12	5	14	36	4	11	6	14	35
8月	9	9	5	12	5	14	36	4	11	6	14	35
9月	9	9	5	12	5	14	36	4	11	6	14	35
10月	10	10	5	12	5	14	36	5	11	6	14	36
11月	10	10	5	12	5	14	36	5	11	6	14	36
12月	10	10	5	12	5	14	36	5	11	6	14	36
1月	10	10	5	13	5	14	37	7	11	6	14	38
2月	10	10	6	13	5	14	38	8	11	6	14	39
3月	10	10	6	13	5	14	38	8	11	6	14	39
合計	120	120	59	146	58	168	431	59	132	69	168	428

※　職員数は、常勤換算で記入。

（説明）概ね、計画通り。職員については、年度途中で産休や期間満了となる嘱託職員および新任職員が多いことから余裕をもっての人員スタートとなったが、体調不良による年度途中の早い時期（6月末）での正規職員の退職や家庭の都合による嘱託職員の退職、予定より早い嘱託職員の休職などにより、人員の確保ができにくい状態が一時期あった。嘱託職員の時間帯を変えての復職や時間帯のマッチする派遣職員の確保により、業務に支障をきたすことはなかった。

3. 行事報告　及び　4.保護者（家族）との交流事業

行事名	実施月	内容	結果
入園式	4月	２３年度途中入園児及び２４年度新入園児の入園式	７名の園児、保護者が参加。
親子遠足	４・11 月	いちご狩り・近隣の児童施設などへ出かけて一緒に遊んだ。	子ども、職員と保護者、保護者同士の交流がもてた。 ※11 月の親子遠足は雨天の為、中止となった。
花祭り	5月	花御堂を飾りお参りする	楽しい雰囲気の中でお釈迦様の誕生をお祝いできた。
参観日	５・９・１月	親子で遊んでもらいながら日頃の園での様子をみてもらった。	園での子どもの様子や活動を理解してもらうことにつながった。
懇談会	５・１月	園の取り組みや担任の保育に対する思い、子どもたちの園での様子を伝えた。	園と保護者との情報交換ができた。意見・要望を伺うことができた。
親子 クッキング	６・９・２月	親子でクッキングを行い、一緒に作ったものを食べた。	親子で楽しみながら、食への興味や食の大切さを理解してもらうことにつながった。
親子キャンプ	7月	自然の中で遊んだり食事を作って食べたりした。	子ども、職員と保護者、保護者同士（卒園児やその保護者）の交流がもてた。
試食会	７・９・11 月	園での食事・食事の様子・食育の取り組みなどを伝えた。	園と保護者の情報交換や 保護者に食の大切さを理解してもらうことにつながった。
七夕会	7月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
お月見会	9月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
運動会	10 月	親子で参加。	親子で体を動かすことを楽しむことができた。
クリスマス会	12 月	卒園児と一緒にケーキ作りをした。 由来を聞いたり催しを楽しんだりした。	卒園児との関わりを楽しめた。節ならではの行事に楽しく参加することができた。
もちつき	12 月	もちつきの様子を見たり、ついたりした。	伝承行事に親しむことができた。

節分会	2月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
ひな祭り会	3月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。

〇保護者会と一緒に環境整備の実施を行った。
〇誕生日会に保護者を招き、夕食も共にして祝った。
〇家庭訪問・個人懇談を行った。
〇園児の祖父母（9月祖父母参観日）、卒園児やその保護者を行事に招き（7月親子キャンプ、8月港祭り見学、１２月クリスマス会など）、交流をもった。

5.「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	７０件　年齢発達上の噛み付きや転倒など、情報の共有と環境面や保育者の配慮など、改善につなげていった。
意見・苦情	未対応０件	３件　個別に対応したり、園間の連携の必要な事柄については、協議し改善を行った。
事故	発生０件	６件　転倒による打撲、玩具の取り合いによる傷、誤飲の疑いなどで受診。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

①地域における子育て支援活動の実施
・水島地区わんぱく広場への参加
・育メン広場の開催（イベントコーナーの担当）

②地域行事への参加
・水島港祭り（和太鼓・夢ｋｏｉ）への参加

③社会貢献活動への参加
・エコキャップ、ベルマークの収集を年間を通して行った。

7. 人材育成

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
小ざくら保育の実践を行う上での職員の心構え	しつけの３原則など、職員自らが実践することの大切さを理由とともに知らせ、皆で一緒に取り組む気持ちがもてるように上位者自らが率先して範を示したり、実践の状況を定期的に確認し合う場を設けたりして行った。意識できていることもあるが、定期的な確認や働きかけを要する。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ	・部下への指示指導についてリーダーシップを発揮し、具体的な助言指導が積極的にできるようすることを目標とした。日常的に話し合いの機会をもち、指示の曖昧さやおさえの甘さなどについて知らせていき、少しずつ意識することができるようになっている。リーダーシップや積極的な助言指導については、努めようとする様子は感じられる。
	・リーダー、キャップ	・事業所、事業部の方針を理解し、方針に沿った部下への指導が手順を追って丁寧に行えることを目標とした。指示はできるが、丁寧な説明やして見せ、側について実施状況を確認し、最後にまかせて確認するなどの点や部下の特性を理解し、こまやかな指導を行うことは、引き続きの課題である。
	・新任、一般職	・年齢に応じた生活援助、遊びの提供ができるようになることを目標とし、コミュニケーションの機会を設け、保育の振り返り（評価・反省含む）が行えるように心掛けた。担当児の年齢についての生活援助や遊びの提供は少しずつできるようになってきている。が、自身で考えたり、気づいたりすることはまだ不十分である。

③ 研修

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
公開保育	年８回	全職員	知識の向上と他事業所の理解につながった。
保育勉強会	５・９・11・2月	全職員	〃
施設研修	年１回	正規職員	知識の習得と発達特性に合った子どもとの関わり方、他事業所の理解につながった。
【組織性関係】			
法人：階層別研修	各階層年2回	該当職員	知識向上、役割の認識につながった。
事業部内キャップ研修	毎月	事業部内キャップ	ディスカッションによるコニュミケーションと情報の共有ができた。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
保育研修会	８・９・10 12月	正規職員	知識向上と情報の共有（全夜連研修）ができた。
主任保育士研修会	１２月	チーフ	専門的な知識の修得につながった。
公開保育（保育園視察）	10・11月	チーフ	知識向上につながった。（環境構成・保育援助）
【組織性関係】			
保育園視察	８月	マネージャー チーフ	知識向上・情報交換

④ その他（自己啓発援助）

・保育書の購読による保育の知識の習得。

8. 安全衛生活動

〇防災：避難訓練の実施（毎月１回）
　　消火器模擬訓練、避難誘導訓練（２次避難訓練含む）の実施
〇安全：施設内外の安全点検
　　園児への交通安全指導、保護者への送迎時の交通マナーの啓蒙・車両管理の注意喚起
〇衛生：環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施
　　施設内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
　　感染予防（園児への手洗い・消毒指導）、感染症に対する情報提供
〇研修：アレルギー・感染症予防（消毒方法）などについての勉強会の実施
　　救急処置についての実務研修の実施

9. 設備工事及び高額什器備品購入

〇２階保育室、トイレの壁紙の張替え
〇屋上防水改修工事
〇照明（外灯）改修工事

10.その他特記事項

・特になし

11.総括及び次年度の課題

・事業部全体で取り組む内容が主で、事業所を超えてのコミュニケーションの機会が増えた。又、役割分担や日程の調整を行いながら概ねスケジュールに沿って計画を達成することができた。職員の育成については、基本をしっかりとおさえながらの丁寧な指導が次年度も引き続き必要であり、その為にも指導する側の指導力の育成を図っていきたい。又、嘱託職員参加のミーティングや勉強会の実施なども行い、情報の共有や保育力のアップとチームワークの強化を目指したい。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら地域子育て支援センター】【事業所責任者:岡本　初江】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援	気になる親子への支援体制を作るために、保育確認会で定期的な情報の共有を図ったり、キャップ以上の職員は発達支援事業所での施設研修を行ったりした。また、個別ケースにおいては、保健師、あるいは関係機関と連携して、母親の支援を行ったりした。
小ざくらの目指す保育の浸透	小ざくらの保育を実践するために、保育説明会をはじめ、定期的な状況確認の場（職員会議・保育連絡会等）での話し合いを行うことで、職員が同じ方向に向かって保育する姿が見え始めている。また、しつけの３原則を意識し、職員が手本となるよう意識づけることで、子どもの変化も見え始めている。また、各事業所の公開保育や外部講師の指導、ベンチマークなどを事業部全体で行うことで、共通の目標を持って保育することが確かになっている。
継続的改善の実施	事業ごとに自己点検を行ったり、利用者アンケートを行ったりすることで、問題・課題を認識し、マニュアルや手順の変更を行うなどの改善を行った。また、新たな課題については、次年度計画へ反映させた。
職員の育成	キャップ会を定期的に行い、下位者指導・保護者対応などの課題を勉強し合うことで、互いの学びの場となった。
地域貢献活動の実施	和太鼓演奏・夢 koikoi の踊りに参加することで、地域活性化の取り組みに貢献することができた。

（説明）

年度初めに事業部として取り組む課題を明確にし、役割分担、スケジュール化をし、　事業部会議、連絡会、保育確認会などで定期的に報告・連絡・相談を行うことで、ほぼ計画どおりに実施することができた。また、公開保育、勉強会、施設体験などを通して、職員同士の交流も図れ、互いの事業所の状況を知ったり、情報の共有を図ったりすることで、互いの刺激となったと感じられる。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
保護者・関係機関との関わりを持った子育て支援	ふれあいひろば、わんぱくキッズ、育メンひろばの開催にあたり、事業部全体の協力と地域の関係機関のつなぎを図ることができ、小ざくらとして地域の子育て支援に関わることができた。
セミナーの実施	児家センを中心にＣＳＰ，セカンドステップを実施した。 計画外にも、「父親応援プログラム」の実施を子育て支援センターにて実施した。
保育内容の充実	小ざくらの一貫した保育を目指して、行事、保護者とのコミュニケーション、保育プラン書などの見直しを行った。その後、キャップ会にて説明、25 年度からの実施の運びとなった。
継続的改善の実施	日々の保育の中では、「気づき箱」を設置し、職員の気づき力を高める取り組みを継続して行ったり、リスクマネジメント研修から得たものを現場で実行するなどした。職員からの提案で、危険予測マップ等の作成が行われるなど、気づきに対する意識の高まりが感じられるようになった。
職員の育成	階層別研修への参加やＯＪＴ／目標管理活動を通して、個々の職務や役割が実現できるよう努力した。

（説明）

どの項目も、事業部全体として役割分担し、計画的に進めていくことができた。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

	職員配置		利用者状況							
	配置定員 正臨（パ）	現員	一時保育		休日保育		訪問事業		センター開放	
			計画数	実績数	計画数	実績数	計画数	実績数	計画数	実績数
4月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	320	310	30	47	10	20	100	140
5月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	320	377	35	51	10	33	110	197
6月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	370	344	25	29	10	25	120	232
7月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	380	431	40	47	10	23	110	222
8月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	380	393	25	24	10	25	100	187
9月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	400	426	45	52	10	26	100	200
10月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	400	516	40	42	10	38	100	236
11月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	400	464	45	49	10	26	100	215
12月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	370	408	35	41	10	30	100	129
1月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	350	423	30	38	10	24	100	108
2月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	350	441	35	37	10	27	80	101
3月	5＋(3.5)	5＋(2.5)	360	453	35	47	10	28	100	178
合計	6＋(42)	6＋(30)	4400	4986	420	504	120	337	1220	2145

※センター開所日数は、360 日（冬季休業日以外は開所）

※職員は常勤換算とする

（説明）利用に関しては、どの事業も計画より実績を上回る状況であった。

一時保育に関しては、今年度より始めた特定保育の実績を含んだ形での報告である。

特定保育に関しては、仕事をしている方が対象ということで、子どもの預かり時間が長時間となり、職員の勤務時間などを調整しながら対応する等したが、延長保育への対応などで、職員の負担となったところもある。

3. 行事報告

行事名	実施日	内　容	結　果
運動会	10 月8日	保育園行事への参加	44 組の地域の親子が参加保育材料費として、約 15000 円使用
親子遠足	10 月 29 日	玉島溜川公園への親子遠足	24 組の地域の親子が参加
個人懇談	1 月 30 日～ 2 月 29 日	一時保育利用者への相談支援	28 世帯の一時・特定保育利用者が参加

※季節行事・伝承行事（花まつり・七夕・お月見・クリスマス・もちつき・節分・ひなまつり）
：一時保育利用者、地域の親子が年間９７名参加

※保育参観週間、及び試食会（6月・1 月）：一時保育利用の保護者を対象とした保育参加形式

※誕生日会（毎月第２水曜日）：一時保育利用者、地域の親子の参加

4. 保護者（家族）との交流事業

支援事業	内容	開催回数	延べ参加人数
すこやかサロン（親子教室）	“ぴよぴよ”教室：遊びの紹介・相談	９	１６２人
	“こっこ”教室：遊びの紹介・相談	９	１５８人
	合同教室：自由遊び・相談	９	１３８人
パパやママのおしゃべりサロン	ハンドメイドの会 （離乳食・おやつ作り）	２	３２人
	プレパパ&ママ	１	１５人
	パクパクランチの会（試食会）	６	６８人
ボランティア関係	子育てサポーター養成講座（全センター共催）	６	人
	ボランティア交流会	３	２８人
	花もめんの会・・・毎月2回	２０	９８人
	一時保育・託児ボランティア受入れ	随　時	６５０人
すくすくめーる（はがき）	育児情報提供・・・登録者に月１回発行	１４世帯	８１通
育児相談	面接相談（訪問相談を含む）	６２１件	７０２件
	電話・メール相談	１４件	１８件
ふれあいひろば	ふれあいひろば（園開放）・・月～土曜日	４３０	２１４５人
	公園であそぼう・・・第４月曜日	１０	２２９人
	赤ちゃんふれあい・育メンひろば・父親応援ＰＪ.	３	１９４人

市事業への共催	ふれあい子育て教室（水島地区午前・午後）	２２	８１３人
	１．６健診	１２	１４９８人
	親子クラブ・子育てサロン	９	５１３人
ふれあい 子育て支援サービス	産じょく期ヘルパー	１７世帯	１００回
	派遣型一時保育ヘルパー	３世帯	３回
	子育てヘルパー	１２世帯	２２４回

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	職員の気づき箱への投函を含め，　３２件
意見・苦情・要望	未対応０件	苦情：２件　・預かり品の返却ミス ・訪問時間のミス 要望：１件　・帰園時の子どもの様子の伝え方
事故	発生件数０件	ケガ：３件　・噛まれる・転倒など軽微なケガが度重なった為，事故対応とした 事務：２ 件　・利用料・連絡帳の入れ間違いによるケース

上記を受けての具体的改善活動

意見・苦情・要望、事故に関しては、発生したすべてに対して対応済み

・軽微なケガについては，職員への研修，あるいは危険予測マップを作成し，周知

・ヒューマンエラーについては，各担当者同士での声かけ確認の徹底

・利用料の集金については，保護者の目の前での確認し受け取る方法に変更

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

☆毎月第１月曜日：園舎周辺の清掃活動

☆8 月：地域活性化を目的とする水島港祭り“夢 koikoi”に参加

☆９/25：水島地区親子クラブ主催「わんぱくひろば」への参加・・・・２７２名の親子の参加

子育て事業部各事業所より１名ずつの職員がクムレンジャーとしてステージを開催

☆1/19：倉敷市主催「育メンひろば」の開催・・・・26 組 83 人の参加

栄養改善・愛育委員・子育てボラ・助産師・保健師・子育て事業部の協働開催

〃：岡山県委託事業「父親応援プロジェクト」・・・12 組 38 人の参加

☆エコ・キャップ、ベルマークの回収

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
センターにおける基本業務の習得	業務マニュアルとＯＪＴシートを活用し，一つ一つの業務を確実に行えるようになる指導した。子どもへの直接支援においては，今後期待するところも大きいが，子どもの姿をきちんと捉え，保育教材を工夫したり，自らの反省や上司からの助言を次に活かすことができるので，今後の更なる成長を期待する。

② キャリアパス

	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・一般職	事業所間移動の職員に対しては，一時保育業務マニュアルに基づき，申請手続きから利用管理を含めた一時保育業務が確実に行えるよう指導した。単純なミスや同じ失敗を繰り返すことが多く，成果につながりにくかった。
	・一般職	２年目職員に対しては，子どもの発達に応じた保育の展開ができるよう指導した。子どもの姿をとらえる、あるいは保育教材の工夫は今後も引き続きの課題とする。一方，保護者支援は積極的に取り組み、研修などで学んだ知識やスキルを発揮できるようになっている

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
実践研究への取り組み	６・１月	全職員	実践研究の進め方とシュミレーション
小ざくらの保育について	５・12月	全職員	勉強会報告会
公開保育	４･５･６･７･８月（５回）	一時（特定）保育担当者	０・１・２歳児保育 夜間保育 センター一時保育
施設見学・研修	年１回ずつ	正規職員	小ざくら園：１名 鶴心寮：３名
実技研修	４･６･７･８･９･10･２月	全職員	視聴覚教材の活用 トイレットトレーニング 今どきのベビーグッズ 年齢にふさわしい玩具

第三者評価研修	11 月	全職員	第三者評価の意義と方法について学ぶ
発達障がい児支援について	１月	全職員	障がい児の理解と保育について学ぶ
保護者支援について	２月	全職員	事例検討を通じ、スキルアップを図る
保健・衛生研修	５・６月	清板・千歳	離乳食・アレルギー・感染症について学ぶ
リスク研修	６・９月	三村	リスクについて学ぶ
１【組織性関係】			
階層別研修	各階層年 ２回	マネジャー研修：岡本 一般職研修：三村・松下 新任研修：清板	役割の確認とスキルアップについて学ぶ
キャップ研修	毎月	キャップ代理：三村	情報の共有

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
相談援助研修	年５回	三村	相談援助のスキルアップ
子育て地域拠点事業研修会	５・６月 （４回）	地域子育て拠点事業 担当者	拠点の役割とスタッフの基本的態度について学ぶ
発達障がい児研修	１月	かせ谷	発達障がい児の課題の構造化について学ぶ
３法人研修会	８月	岡本	立腰保育の取り組みについて学ぶ
ベンチマーク	９月 11 月	あおぞら保育園：岡本・三村 愛和保育園：岡野	３歳未満児保育・一時保育・センター事業の見学
【組織性関係】			
社会福祉経営者セミナー	７月	岡本	施設経営と今後の動向について学ぶ

④ その他（自己啓発援助）

園内研修にて、職員が自己啓発課題として勉強したことを発表する機会を設ける

8. 防災安全衛生活動

防災活動	・防災訓練計画に基づき、避難訓練を毎月１回実施 消火器模擬訓練・避難誘導訓練・２次避難訓練などを行う
安全活動	・毎月の職員会議にて、ヒヤリはっと・事故・苦情の報告を行い、全職員に周知、改善検討を実施 ・安全点検表に基づき，定期的な安全点検、及び修理を実施 ・３保育室の危険予測マップを作成・掲示→利用者への啓発も含む ・車両安全運転管理・運行記録の管理を実施（毎月１回）
衛生活動	・O-26、157 のチェック表に基づき、衛生管理を実施 ・ダスキンによる害虫駆除を年２回実施 ・幼児安全法・感染症・衛生研修に参加 ・保護者や地域の子育て家庭に感染症予防の情報提供を行う

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・センター保育室手洗い場床の腐食による張り替え工事（完了）
・保育園事務所２Ｆ階段の雨よけ工事（25 年度への継続工事）

10.その他特記事項

特になし

11.総括及び次年度の課題

事業部共通の課題に対し、事業所ごとに役割分担して計画を進めることができ、今まで以上に情報の共有や目標に向けての進捗管理ができたように思う。その結果、互いの事業所を理解したり、自身の事業所の強み、弱みを知った上で、自分たちの課題を職員と一緒に考えることができたと思う。

次年度に向けては、第三者評価への取り組みや利用者アンケート、更には制度の変更に伴う預かり保育・子育て拠点事業の新たな取り組みなどに対して、その課題を意識した計画と進捗を図っていきたい。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：　倉敷市鶴心寮　】【事業所責任者:　三宅　奈美江　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
利用者ニーズをもとにした自立支援計画策定及び再評価の実施	知識・経験不足の職員が多く、目標値に至っていない。まずは利用者支援や利用者対応について学び、経験を積むことを優先課題として行った。
利用者ニーズを取り入れた講座の実施	要望があったサッカー講座や母親・子ども料理教室を実施した。
関係機関との密な連携	児家センとの連携では CSP やセカンドステップの実施、連携会議での事例検討会等を実施した。
職員の育成	職員会議や実践発表を通じて、円滑な情報共有を目的とした職員間のコミュニケーション向上を図った。 法人内の階層別研修に参加した。
地域貢献活動の実施	地元稲荷町公園の清掃活動を実施した。 水島港まつり（和太鼓・夢ｋｏｉ）へ参加した。

（説明）

２４年度は新体制でのスタートであったが、手探りで戸惑いながらの運営が続き、年度途中で職員の半数が入れ替わった。利用者からの苦情・要望への対応が遅れ、そのことが原因となって退所となる等、事業計画の目標達成どころか施設の役割を果たせていないという事態が起きた。年度の後半からは、事業所内研修や環境整備、職員間のコミュニケーションに重点を置き、施設運営の立て直しを図ったため、結果として目標達成していないものが出た。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
支援サービスの安定及び質の向上	指定管理者制度のモニタリング時に利用者アンケートを実施していたが、今年度よりアンケートではなく入所経由機関と利用者とのヒアリングに変わったため実施できておらず。
関係機関との密な連携	関係機関との連携では入退所時の事例検討会の開催や密な連携をもとに支援を実施した。
他事業所との親睦及び相互理解	他事業所へ施設体験を行った。
職員の育成	個別及び事業所全体の現状が把握できていないまま、前半は、個々のレベルや課題に見合っていない外部研修への参加が多かった。そのため、後半では事業所内研修を中心に行った。

（説明）

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：世帯〕

月	職員数		実　　績				利用者合　計
	定　員	現　員	入所	退所	県緊急一時保護	市内緊急一時保護	
４月	８	８	０	０	０	０	３
５月	８	８	０	０	０	０	３
６月	８	８	０	１	０	０	２
７月	８	８	０	０	０	０	２
８月	８	８	０	０	０	０	２
９月	８	８	１	１	０	０	２
10月	８	８	０	０	０	１	３
11月	８	８	０	０	０	１	３
12月	８	８	０	０	０	１	３
１月	８	８	０	０	０	０	２
２月	８	８	０	０	０	０	２
３月	８	８	１	０	０	０	３
合計	９６	９６	２	２	０	３	３０

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

・鶴心寮は入所施設につき、３６５日間開所

・２４年４月１日付け在籍世帯数：３世帯。実績は各月１日付け在籍世帯数とする

・入退所（県・市一時保護を含む）については、福祉事務所等が決定するため、実績のみの報告とする

・県・市緊急一時保護実施状況　　県：３世帯　　市：８世帯　　合計１１世帯

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
親の会	毎月第１金曜日	母親対象、利用者同士、職員らとの話し合いの場	職員からの連絡事項伝達が主な内容となっていたため、途中から、要望等を聴き、寮生活や行事等へ反映させるようにした
子どもの会	毎月第３金曜日	小学生以上の児童対象、利用者同士の話し合いの場	年間を通して対象児童が少なかったため、遊びの場となることが多かった
誕生会	該当月第１金曜日	誕生日を祝う	母：2、児童：３ 金額：3,120 円
ＣＳＰ・セカンドステップ	毎月第３金曜日	母：ＣＳＰ　児童：セカンドステップを実施	母：2、児童：２６
寮内健康診断	４、１０月	健康診断	母：５、児童：９ 春・秋の２回実施
こどもの日・母の日	５月６日	こいのぼり作り他	母：2、児童：４ 金額：1,998 円
サッカー講座	５月２３日	サッカー講座	ボランティア：１ 児童：１
母親料理教室	６月１７日	煮込みハンバーグ	ボランィア：１ 母：１、児童：２ 金額：1,668 円
七夕会	７月８日	七夕の飾りつけ	母：１、児童：２
読み聞かせ	７月２６日 ８月２３日	ボランティアによる絵本の読み聞かせ	ボランティア：２ 児童：２
子ども料理教室	７月２９日	炊飯器でケーキ作り	母：１、児童：２ 金額：９７４円
宿泊行事	８月１３ ～１４日	真備美しい森にて自炊及び宿泊	母：１、児童：２ 場所：真備美しい森 金額：27,206 円
バーベキュー・花火会	９月９日	入所者・退所者とのバーベキュー・花火	母：７、児童：１１ 金額：11,891 円

クリスマス会	１２月９日	読み聞かせによるクリスマスの由来、ボランティアによるマジックショー他	ボランティア：３ 母：６、児童：６ 金額：5,605 円
餅つき・大掃除	１２月２３日	地元千載楽保存会との餅つき会や寮内の大掃除	（餅つき） 千載楽保存会関係者 母：４、児童：６ （餅つき・掃除） 金額：8,559 円
年越し会	１２月３１日	各自料理を持ち寄って食事会	母：２、児童：３
節分会	２月３日	節分の由来、豆まき	母：２、児童：３ 金額：1,283 円
ひな祭り会	３月３日	折り紙でおひな様の作成他	母：３、児童：４

4. 保護者（家族）との交流事業

鶴心寮は母子がともに入所している施設のため、家族参加による行事が多い。中でも、こどもの日・母の日では親子共同作業でのこいのぼり作り、母親料理教室・子ども料理教室では、母親たちから子どもたちへ、子どもたちから母親たちへとそれぞれが作った料理をもてなすといった、親子関係の調整、食育、もてなす喜び等のさまざまなねらいを持った行事を実施した。

地域交流としては、毎年恒例となった地元千載楽保存会主催による餅つき会を開催した。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	０件。入所世帯が少なく生活や行動・心理的に安定した世帯ばかりだったため。就労及び学校保育園で共有部分にて過ごす時間が少なかったことが０件であった理由だと思われる。
意見・苦情	未対応０件	利用者の状況（体調・心情・経済状態等）への配慮が欠ける対応や対応の遅さが原因となる苦情があった。
事故	発生０件	

上記を受けての具体的改善活動

（意見・苦情）

利用者との話し合いの場を設けたり職員間にて対応策を検討する等の改善に努めた。また、業務日誌の改善及び連絡メモ活用による職員間の情報共有や利用者からの苦情・要望の把握及び対応の遅れがないよう努めた。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

①毎月第２日曜日　地元町内会婦人部との合同による稲荷町公園清掃活動の実施
②地域における子育て支援活動の実施
　・９月２５日　水島地区わんぱく広場の参加
　・１月１９日　育メンひろばの開催
③地域行事への参加
　・８月４，５日　水島港まつり（和太鼓・夢ｋｏｉ）
④社会貢献活動への参加
　・エコキャップ、ベルマークの収集

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
日常業務、施設管理 危機対応、保健衛生	開所・閉所の基本業務、建物の安全点検及び環境整備を主とした施設管理、鶴心寮ならではとなる危機対応、入所施設ということによる感染症に重点を置いた保健衛生等に留意した。また、職員の半数以上が入れ替わる状況となってしまったため、基本的な事項を中心に年間を通じて指導した。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・該当者なし ・ ・ ・該当者なし ・ ・ ・該当者なし ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・該当者なし ・ ・ ・ ・個々の職員の育成及び組織力の向上を目的とした人材育成計画を立てたが、職員の入れ替わりが多く、母子生活支援施設に関する基礎知識不足が目立ったこと、支援者としての心構え等が身についていなかったことから、達成に至らなかった。 ・

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
母子生活支援施設について	5、6月	全職員	母子生活支援施設及び鶴心寮に関する基礎を学ぶ
幼児安全法講習	6月	全職員	救命法について学ぶ
テーマ「寄り添う」について	9月	全職員	支援者としてのスキルを学ぶ
運営指針に関する勉強会	9月	全職員	各自がまとめた母子生活支援施設運営指針について発表する

事故対応研修	１０月	全職員	緊急時の対応について学ぶ
事例検討会	１２、１、２月	全職員	架空ケースをもとに自立支援を検討する
記録の書き方勉強会	１１月	全職員	鶴心寮で必要な情報について話し合い、
【組織性関係】			
階層別研修	各階層年２回	中林・香取・松浦・増上・大西・小野	各階層に求められる役割の理解を深める
リスクマネジメント研修	９月１４日	小野	リスクマネジメントの考え方について学ぶ
第三者評価勉強会	１１月	三宅	第三者評価の仕組み・考え方について学ぶ

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
全国母子生活支援施設職員研修会	６月	中林・大西	母子支援に必要な知識を学ぶ
DV 被害者サポーター養成講座	６、７、８月	大西・増上	DV に関する基礎知識を学ぶ
他施設見学	７月	中林・香取・松浦・増上・大西・小野・中山	他施設の仕組み及び支援状況を学ぶ
中国・四国母子生活支援施設研修会	７月	中林・松浦	職員として望まれる支援について学ぶ
岡山県福祉職員生涯研修会（指導者コース）	８月	香取	指導者としての役割や要件について学ぶ
子育てサポーターリーダー養成講座・すこやか家庭教育相談員養成講座	１０、１１月	三宅	他団体との交流及び子育て支援や現状を学ぶ
全国母子生活支援施設大会	１０月	小野・三宅	他施設との情報交換及び母子生活支援施設の現状や実践発表を知る
社会的養護を担う児童福祉施設長研修会	１２月	三宅	施設長要件として必須の２年に１度の研修
鳥取県母子生活支援施設職員研修	２月	大西・小野	自立支援計画策定について学ぶ

8. 防災安全衛生活動

防災安全活動として、毎月第１金曜日に災害訓練を実施した。訓練内容は火災や地震、台風といった災害だけでなく、母子生活支援施設の特性に応じた不審者対応、その他防災への意識向上を目的とした消防署立ち会訓練を実施した。建物や設備に関することでは、備品への耐震対策、防災機器や非常通報装置等の定期保守点検、防犯対策として毎日１９時半～２時までの間警備員による夜間巡回警備を実施した。保健衛生では、入所者・職員合同の幼児安全法講習会の実施、職員に対して感染症対策について会議等により周知を図った。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

特になし

10.その他特記事項

特になし

11.総括及び次年度の課題

２４年度は職員の大半が入れ替わり、前半は戸惑いながらの運営となった。利用者からの苦情や要望に対して迅速且つ丁寧な対応ができず、個々の支援力だけでなく組織力の低下も著しいものであった。後半は、施設運営の立て直しを図ることを目的とし運営方針を明確に打ち出し、事業所内研修、環境整備に力を入れた。

また、２４年度では母子生活支援施設に関する基礎知識、鶴心寮での基本業務、環境整備といった外枠を固めることに重点を置いていたが、次年度では、支援方法や自立支援計画といったサービスの確立を重点課題としたい。そして、指定管理者制度再受託に向けて、より安定した施設運営を目指し、個々のスキルアップやチームワーク強化に努めたいと考えている。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：児童家庭支援センタークムレ】【事業所責任者:森安　純一】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域・関係機関との連携	関係機関とのケース会議等に出席し、情報を共有し、連携して相談支援をおこなうことができた。児童相談所からの指導委託も受けることができた。 出張相談を拡大した。（水島・児島児童館）
法人内事業所との連携	相談からサービスへの連動により、切れ目のない支援を提供する（子育て支援センター、鶴心寮）。連携会議をとおして鶴心寮との連携が深まった。
相談支援の質の向上	月 2 回の援助方針会議を実施し、定期的にモニタリングを行った。アセスメントシートの改訂なども行った。
職員の育成	法人内・外の研修に参加し自己研鑽を積むことができた。できるだけ多くの法人外の質の高い研修に参加し、一定の成果を得ることができた。
地域貢献活動の実施	児童虐待防止に向けた取り組み（ＣＳＰ/セカンドステップ講座の実施）　を計画通りに行うことができた。参加者からいい評価を得ることができた。

（説明）

児童家庭支援センター クムレは開設より３年目を迎え、一般の保護者からの相談も順調に伸び、法人内外の関係施設からの問い合わせやケースの依頼、また、講演依頼も次第に増えてきている。相談件数はひと月に延べ 200 件を超えるような月もある。前年度に比べ、新規のケースが少ないが、それは継続の相談が多くなっていることによる。相談の延べ件数の総数は昨年より１４０件増加している。さらに、今年度はセンター開設以来初の児童相談所からの指導委託が入り、年間では２件となった。

相談の種別は、「障害」が最も多く半数近くを占めており、次いで、「育成（性格行動）」となっている。また、「育成（不登校）」は昨年度と同程度である。相談方法は、「電話」が最も多く、「来所」（通所を含む）、「訪問」の順であり、これは昨年度と同様である。

児童虐待への対応では、虐待の疑いのあるケースについては子ども相談センターや児童相談所に通告し、また、子ども相談センターや児童相談所から協力の依頼のあったケースについては、子相

や児相の職員とともに家庭訪問をしたり、児童に対して心理検査を実施したり、来所の相談に応じたり、ＣＳＰの実施などを行ったりした。指導委託のケースは２件ともに、虐待ケースであり、文書により指示された内容に沿って保護者の指導や児童への心理的対応などを行い、その結果を児童相談所へ定期的に報告した。１件は県外転出のため、指導委託解除、もう１件は、指導委託継続中である。

「障害」「育成（不登校）」等の相談では小学校・中学校（通常学級・特別支援学級）、特別支援学校、教育センター、主任児童委員等との連携がより密となり、地域の中での児家センの存在がよ大きく意識されるようになっていると思われる。

今年度は、昨年度児童虐待防止推進月間の取り組みとして行ったコモンセンス・ペアレンティング（ＣＳＰ）講座を年間を通して、一般の方たちを対象に実施した。また、セカンドステップの講座も年間を通して実施した。講座に参加した保護者の方々からは、いずれも「満足した」と良い評価を得た。３年目となる鶴心寮においてのＣＳＰ講座、セカンドステップ講座も引き続き実施し、保護者が、満足感と充実感、自信を得ることができたと思われる。

鶴心寮との連携では、連携会議を実施し、お互いの事業所の業務の内容について理解したり、相談の知識技能、アセスメントの知識技能などの向上を図るべく、事例検討などを行った。一定の成果を得ることができたと思われる。

所内の業務改善事項としては、各種の記録類の電子化、相談のアセスメントシートの改善などを行い、ある程度の成果を得ることができた。特に記録の電子化により、職員の業務の負担軽減を行うことができた。また、運営方針会議を行い、クムレの理念、地域のニーズ、これまでの児家センの相談の状況などから、今後の児家センのめざす姿を考え、実践発表会で発表した。これにより、職員の児家センの役割について理解が進んだと思われる。

今後の課題としては、地域に根ざし、地域に開かれた児童家庭支援センターとしていくため、保健師との連携、サロン的な行事の実施などに取り組むことが必要であると考えている。

また、平成２６年度には、岡山県で、「全国里親大会」が開催される予定であり、県子ども未来課から、実行委員会委員への就任の依頼が来ている。児童家庭支援センターは児童相談所運営指針の改訂により、里親支援機関として位置づけられており、今後は、一定の役割を果たすことを期待されており、具体的な取り組みが必要となると思われる。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
地域・関係機関との関わりを持った子育て支援	倉敷市の児童虐待防止推進行事に参加する。わんぱく広場、育メンひろば、水島港まつりに参加する
専門的セミナーの実施	セミナーの実施はできていない。
継続的改善の実施	職員による改善の提案をする（毎月の職員会議）
鶴心寮との連携	毎月、連携会議を実施、互いの業務内容を知ることができ、連携の在り方を考えることができた。水島地区の児童の退所後のアフターケアを行い、自立への効果的な支援を行うことができた。

（説明）

継続的改善については、職員会議、運営方針会議などを行い、より質の高い支援ができるよう、相談の受付から終結にいたるまでの流れ、アセスメントの方法、アセスメントシートのの様式などについて改善を行った。相談の流れが少し明確になり、アセスメントもより効率的に的確にできるようになった。

鶴心寮との連携では、連携会議を毎月行い、お互いの業務についての理解を深めることができた。また、退所児童のアフターケアでは、水島地区において、鶴心寮との連携を図りながら、児童と母親の自立を効果的に支援することができた。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	4	4	24	24	140	171	
5月	4	4	24	24	140	185	
6月	4	4	26	26	140	178	
7月	4	4	25	25	140	217	
8月	4	4	27	27	140	164	
9月	4	4	23	23	140	154	
10月	4	4	26	26	140	167	
11月	4	4	24	24	140	157	
12月	4	4	23	23	140	164	
1月	4	4	23	23	140	176	
2月	4	4	23	23	140	177	
3月	4	4	25	25	140	189	
合計			293	293	1680	2099	

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

相談件数は、延総数が 2099 件で、平成 23 年度よりは 137 件増加した。今年度は開所以来初めて、児童相談所からの指導委託を受けた。昨年度からの継続の相談件数が増加し、新規のケースは昨年度と比べると少なくなっている。相談の種類は、引き続き「障害」が多く、次に「育成」である。「養護（虐待）」は全体に占める件数は少ないものの、相談の質としては困難度の高いものが多く、対応に苦慮するケースもあった。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
通級指導教室担当教員研修会	4/6	児童家庭支援センター紹介	２０名参加
児童相談所新人研修会	5/25	児童家庭支援センター紹介	１５名参加
中庄小学校特別支援学級保護者研修会	6/22	児童家庭支援センター紹介	１２名参加
ＣＳＰ講座	6/6 6/14 7/4 7/12 7/25 8/1 8/2 8/9 8/22 8/30 9/6 11/8 11/15 11/21 1/16 1/17 1/24 1/30 2/6 2/14 2/20 2/28 3/6 3/21 3/28	数名のグループの保護者に、暴力・暴言を使わないで子育てを行う方法を獲得してもらうためのプログラムを実施	20 名程度の保護者を 4～5 名のグループに分けて実施
セカンドステップ講座	6/16 6/30 7/7 7/21 8/18 8/25 9/1 9/15 11/17 11/22 2/2 2/16 3/16 3/21	子ども自身が暴力をふるったり、虐待を行ったりしないための教育プログラムを実施	十数人の子どもたちを2～4人のグループに分けて実施
鶴心寮 ＣＳＰ講座	4/21 6/9 7/28 8/11 9/8 10/13 12/15 1/12 2/9	鶴心寮のアフターを視野に入れた取り組みとして効果的なしつけを学ぶペアレントトレーニングを実施	母親２～３名に継続的に実施
鶴心寮 セカンドステップ （幼児）	4/6 7/6 8/3 9/7 10/5 11/16 12/21 1/18	鶴心寮のアフターを視野に入れた取り組みとして、暴力防止プログラムを実施	幼児３～５名に継続的に実施
鶴心寮 セカンドステップ	4/15 7/20 8/17	鶴心寮のアフターを視野に入れた取り組	学童３～５名に継続的に実施

（学童）	9/21　10/21 11/18 12/16 2/15　3/15	みとして、暴力防止プログラムを実施	
（オレンジリボンキャンペーン）	11/3（イオンモール） 11/25　（福田公園）	倉敷市のキャンペーンに参加	
クリスマス会	12/4	地域の児童、保護者に季節の行事を体験してもらう。	児童 15 名、保護者 15 名 合計 30 名の参加者があった。川崎医療福祉大学との共催で、学生 15 名が企画運営に加わった。

4. 保護者（家族）との交流事業

特記事項なし

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	0件
意見・苦情	未対応0件	0件
事故	発生0件	0件

上記を受けての具体的改善活動

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

＊３歳児健診・・・毎月
＊水島児童館出張相談・・・毎月２回
＊児島児童館出張相談・・・毎月１回
＊子育て地域貢献（清掃活動）　12/3、1/7
＊すきっぷ教室・・・・・・毎月１回
＊わんぱくキッズ　　9/25
＊育メンひろば　　1/19

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
該当者なし	

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・ ・ ・事業所の円滑な運営のために、部下とのミュニケーションはもとより、上司との密なる連絡調整を図るよう努める。上司への報告・連絡・相談を意識して行えるようになった。 ・専門業務を責任を持って遂行するとともに、他の専門職種との連携を密にし、よりよい支援が行えるようにする。専門業務をより明確に自覚し、業務に取り組むことができるようになった。 ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ ・ ・ ・

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
五法人研修会	6/15	森安、橋本	橋本発表
実践研究発表会	1/20	森安、橋本、新谷	

施設体験	2/5	森安	
岡山県保健福祉学会	1/28	橋本	発表
【組織性関係】			
（一般職）	7/28　、12/22	新谷	
〃　（リーダー・キャップ）	6/23　、11/10	橋本	
〃　（サブマネ・チーフ）	6/1　、10/20	森安	
リスクマネジメント研修	5/17	森安	
リスクマネジメント研修	9/14	橋本	

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
障がい児療育・教育研究会	6/1　7/11　8/3	橋本	倉敷市のネットワーク作りについて理解できた。
全国児童家庭支援センター実務者研修	5/21~5/23	新谷	専門性の向上に成果があった。
里親関係機関研修会	6/1	森安	里親についての理解が進んだ。
大高小学校通級指導教室公開	6/25	全員	通級指導教室の理解ができた。
第五福田小学校通級指導教室公開	7/5	全員	通級指導教室の理解ができた。
社会的養護が必要な子どもたちを考えるフォーラム	7/21	森安、新谷	社会的養護が必要な児童についての理解が深まった。
児童虐待防止研修会	8/8	全員	児童虐待防止についての理解が深まった。
児童福祉司任用資格取得指定講習会	9/4 9/6 9/11 9/13	森安、橋本、新谷、秀平	児童福祉司任用資格の取得は不可。専門性の向上には成果があった。
「こんにちは赤ちゃん事業」訪問援助技術研修会	9/18	橋本、秀平	専門性の向上に成果があった。

岡山県基幹的職員研修会前期①	9/18	橋本	質の高い研修で専門性の向上に成果があった。
児童虐待防止に関する研修	9/27	全員	虐待についての理解を深めることができた。
岡山県基幹的職員研修会前期②	10/5	橋本	質の高い研修で専門性の向上に成果があった。
子どもの虹・虐待アドバンス研修（島根県）	10/18,10/19	橋本	質の高い研修で専門性の向上に成果があった。
岡山県基幹的職員研修会前期①	11/1	橋本	質の高い研修で専門性の向上に成果があった。
県里親フォーラム	11/17	森安、新谷	里親についての理解を深めることができた。
要保護児童対策地域協議会関係職員研修会	11/30	森安、橋本、秀平	事例を取り上げての実際的な研修で、具体的に虐待への対応について学ぶことができた。
岡山県基幹的職員研修会前期②	12/3	橋本	質の高い研修で専門性の向上に成果があった。
子育て支援フォーラム	1/19	全員	専門性の向上に成果があった。
中国・四国地区児童家庭支援センター協議会総会・研修会（香川県）	1/30 1/31	森安、橋本、新谷	香川県が当番で実施した。来年度は広島県で開催される。
倉敷フォーラム	2/2	森安、新谷、秀平	障害のある方、見守る家族の方の話を聞くことができた。
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

特記事項なし

8. 防災安全衛生活動

＊4/17　　消防設備点検　　（株）でんでん
＊6/8 6/11　　日赤救急法受講　　全員
＊11/9　　避難訓練　　（消火訓練、利用児・者の誘導、模擬通報訓練）
　　きらり水島児童８名、児家セン・きらり水島職員 10 名参加
＊10/23　　消防用設備等保守点検（株）でんでん
＊9/24　　「緊急対応について」福田看護師より全員受講
＊11 月　　インフルエンザ予防接種　　全員
＊3/29　　消防訓練（初期消火模擬訓練、、119 番模擬通報実施）
　　きらり水島子ども６名、児家セン・きらり水島職員５名参加

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

特記事項なし

10.その他特記事項

特記事項なし

11.総括及び次年度の課題

開設から３年目が経過し、地域や関係機関などに児童家庭支援センタークムレの存在や役割をかなり知っていただくことができたと思われる。相談件数の総数は平成２３年度より１３７件増加ということで、ある程度、増加傾向は落ち着いてきたように思われる。職員の相談支援の技術については少しずつ向上し、より困難な相談に対応できるようになってきた。児童相談所からの指導委託が今年初めて２件入ったことは、相談支援の力量が増し、児童相談所からの信頼を得た結果であると思われる。

今後の課題としては、より地域に根ざした活動を行い、児童家庭支援センタークムレをより身近なものとして地域の方々に意識してもらえるよう、地域へのより積極的な働きかけが必要になると思われる。働きかけとしては、さまざまなことが考えられるが、地域の保健師等との連携を深めていくことが重要で、効果的であると思われる。

また、人材育成という面から、職員の研修が大きな課題であると思われる。質の高い相談支援を行っていくために、継続的に効果的な研修を行うことが必要である。

cumre クムレ

平成24年度事業報告書

【事業所名：　小ざくら園　　】【事業所責任者:　物部純子　　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

子育てを支えていくために、親を支援していくことはとても大切なことである。発達について受け入れられない親よりも、発達に遅れがあるのかないのかにもわからない親が多かった。小ざくら園は親に子どもの姿を知ってもらうことから始めている。

子どもとの関わり方が下手な親、声かけが下手な親、一緒に遊べない親、子どもを愛せない親、虐待ケース、保護者の発達障がい等、さまざまな親がいるが、どの親も我が子を育てていかなければならない。我が子を守っていかなければならない。

子どもの今・未来を支えるために、親の今・未来を支えるために、小ざくら園は親の教育、親の精神の安定を支えていくことが大切になる。発達支援はもちろん大切ではあるが、親が子どもの発達と向き合うためにも、まずは親自身の心の安定を図っていく必要がある。

小ざくら園は子どもの相談だけではない。親は自分の話も聞いてもらいたい。自分のこと、家庭のこと、夫こと、姑のこと等、いつも子どものことだけを考えているのではない。愚痴を吐き出す場所がない、人がいないから、小ざくら園で話すのだと思う。しかし、その気持ちを吐き出さなければ子どもにあたってしまうかもしれない。虐待につながるかもしれない。

一人では子育てはできない。しんどかったり、一人になりたかったりするときに支えてくれる人がいて、成長を感じ合える仲間や一緒に楽しみや喜びを感じてくれる人がいて、悩んだ時に相談できる頼れる人がいてほしい。

母子支援プログラムは、子育てを支えるネットワークづくりだと思う。小ざくら園はいつかは終了する。終了後も家族を支えられるように、今を支え、未来につなげたい。母子支援プログラムは、安定した心で子どもと関われるために、子どもを通して母の教育を行い、子どもの姿を正しく捉え、子育てを楽しめるものであってほしいと思っている。

次年度からの親子プログラムが親子を支える力となれるものとなってほしい。

<u>母子支援プログラムの充実についての振り返り</u>

・保護者が集える場所を作る。

保護者が仲良くなれる雰囲気を作る。

→小ざくら園の親だからこそ、一緒に悩みを共有できたり、気軽に相談できたりするのだと思う。せっかく知り合うことのできた機会を広げ、深めていくために、今後も保護者が集える場所や雰囲気を作っていきたい。

・父参加のための雰囲気作り（毎週土曜呼びかけ）→実践研究で取り組んだ。多くの父親がさんかし、平日にも参加する父親が多く増えた。家族を支援していくためには、母親だけではいけない。家族みんなで子どもを支えていくためにも、療育に一緒に参加し、子どもの姿を知り、母親の大変さを知り、家族が一つになって協力していけるように今後も父親参加を増やしていきたい。

・懇談の充実（計画的に実施、全児年一回以上）→障害理解、保護者の精神安定支援

年に数回、時間をかけて懇談に取り組んでいる。大切な今だからこそ、親の気持ちに寄り添っていきたい。
・保健師との連携（見学時の保健師同行）→専門相談員、保健師とのつながりを密に図ることで、いろいろな視点で子どもや保護者を支えることができる。今後もつながりを大切にしていきたい。
・障害理解のための各種勉強会実施ＳＴ，ＯＴ，ペアトレ（計画的に実施）
　→障がい理解を深めるために勉強会を行っている。今後も継続して行ない、親の理解を深めたい。
・ペアレントトレーニングを計画的に実施
　→ペアトレを通して、子育てを支える。今後も継続して行っていきたい。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
機関連携の充実	保健師や専門相談員とのつながりが広がり、情報量が多くなり、支援の幅が広がった。
人材の育成	勉強会の実施、他事業所見学等を通して、支援の幅が広がった。
保護者との協働関係の強化	父親参加のための実践研究に取り組むことで、父親の参加が増えた。また、父親を通しての子どもの姿を知ることもでき、支援の幅が広がった。
提案制度の充実	小規模事業所のため、書面をあげず、解決策を見つけてしまうことが多かった。そのため、朝礼ノートには記載が残っても、シートには記載されていないことが多かった。今後はシートを活用していきたい。

（説明）
育児機能が低下してきていることもあり、母親だけでなく、家族を含めた支援体制をしっかりとしていきたい。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
支援の充実	専門相談員が入ることにより、一緒に今の療育を振り返ることができる。 職員間で話し合いをする機会を月一回設け、現状を振り返ることができた。計画的にすすめる中で、知識が深まり支援が充実していったと思う。

機関連携の充実	上記と同様
人材の育成	上記と同様

（説明）

意識して支援をすることと、意識なしで支援をしていくでは、支援の仕方が変わってくるため、職員の意識を高めながら、今後も取り組んでいきたい。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	3	5.5	23	23	423	423	0
5月	3	5.5	24	23	426	509	+83
6月	3	5.5	26	26	481	598	+117
7月	3	5.5	25	24	463	532	+69
8月	3	5.5	24	23	411	496	+85
9月	3	5.5	23	23	435	456	+21
10月	3	5.5	26	26	494	508	+14
11月	3	5.5	24	24	456	455	+1
12月	3	5.5	23	23	418	467	+49
1月	3	5.5	22	22	440	487	+47
2月	3	5.5	22	23	483	495	+12
3月	3	5.5	24	24	504	499	−5
合計	3	5.5			5434	5925	+491

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

小ざくら園で多くの親子をフォローしているため、保護者をフォローするために職員が常時６人程度は必要と思われた。小ざくら園だけでは限界があるため、親子を支える機関が増えていくこと、そして、親子を支えられる職員を育成することが大切だと感じた。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
季節を感じる行事	第１木曜日	季節の制作や記念写真、コーナー遊びを親子で行う。	継続参加が増えた。
リトミック	第２木曜日	広い会場で音楽に合わせて身体をのびのびと動かす。	継続参加が増えた。
親子遠足	第３木曜日（４～１２月）	水島中央公園や電車に乗って倉敷駅など、園外へ親子で出かける。	外出がなかなかできない人も、この機会に参加して外出経験する人が多かった。
親子クッキング	第３木曜日（1～3月）	親子で簡単に作れ、家庭でもできるヘルシークッキング。	家庭でも作ってみる人が増え、レシピを覚え、継続して参加する人が多かった。
はは会	第４木曜日（４～１２月）	親交流を図る。	普段なかなか話しができないので、この会を通して母同士のつながりが広がった。
保護者向け勉強会	第４木曜日（1～3月）	子育てをする上での発達や小児の病気についての知識を深める。	専門職員からの講義をうけて知識を深められ、継続して参加する人が多かった。
小ざくら保育園合同 秋まつり	11/17	地域間交流	水島地区での開催だったので、参加しやすく、多くの参加者があった。

4. 保護者（家族）との交流事業

・はは会（月１回）実施していくことにより、保護者同士のつながりが広がった。

・秋まつりを保育園・児童デイで行った。小ざくら園・きらりの利用児や保育園児も多く参加した。保育園の保護者にも児童デイを知ってもらうよい機会となった。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	・他児とのぶつかり ・ドア、荷物置き場の扉でのの指つめ ・ドアにぶつかりガラスにひび
意見・苦情	未対応０件	・室内の乾燥による咳込み ・親子通園の意味を知りたい
事故	発生０件	

上記を受けての具体的改善活動

事業所内の話しあいの中で解決してしまうことが多く、書面であげることが少なかった。今後は書面を活かしていきたい。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

秋祭りなどを企画しているが、なかなか積極的に参加することは難しかった。
保育園との合同のため、連れていくことも大変な親も多いと遠慮する保護者も多い様子だった。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
該当なし	

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・事業計画を意識することが大切だと感じる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・目標管理活動 日々の業務の中で計画的に進めていくことが難しい時もあったが、ほぼ計画に沿ってすすめていけたと思う。午後も業務内でできる目標を立て、実践していきたい。 ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ ・ ・ ・ ・ ・

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
階層別研修	年３回	物部純子 大本詩織 小坂彩	キャリアアップのために、知識技能を身につけている。
事業部間交流	年３回	大本詩織 小坂彩	(学園、乳児、幼児、きらり各１回ずつ)
【組織性関係】			
実践研究発表	年１回	物部純子 大本詩織 小坂彩	日常の中の課題について、目標を持って計画的に遂行し、成果も上がった。
救急蘇生法	年１回	物部純子 大本詩織 小坂彩 鈴木小夜子 有本道子 藤井妙子 田村千文 山本恵子	日本赤十字社救急蘇生法を学び知識が深まった。
発達支援事業部学習会	2/11	物部純子 大本詩織	出張報告等を通して知識が深まった。
第三者評価勉強会	11/5	物部純子	第三者評価の仕組み・考え方について学んだ。
リスクマネジメント研修	5/17 ・ 6/25・ 9/14	物部純子	リスクマネジメントの考え方について学んだ。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
即実践講座	毎月	大本詩織 小坂彩	発達障害の特性と対応について学んだ。
くらしき発達障がい支援フォーラム	11/１７	大本詩織 小坂彩	発達障害について学んだ。
【組織性関係】			
心身障がい児保育関係事業連絡会	年３回	物部純子	障がい児認定園との交流を行い、情報交換を行い、発達障害の知識を深めることができた。
CDS ジャパン施設長研修	2/22～23	物部純子	全国における児童発達支援の動きや状況を学ぶことができた。

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

小ざくら保育園の防災計画に準ずる（月１回）火災、地震の想定で避難訓練を実施した。会を重ねるごとに、見通しが持て、スムーズに避難することができるようになっている。職員自身も火災と地震の対応がわかるようになった。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

増築エリアの温度調節ができないため、次年度冷暖房を購入する。

10.その他特記事項

年度の後半でバタバタと移転の話になり、親にも不安を与えたと思う。もう少し早く説明をしてあげられたらよかった。

また、職員も不安が大きかった。

次年度スタートしても、今だにバタバタしているので、もう少し準備期間がほしかった。

１１.総括及び次年度の課題

　年々人数が増え、待機児が早い時期から始まってしまう。小ざくら園のような親子で通える機関が増えていくこと、そして、親子を支えることのできる力量を持った職員が増えていくことを今後も期待したい。

　親の育児能力の低下も感じる。療育機関に任せっきりでもなく、一緒に考えていくことのできる機関であってほしいと思う。そのためにも、親を巻き込んだ療育のスタイルを作っていきたい。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：きらり児島】【事業所責任者:　　岩佐　朋　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

昨年度に引き続き、保護者を巻き込んだ支援として保護者向け勉強会や、ペアレントトレーニング等を実施した。保護者に伝える為には職員自身も研鑽を積まなければならず、職員のスキルアップにも繋がるよい機会であったと思う。

療育に関しては、相談支援事業がスタートし、相談支援専門員による利用者のモニタリングが入ることで、助言をもとに日頃の療育の内容や意味を見直すきっかけとなっている。今後も、療育の質の向上には職員間で協力し、取り組んでいきたい。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
専門職との連携	保護者向け勉強会、ペアレントトレーニングの実施
訪問支援の充実	家庭訪問（毎月）、園訪問（月 1～2 件）実施
保護者向け勉強会の実施	年３回実施
ボランティア受け入れ体制の整備	受け入れマニュアルの作成（中庄→各事業所へ発信）

（説明）

専門職の力を借りながら、保護者・職員の学びを深めることができつつある。今後は外部機関との連携（園訪問等）においても、協力が得られればと考える。ボランティア受け入れマニュアルについては、今後実践する中で見直しをしていく必要がある。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	家庭訪問（毎月）、園訪問（月 1～2 件）実施
利用者満足の向上	自己評価の実施（第三者評価実施に向けて）
明るく活気ある職場作り	懇親会の実施

（説明）

訪問支援については、件数としては多くないが継続して訪問するケースは増えつつある。今後も保護者に呼びかけて、連携へと繋げていきたい。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	4	4	240	240	240	200	−40
5月	4	4	240	240	240	217	−23
6月	4	4	260	260	260	234	−26
7月	4	4	250	250	250	217	−33
8月	4	4	250	250	250	248	−2
9月	4	4	230	230	230	254	+24
10月	4	4	260	260	260	289	+29
11月	4	4	260	260	260	273	+13
12月	4	4	230	230	230	245	+15
1月	4	4	230	230	230	251	+21
2月	4	4	230	230	230	247	+17
3月	4	4	240	240	240	265	+25
合計			2900	2900	2900	2940	+40

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

年度当初は、定員を満たさない状態であったこと、複数回利用児が少なかったこともあり、計画未達成の月もあったが、徐々に契約者数が増加し、欠席時の振り替え、複数回利用等を働きかけ、実績を満たすよう配慮した。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
ペアレントトレーニング	年２クール（6～7月、10～11月）	各事業所より保護者・職員が参加し、講義・グループワークに取り組む	第１クール２名、第２クール１名参加
保護者向け勉強会	年３回	専門職による勉強会	親子療育対象者参加
小ざくら秋祭り	11月17日	小ざくら保育園行事に参加	職員、利用者家族の参加

4. 保護者（家族）との交流事業

＊家族見学週間

毎月実施（第３もしくは第４週目頃）。新規利用児については利用開始から２ヵ月程度経過してから（事業所に慣れてきた頃）、就学前児については就学児懇談の際に見学をしていただいた。

＊保護者向け勉強会

事業所内外の専門職（臨床心理士、歯科衛生士等）による講話の実施。

＊ペアレントトレーニング

年２クール、きらり・小ざくら園より希望者を募り、講義・グループワークを、臨床心理士の指導のもと、各事業所チーフが実施している。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	約15件。部屋・玄関からの飛び出し、子供同士のトラブル、玩具の破損等。
意見・苦情	未対応0件	無し
事故	発生0件	無し

上記を受けての具体的改善活動

職員配置の見直し、プレイエリアの環境設定の変更、玩具使用前の点検等について、職員間で周知・共通理解を図るようにした。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

＊小ざくら保育園秋祭りへの参加

きらり・小ざくら園職員が展示コーナーや模擬店の一部を担当。

＊清掃活動

散歩でよく行く公園の清掃を行った（不定期）。

＊1 歳半健診・3 歳児健診への職員派遣（毎月）

＊すきっぷ教室への参加（1～3 月）

＊児島地区母子連絡会への参加（12 月）

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
集団療育・個別療育について	利用者個々の発達について理解すること、活動の意味・ねらいを理解することについて留意した。表面的に行動を捉えていたり、ルーチンワークを流すのみになっていたりすることもあったが、徐々に理解が深まり、自分で考えて行動することに結びついてきていると感じられる。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ	【一般職（他の階層は該当者無し）】 ・目標管理活動 →業務に直結したものは達成度も高いが、自己啓発的な、本人の意識により取り組み具合が左右されるものは、進捗が見られにくい。 ・外部研修 →即実践講座の内容は、日常の療育に反映されていると感じられた。その他は、計画的に外部研修に参加することがあまりできていない。今後は、本人の意向を取り入れながら個々の研修計画をより具体的に立てていくことが必要であると考える。

研修計画

(1). 内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幼児安全法講習	６月	全職員	救命法について学ぶ
事故対応研修会	９月	全職員	緊急時の対応について学ぶ
事業部学習会	２月	井関・山田・水川・奥田	出張報告等
【組織性関係】			
階層別研修	各階層年２回	井関・山田・水川・奥田	各階層に求められる役割の理解を深める
リスクマネジメント研修	５・６・９月	井関・山田	リスクマネジメントの考え方について学ぶ
五法人研修	６月	井関	
第三者評価勉強会	１１月	井関	第三者評価の仕組み・考え方について学ぶ

(2). 外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
即実践講座	毎月	山田	発達障害の特性と対応について学ぶ
障害程度区分認定調査員研修	５月	井関	障害程度区分の流れ。方法について学ぶ
くらしき発達障がい支援フォーラム	１１月	山田・水川・奥田	発達障害について学ぶ
児島地区母子保健連絡会	１２月	井関	地域内での情報交換
【組織性関係】			
CDS 施設長研修	６月	井関	
中四国幼児通園施設職員研修	１１月	井関	

③ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

＊消防設備点検
＊避難経路の確認

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

特になし

10.その他特記事項

特になし

11.総括及び次年度の課題

今年度は大きなトラブルもなく終えることができている。今後は現状維持に留まらず、より良いサービスの提供に向けて、職員間で意見を交わし、実践していくことが大切である。第三者評価受審結果からのサービスの質の向上に向けての取り組みや、職員個々に合った研修計画を策定・実施することによりスキルアップを図ること等が、次年度の課題となると考える。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：　きらり倉敷　】【事業所責任者:　中西　裕子　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

制度が変換する時期であることから、職員にとっても保護者にとっても、日々新しい制度を確認しながらすすめてきた一年でした。制度についての詳細を知る良い機会であり、学びとなりました。

昨年度に引き続き、保護者との協働関係を強化する支援としてペアレントトレーニングや保護者向け勉強会、座談会等を実施しました。保護者に実際に取り組んでいただいたり、自宅での実践を紹介していただいたりすることは、他の保護者の方の刺激となったり、達成感に繋がったりしているようでした。今後も定期的に継続して取り組みたいです。

療育に関しては、キャップ会やチーフ会における情報交換、相談支援専門員による利用者のモニタリングの機会を通して、既存の療育の意味や内容を見直す良い機会となりました。今後も、療育の質の向上には職員間で協力し、取り組んでいきたいです。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
支援の充実	母子療育枠充実の為、６月から偶数月に職員間で話し合いを実施
機関連携の充実	家庭・園・学校への訪問実施
人材の育成	キャップ会実施（毎月１回）
保護者との協働関係の強化	ペアレントトレーニング、保護者向け勉強会、懇談の実施
普及・啓発活動の充実	行事への参画、ホームページの活用

（説明）・保護者へ療育についてより理解していただく為、また導入部分でもある親子療育を充実させるため、職員は小ざくら園や倉敷学園にて実習を行いました。実習で得たことを事業所内で復命し、親子療育へ活かしていきました。

・子ども達を取り囲む機関との連携を図ることで、どの場面でも子ども達がサポートできる体制を強化する為に、園訪問・学校訪問・リハビリ見学を実施しました。その後も情報を共有するために訪問記録を作成し、園や保護者へ送付すると同時に、連携ノートを作成し、園とのやりとりを継続的に行いました。

・中村キャップが産前産後休暇に入る９月まで、月に１回発達支援事業所におけるキャップ会へ参加しています。キャップ会では、他事業所での取り組みについて情報共有し、

個別療育の課題や取り組みに関してどのように現場で取り組むかについて話し合いを行いました。

・保護者との協働関係を強化するため、前期に児童発達支援事業所とセンターが２か所に分かれてペアレントトレーニングを行いました。保護者の方には、２週間に１回集まっていただき、家庭での子どもの様子を客観的に観察・記録を実施していただきました。関わり方に自信が少し持てたと実感された保護者の方もおられました。

・ホームページを毎月１回の更新を行いました。きらりで行っている療育を具体的に載せることで、地域の方々へ知っていただくように努めました。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	家庭・園・学校への訪問実施（１回の訪問のみで終わりにならないようにする） 園訪問：１１　件　　学校訪問：１件 リハビリ見学：１件 園から見学：３件　　学校から見学：１件 連携ノート実施：７件
利用者満足の向上	利用者アンケートを実施 事前アンケート：２回実施 感想アンケート：３回実施
専門職の活用	保護者向け勉強会・座談会を依頼 福島チーフ（支援センター）：『特性について』
人材の定着化	キャリアパス制度の活用 OJT・目標管理活動を計画通りに実施。
人材育成	事業所間実習実施 ７/２小ざくら園（肥塚）８/２１倉敷学園（肥塚）実施

（説明）・地域との連携を図っていく為、訪問後には必ず訪問記録を作成し、得た情報、きらりで取り入れたい課題等を保護者や園（病院・学校）等と共有するように努めました。また、１回の訪問で終わりにならないような関係作りを行う為、『連携ノート』を活用し、園ときらりにおいて継続したやりとりを行いました。

・就園や就学、引っ越し等により他事業所へ移行する機会には、引き継ぎ書類を作成したり、実際に引き継ぎを行ったりすることにより、新たな環境においても継続した支援が行われるように努めてまいりました。

・勉強会や座談会実施前には、保護者へ日程やテーマの希望をアンケートにより募った上で実施しました。また、実施後には、感想をアンケート形式により毎回聞き取りを行いました。実際に取り組まれている保護者の方による体験談や実践事例についての講話や、サポートブックを作成する取り組みは、満足度が高かったようでした。

２．職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	４	5.8	２４０	24	240	251	＋１１
５月	４	5.8	２４０	24	240	234	－７
６月	４	5.8	２６０	26	260	264	＋４
７月	４	5.8	２５０	25	250	251	＋１
８月	４	6.8 病休１	２４０	24	240	247	＋７
９月	４	7.0 病休１	２４０	23	230	243	＋１３
１０月	４	6.0	２５０	26	260	252	－８
１１月	４	6.0 病休１	２５０	24	240	235	－５
１２月	４	6.0 病休１	２３０	23	240	227	－１３
１月	４	6.0	２３０	23	230	232	＋２
２月	４	6.0	２３０	23	230	207	－２３
３月	４	6.0	２４０	25	240	241	＋１
合計			２９００	290	2900	2884	

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）・インフルエンザ等の感染症や行事等により、秋～冬季において欠席が増加しました。職員体制上の理由により新規の受け入れは困難と考え、振り替えや追加の利用を募りましたが、実績を補うことは困難でした。
今後は、契約者を増やすこと、祝日開所により実績を補っていくように努めたいです。

・今年度は、職員の入れ替わりが多く、同時に体調不良等の原因により、安全に療育を運営する状況が保障できない為に１日閉所しています。３月に開所することで開所日実績は補っています。今後は、職員の体調管理に配慮したいです。

2. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
家族見学週間	毎月第３～４週目	保護者に療育の様子を参観していただく。	療育についての理解を深めてもらう為 コミュニケーションを図る為
就学児個人懇談	５～6月【全員対象】 ９～１１月【希望者】	保護者へ就学までの流れを説明、就学に対する意向や悩みの聞き取りを行いました。	就学についての不安を軽減し、進路選択できるようにする為
座談会	7/２０ １１/３０ ３/１５	テーマを決めて実施。保護者同士での情報交換、親睦を深めました。	保護者同士のつながりを持てる場を作る為
保護者向け勉強会	6/２２ １１/３０ ３/１５	・意見・要望を基に勉強会の内容を検討し、実施しました。 ・専門職（心理士）による勉強会も実施しました。	保護者に障がい・育児についての知識を得てもらう為
小ざくら園秋祭り	１１/１７	小ざくら園秋祭りへ参加しました。	きらり倉敷利用児２名参加。
ペアレントトレーニング	第１クール（6～7月）	各事業所より保護者・職員が参加し、講義・グループワークに取り組む	きらり倉敷より２名参加

3. 保護者（家族）との交流事業

※ペアレントトレーニングの実施（年２クール）

・年２クール開催。きらり・小ざくら園より希望者を募り、講義・グループワークを、臨床心理士の指導のもと、各事業所チーフが実施しています。

・きらり倉敷では前期に年中児の保護者１名、年長児の保護者１名が参加されました。保護者が目標を決め、取り組んだ結果を一緒に振り返っています。情報を共有したり、日々の療育を振り返ったりする良い機会となりました。

※座談会実施

・保護者から話し合いたいテーマを募り、テーマにそって実施しています。時にはお茶菓子を用意してリラックスした雰囲気の中で、情報交換をしたり、保護者同士の交流を深めたりしました。

※就学児懇談実施

・年に２回実施。５～６月は全員対象。９～１１月は希望者のみ実施しています。椅子に座り、ゆっくり話し合う機会があることで、保護者からさまざまな情報を聞き取ることができました。

※家族見学週間実施

・毎月実施（第３もしくは第４週目頃）。新規利用児については利用開始から２ヵ月程度経過してから（事業所に慣れてきた頃）、就学前児については就学児懇談の際に見学をしていただきました。

4. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	約３３件。 コミュニケーションの未熟さ等が原因による他傷行為、転倒等。
意見・苦情	未対応０件	約１３件。 印鑑を預けられているという誤解、開所時間や運営方法の変更に対して等。
事故	発生０件	０件。

上記を受けての具体的改善活動

プレイエリア環境の再構造化、終礼等を通して職員間での情報共有の徹底、KYT 研修の実施。ヒヤリはっと等の書類を活用することで原因や対策について整理して考え、共通理解を行いました。

5. 地域貢献活動・地域との交流事業

※園・学校等への訪問

保護者の要望を受け、園や学校の了承の基で実施。

※小ざくら保育園秋祭りへの参加（１０月）

きらり・小ざくら園職員が展示コーナーや模擬店の一部を担当。

※ホームページの定期的な更新による情報発信（毎月）

※川崎医療福祉大学実習生受け入れ（８～９月）

実習受け入れ担当：中村キャップ（社会福祉士）が産前産後休暇に入る関係により、
受け入れ不可能となりました。きらり玉島へ受け入れを依頼しています。

6. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
療育（集団・個別）	まずは、療育や障がいに対する基礎的知識を伝えています。その上で、発達検査の用紙を用いて発達段階やそれに応じた療育について、その都度伝えました。同時に、さまざまなケースに対してその都度話し合う時間を設けたり、情報を与え過ぎない為に本人からの発信を待ったりするように配慮しました。個々の能力により、進捗率は大きく変化し、〇が付きにくい現状もありました。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	【キャップ】 ・目標管理活動 →初めてキャップとしての役割を担う為、まずキャップの役割についてチーフと共通理解を行いました。役割や目標が明確になることにより、役割を意識した上で職員へ意見や提案を発信する等、意欲的に行動しているように感じました。 【一般職】 ・目標管理活動 →本人の意識・意欲により取り組み具合が左右されるものは、進捗が見られにくかったです。その為、個々により、定期的に進捗状況の確認を行うことや、取り組む過程においての対策を一緒に考える作業は必要であると感じました。 ・即実践講座 →障がいや発達段階、療育に対する知識が不足していると感じました。講座に参加することで、知識や理解を深めるきっかけとなっていました。今後は、“人に伝える”機会を意図的に設けることで、自分の中に落とし込むことや、その知識を普段の療育に繋げていきたいです。 【新任】 ・OJT →個々人により、基礎的な知識量や学ぶペースは異なる。今年度に関しては、人員不足の環境により現場の多くの業務を任せ、即実践的に取り組んでもらうことが多く、負担が大きかったと思われる。今後は、OJT を活用することにより、「見る」機会や「実践する」機会を個々人のペースに合わせて取り入れることで、人材育成に取り組んでいきたいです。
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー ・チーフ	・該当なし ・該当なし ・

③研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幼児安全法	６/１・８・１４	全職員	救命法について学ぶ
事故対応研修会	１０/２	中西・肥塚・内田・瓜生・岡・石田	緊急時の対応や感染症について学ぶ
実践研究発表会	１/２０	中西・肥塚・畑野・瓜生	業務の中で実践したことを発表する
事業部学習会	２/１１	中西・肥塚・畑野・瓜生	出張報告を聞き、知識を深める
事業所間実習	7月小ざくら園 ８ 月倉敷学園	肥塚	他事業所の取り組みを見学・実習することにより、本事業所の療育を改めて見直す
			一般職員
【組織性関係】			
階層別研修	各階層年 ２回 （職員）は、１ 回ずつ参加	中西・（中村）・肥塚・（内田）・（瓜生）	各階層に求められる役割の理解を深める
リスクマネジメント研修	5/17 ・6/25・9/14	中西・肥塚	リスクマネジメントの考え方について学ぶ
第三者評価勉強会	11/５	中西	第三者評価の仕組み・考え方について学ぶ

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
即実践講座	毎月	肥塚・畑野	発達障害の特性と対応について学ぶ
倉敷発達障がい研究会 第５回研究会	６/２	中西	倉敷市の発達障がい児を取り巻く環境の現状を知る

くらしき発達障がい支援 フォーラム	11/17	内田・瓜生	発達障害について学ぶ
【組織性関係】			
CDS ジャパン施設長研修	2/22・ 2/23	中西	全国における児童発達支援の動きや状況を学ぶ

③ その他（自己啓発援助）

7. 防災安全衛生活動

＊消防設備点検

＊避難経路の確認

8. 施設設備工事及び高額什器備品購入

特になし

10.その他特記事項

特になし

11.総括及び次年度の課題

今年度は、制度改正や管理者の交代、職員の体調不良、職員の流動的な変更等により、事業所自体が軌道に乗り始めたのは年度末でした。その為、職員間で常に話し合い、保護者の意見を聞きつつ、協力を得ながら運営した状況でした。

その中で、嘱託 B 職員へは書面にて意見を伺い、それを用いて正規職員同士で話し合う機会を多く設けたこと。話し合ったことを嘱託 B 職員にも書面や口頭により必ず周知するように配慮したことは、正規・嘱託を問わず、職員一人ひとりが療育や子どもについて考える良いきっかけとなりました。それは、利用児一人ひとりの情報を共有することができると同時に、統一した支援の必要性へ職員自身が気づくことへも繋がりました。

実績に関しては、管理者としての管理力不足、不安定な職員体制から契約者数を増やすよりは安定した運営を選択した結果、未達成となっています。今後は、今年度の経験を活かし、年度当初に契約者数を増やすことにより、余裕をもって運営していきたいと思います。

また、特性が顕著に見られる利用児や療育や障がいに対する知識の高い保護者の増加により、職員のスキルや評価する視点、保護者への説明力等を求められる場面が多かったです。その為、今後は職員へ学ぶ機会を設けることにより、知識やスキルを向上に努める必要があると考えます。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：きらり玉島　　】【事業所責任者:北村康代　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

制度の変更時期に伴い、時間の調整や仕事の分担等を意識して事業にあたった１年であった。新チーフという事もあり、覚えていかなければならない事が多く、制度の知識もしっかり蓄えておかなければならないことを実感した。

昨年度に引き続き、保護者との連携を図るため、支援方法の統一を図るためのペアレントトレーニングの実践や園や学校とのやりとりを密にしていきながら支援の方向性を統一したりした。座談会に関しては、かたつむりの会を毎月実施しているためか、保護者の人数を確保することが難しかったため、次年度の課題としたい。

療育の現場では、キャップ会を実施する中で、きらりで統一した支援方法を模索しており、今後も必要であると考える。また、個別課題を立てるためのアセスメント方法を検討し直したり、そのアセスメント方法を実施したりする中で、職員の子どもを見る目を養うことが今年度に引き続き必要であると思う。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
機関連携の充実	健診への派遣（玉島１歳半健診、真備１歳半健診、玉島３歳健診）、随時訪問支援実施、必要に応じて連携機関と電話での連携実施。
人材育成（働きがいのある職場作り）	毎月キャップ会の実施、新人職員による事業所間交流（倉敷学園 11 月、12 月の２日）、キャリアパス制度の実施。
保護者との協同関係の強化	かたつむりの会へは２ヶ月に１回参加した。座談会は年２回実施した。

（説明）

・健診への派遣は随時行った。その中で、保健師さんと情報を共有したり家庭での困り感や家庭の事情等を話したりする機会をもった。

・新採用職員に対しては、倉敷学園での実習を２回行った。目的としては倉敷学園に行くお子さんへの支援の方法を学んだり、重度なお子さんへの関わりかたを学ぶ機会とした。

・かたつむりの会は随時参加をし、地域での情報共有を行なった。その場に保健師さんも同行していただく事により、保健師さんからの情報やかたつむりの会を健診に来られた方へ広報する目的で、案内も作成することにしている。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	随時訪問支援、電話連絡を関係機関と行った。 園・学校訪問…８件、園からの見学…５件
利用者満足度の向上	職員全員自己点検実施。
専門職の活用	勉強会では２回臨床心理士からの勉強会を実施した。「てとて」とは相談支援での利用児見学やモニタリングを通して助言があった。
人材育成・明るく活気ある職場作り	キャリアパス実施、毎月キャップ会実施。

（説明）

・訪問支援では日程調整をした後、当日の様子を保護者と園、学校とに書面にて報告した。また、子どもの様子を見終ったら、園長先生や担任の先生とも話をし、きらりでの様子もその都度伝えるようにした。

・第三者評価前年度の年に当たるため、職員で再度自己点検を行い、事業所の内容、様子、共有できるもの等を職員同士で話をした。

・勉強会は専門職によるもの、チーフが行うものを実施した。特に専門職が実施する勉強会に関しては、多くの方に参加していただけるよう、きらり玉島、水島で合同で実施している。保護者の方の、勉強意識や知ろうとする意識は高く、今後も専門職の勉強会を行なうことが出来るようにしていきたいと感じた。また、相談支援を通して、子どもの姿を共有することにより、実際の場面で保護者に対して的確に伝えることができるようになってきていることは今年度大きく変わった点であるといえる。

・キャップ会は毎月実施し、各きらりの情報を共有することが出来る場となっている。それに限らず、各きらりが療育の質を高めていくことが出来るよう、個別課題の統一も実施した。今後も療育の質を高めることが出来るような取り組みが必要である。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	４	5.5	24	24	240	258	+18
５月	４	5.5	25	25	240	250	+10
６月	４	5.5	26	26	260	269	+9
７月	４	5.5	25	25	250	262	+12
８月	４	5.5	24	24	250	269	+19
９月	４	5.5	23	23	230	255	+25
10月	４	5.5	26	26	260	265	+5
11月	４	5.5	25	25	240	257	+17
12月	４	5.5	24	24	230	229	-1
１月	４	※4.9	23	23	230	255	+25
２月	４	4.9	23	23	230	258	+28
３月	４	4.9	24	24	240	270	+30
合計	４８	64.2	292	292	2900	3097	＋197

※　１月より正規職員１名異動。

（説明）

職員の欠員がある中で、実績は確保することが出来た。冬場にインフルエンザ等で欠席する児童も少なく、実績の達成につながったと考えられる。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
就学児懇談	5，6月 10, 11 月	就学児の個別懇談 （年２回）	就学についての流れや就学先の把握や子どもの共通理解を深めることにつながった。
座談会	7月6日 2月8日	きらり玉島に通われている親を対象に座談会を行った。	保護者は７月６日　７名、 ２月８日　５名参加。 就学についての困り事や不安事を話す良い機会となった。
秋祭り	11 月 17 日	小ざくら園秋祭りに参加。	職員１名参加し、保護者にも呼びかけた。数名の親子がきらり玉島から参加した。
ペアレントトレーニング	６月～７月 10 月～11 月	１クール５回の中で、講義後にグループワークを実施した。	各１名ずつ参加。ペアトレ後も家庭で実践されている方もおり、家庭で実践するにはよい情報提供が出来たように感じた。
家族見学週間	毎月１週間	保護者に療育の様子を見てもらった。	家庭で困り感を持たれている方に関しては、毎回のようにこられる方もおり、その都度保護者との情報の共有ができる場となった。

4. 保護者（家族）との交流事業

ペアレントトレーニングの実施

・きらり玉島からは２名参加。家庭での困りごとを解決する糸口になることが出来るような取り組みを実施することができ、その後も保護者自らが実践して下さっており、よい場の提供をすることができた。

座談会

・その場に来られた方に家庭で困っていることや学校でのこと等をありのままに話していただいた。先輩お母さんからのアドバイスは幼児のお母さん方にも好評であった。

就学時懇談（５～６月、１０月～１１月年長全児対象）

・進路を決定する中で、先を見据えながら話し合いを行なった。進路を迷われているお母さん方にとっ

ては何度も話し合いを重ねる中で決定することができ、成果を得ることが出来た。

在宅児懇談（９月）

・保育園や幼稚園に通っていない保護者を対象に次年度の進路について話し合いを行なった。児童発達支援センターに通うことが適切なお子さんに対しては、センターがあることも同時に伝えた。

家族見学週間

・毎月実施。どのご家庭の保護者や祖父母でも見学を受け付けており、父親の参加も多かった。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	１３件 プレイエリアからの飛び出し。等
意見・苦情	未対応０件	３件 状況表の名前の表記に誤りがあった。等
事故	発生０件	０件

上記を受けての具体的改善活動

プレイエリアでのヒヤリハットが多いにも関わらず、プレイエリアの再構造化ができていない現状にあった。そのため、KYT を実施し、危険個所を予測し、プレイエリアの構造化を行なった。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

※園・学校への訪問

保護者の要望により実施。

※小ざくら保育園秋祭りへの参加

模擬店のお手伝い、パネル展示を実施。

※ホームページ毎月更新。

※川崎医療福祉大学実習生受け入れ（８～９月）２名。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
不審者対応	実際に不審者役の職員を不審者に見立て、対応方法を学ぶと共に女性の職場ならではの問題があるため、それに対する備えを実践した。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点） 及びその達成状況について
一般職→監督職	リーダー、キャップ 新任、一般職	[キャップ] ・目標管理活動 初めてのキャップということもあるため、新人育成に焦点を当てて、重点的に取り組んだ。どの時期にどの程度のことを伝えることが良いのか悩みながら、一緒に解決をしながら取り組んだ。 [一般職] ・目標管理活動 個々の子ども達への療育方法を探りながらより良い支援を求めることが出来たように感じる。 [新任] ・OJT キャップや他の職員を見習いながら日々の業務を遂行することが出来たように感じている。自分だけで抱え込んでしまわないように、しっかりと伝えていった。
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・該当なし ・ ・ ・該当なし ・ ・

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幼児安全法・安全法	６月	全員	発作やケガ等、緊急時の対応、蘇生法、AED の使用法について学んだ。
実践研究発表	１月	全員	就学児に対する支援の取り組みについて実践した。
事故対応勉強会	９月	全員	発作やけが等、緊急時の対応について、ロールプレイを通して学んだ。
事業部学習会	２月	全員	出張・研修等の報告により、情報交換と質疑応答を行った。
倉敷学園勉強会	通年	全員（参加できる者）	療育や発達障がいに関わる様々なテーマについて、情報交換と質疑応答を行った。
事業所間実習	年２回	藤森	他事業所の取り組みを見学、実習することにより、支援が偏ることなく、自分の支援を見つめなおすことができた。
【組織性関係】			
階層別研修	研修計画に基づく	全員（各階層ごと）	第三者評価、QC 活動について、講義・グループワークにより学んだ。
リスクマネジメント研修	５／１７ ６／２５ ９／１４	友金、北村	リスクマネジメントの考え方について学んだ。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
即実践講座	毎月	畑野	発達障害の特性と対応について学んだ。
くらしき発達障がい支援フォーラム	１０／１７	友金、藤森	倉敷市における発達障がい児・者に対する取り組みを知ることが出来た。
フレームワーク実践セミナー	７／１５	友金	アセスメントの方法を学んだ。
【組織性関係】			
CDS ジャパン研修	２／２２～２３	北村	全国における児童発達支援の動きや状況を学んだ。

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

年に３回、地震、火災、不審者対策の訓練を行った。
玉島地区の防災マップをもとに、津波等の大災害に備えて避難経路を再確認した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

３月３０日：外壁清掃実施（黒染みが取れない状況になっており、不衛生であったため。）

10.その他特記事項

特記なし

11.総括及び次年度の課題

利用者実績については、年間で計画を達成した。８月に関しては幼稚園が夏休みであることで振替を多く入れることができ、実績の確保が出来た。また、新規利用者も増え、当初の予定よりも目標を達成することが出来た。

今年度は嘱託Ｂの職員の骨折や年度途中での異動があり、職員の変動はあったが、安定した運営をすることが出来た。継続してきらり玉島に勤務している職員が多かったことが、途切れることのない支援をすることが出来た要因であると考えられる。

その一方で、他事業所での取り組みを知る機会がなく、支援が経験によるものに偏ってしまう。そのため、アセスメント方法を見直すと共に、個々に応じた療育を実施していくことが求められてくる。

一人一人の利用者に合わせた支援を実施していくためには、外部の研修に行く機会を設けたり、事業所内で支援の統一化を図るための勉強会やロールプレイを実施したりすることが必要であると感じている。次年度はチーフが主体となって事業所を取りまとめ、勉強会を実施し、知識を深めていくことができればいいのではないかと考えている。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：　きらり中庄　】【事業所責任者:　小山　裕子　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

年度当初、制度が大きく変わったことにより保護者および職員に混乱が予想されたが、適宜、書面等により説明を行っていったことで、スムーズに新制度に沿った事業をスタートできた。

今年度は、特に保護者支援に重点を置いた取り組みを行った。昨年度に引き続きいてペアレント・トレーニングを実施し、４名の参加があった。キャップも参加することで、全５回の講義で学ぶだけでなく事業所でもフォローアップができるように学びの機会を設けた。また、年４回開催の保護者向け勉強会では、保護者者の受容と療育に対する理解の進み具合をもとに、テーマの選定を行った。勉強会および座談会を通し、保護者同士の活発な意見交換や、他の保護者の思いを聞く機会となり、保護者同士のつながりができていったように感じられた。

また、昨年度から引き続き課題となっていたボランティアの受け入れ体制の整備については、実践研究のテーマとして、各きらりの状況や職員の意見を反映した形で体制を整えた。次年度、実際にボランティアを受け入れながら、整えた体制の見直しを行っていくことが課題となる。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
支援の充実	第三者評価に向けての自己チェックを実施し、改善事項について職員で話し合った。改善できる部分については随時改善に取り組んだ。
機関連携の充実	園訪問（年間１３件）、園からの見学受け入れ（年間７件）を行っている。また、園との連携の必要性を感じた場合には職員から提案するなどし、保護者や園から訪問を希望される件数が増えてきた。 保健師フォローが入っているケースが３件（虐待の疑い２件、児の発達確認１件）あり、定期的に情報交換を行いながら受け入れを行った。
人材育成	キャリアパス制度に基づき、人材育成に取り組んだ。継続研修の未開催、指導員加配加算を算定するための職員配置上、全体的に参加できる研修機会が少なかった。
保護者との協働関係の強化	保護者向け勉強会の実施（年４回）。 ペアレント・トレーニングの開催（４名参加）。

ボランティア受け入れ体制の整備	実践発表のテーマとして取り組んだ。整えた書類等は、他のきらり事業所と共有した。

（説明）

ほぼ計画通りに事業を行ってきた。ただし、第三者評価の自己チェックに関しては、経験したことがない職員ばかりであるため、受審の目的や項目内容の理解などが不十分であったと思われる。そのため、課題を見つけた後に改善課題を見出して改善にあたる、という行動には繋がりにくく、次年度の受審に向けての課題となった。

保護者との協働関係の強化については、勉強会や家族療育等を通して、職員と保護者とのコミュニケーションを図るとともに、保護者同士の交流の機会にもなった。勉強会の場における保護者同士の意見交換から、医療機関やリハビリに繋がったケースもあり、次年度も引き続き取り組んでいきたい点である。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	園訪問を実施（年間１３件）。保護者や園から訪問を希望される件数が増えた。
利用者満足の向上	①自己チェック 第三者評価に向けての自己チェックを実施し、改善事項について職員で話し合った。改善できる部分については随時改善に取り組んだ。 ②利用者アンケート 保護者勉強会の内容について、保護者の意見を参考にテーマや内容を取り入れた。
施設内研修	他事業所での実習を行った職員は、療育活動や療育室の構造化についてのアイデアを得てきており、実際に活かした。
提案制度の導入	発達支援事業部会議およびチーフ会議で報告・情報共有を行った。

（説明）

次年度の第三者評価受審に向けて、自己チェックを行った。日々の療育業務だけでなく、事業所および法人の職員としての業務について、あらためて振り返る機会となった。見つけた課題を実際に改善活動に繋げることができていない点もあるため、次年度も引き続き改善活動に取り組んでいくことが必要である。また、第三者評価の受審自体を経験したことがない職員ばかりであるため、第三者評価について職員自身が理解した上で受審することが望ましいが、その機会をどのように設けていくかが課題である。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	4	6	23	23	230	253	＋23
5月	4	6	24	25	240	264	＋24
6月	4	6	25	25	250	279	＋29
7月	4	6	25	25	250	286	＋36
8月	4	6	24	24	240	279	＋39
9月	4	6	25	23	250	258	＋8
10月	4	6	26	26	260	318	＋58
11月	4	6	24	24	240	261	＋21
12月	4	6	24	23	240	247	＋7
1月	4	6	23	23	230	232	＋2
2月	4	6	23	23	230	238	＋8
3月	4	6	24	24	240	236	－4
合計					2900	3151	＋251

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

契約者数も安定しており、年間を通すと計画人数を達成している。ただし、冬場にかけて体調不良等の理由により利用人数が減少していった。特に2～3月は、家族で感染症（インフルエンザ、おう吐下痢）に罹患したことによる長期欠席が多くあり、3月は未達成となった。次年度は、感染症流行時期等の利用者数の減少を視野に入れ、計画を立案し、受け入れに対応していく。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
保護者勉強会	６・９・12・３月	・療育について ・ことばの発達 ・ペアトレ ・サポートブック	幅広い年齢の保護者が参加した。質問も多く出ており、勉強会の内容を、実際の子どもの姿に照らし合わせながら聞く姿が見られた。
家族療育	７・１月	単独利用児を対象とした家族療育の実施。	日頃療育に参加する機会がない保護者が、実際に療育に参加することで、家庭でもやってみたいと感じた（実際にやってみた）保護者がいた。
クラコト・フェスティバル	11 月	利用児・家族、地域に向けての祭り。	家族で参加する家庭が多かった。
家族見学週間	毎月	単独利用児を対象に、個別療育・集団療育の様子を家族に見学してもらう。	毎月の見学週間を活用している保護者もいたが、見学する保護者は限られていた。早めに迎えに来た際などは、職員から声をかけて見学を促した。
保護者座談会	勉強会、家族療育に併せて実施	保護者を対象にした座談会の実施。	日頃疑問に思っていることなどの相談や、休日の出掛け先の情報など、活発に意見・情報交換がなされた。
ペアレント・トレーニング	10～11 月	応用行動分析に基づき、保護者が子どもの行動観察や具体的な支援の方法を講義・グループワークを通して学ぶ。	４名の保護者が参加。子どもの行動を客観的に観察する経験をし、気づきをもった保護者もいた。

4. 保護者（家族）との交流事業

・保護者勉強会

年４回開催し、「きらりの療育活動でのねらい」、「保護者が子どもの行動に気づいて手立てを考える方法」、「子どもの特性について他者に伝えていく方法」といった内容で実施し、流れをもってテーマを構成した。その中で、保護者同士の活発な意見交換や、他の保護者の思いを聞く機会となり、保護者同士のつながりができていったように感じられた。

・保護者座談会

勉強会や家族療育にあわせて実施した。日頃疑問に思っていることなどの相談だけでなく、休日の

出掛け先の情報など、活発に意見・情報交換がなされた。倉敷市以外の様々な地域から利用児が来ていることや、きょうだい児の年齢が様々であり、情報交換の場として活用されていた。

・家族見学週間

月１回、見学週間を設けて保護者に呼び掛けた。毎月の見学週間を利用して見学する保護者もいたが、見学する保護者は限られていた。見学週間以外でも見学可能であることを１年を通して通信に掲載し、早めに迎えに来た際などは職員から声をかけて見学を促した。

・家族療育

７月と１月に実施した。７月は、午後の利用児を対象に、保護者が実際に療育者の立場で集団療育に参加する機会を設け、参加後には、感想や振り返りを行った。１月は、正月休みの期間を利用し、母親以外の家族への参加を呼び掛けた。父親、祖父母など、普段はきらり中庄に来る機会がなかった家族も多く参加し、連絡帳への記入も経験してもらった。

・クラコトフェスティバル

１１月に開催し、多くの利用児が家族揃って参加した。内容については全体的に好評であったが、普段との雰囲気の違いに怖がる児がいたとの話も保護者から聞いている。環境の変化に対応できないという特性がある児も多く、そのような姿が予測される児については、安心して過ごすための手立てを家族と一緒に考えていく機会として活用していきたい。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	４件 ①噛みつきについて保護者への報告を忘れた ②クッキング中に包丁で指を切った ③玩具の取り合いによる噛みつきがあった ④テラスで倉敷学園利用児とぶつかりケガをした
意見・苦情	未対応０件	０件
事故	発生０件	１件 ①子どもの閉めたドアで職員が指を挟み、通院した

上記を受けての具体的改善活動

＜ヒヤリはっと＞

①噛みつき等が起こった場合、他の職員にタイムリーに情報を伝えることと、メモ等に記録し、確実に保護者に報告ができるように職員間で方法を検討した。また、保護者に報告・謝罪した職員は、その旨を他の職員にも報告することで、報告漏れがないように周知した。

②クッキングの際の職員配置を再度検討した。また、包丁の扱い方について、視覚的手がかりや玩具の包丁を用いて練習を行う時間を設けてから、実際に切る工程に移行した。

③子どもの特性を職員間で確認し、職員が把握する人数を再度検討した。また、コミュニケーショ

ンスキルが未熟な児が多いため、玩具のやり取りなどについて、大人と練習をする機会を設けていくことを周知した。

④利用児に対しては、テラスで遊ぶ時の約束を事前にしてから行くようにした。また、場所を共有する際には学園職員にも意識して声をかけ、双方の利用児の情報を共有を行っていくように周知した。

＜事故＞

①トイレ使用時の子どもの姿を再度把握し、午前と午後で対応を変えた。午前は、自力でのドアの安全な開閉が難しいため基本的に職員が開閉を行い、午前利用の年中児には大人が付き添いのもと、開閉の練習を行った。午後は、ドア付近の様子について職員が見守りを行いながら、自力での開閉を促した。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・クラコトフェスティバル

倉敷学園とコトノハ、本部事務局との合同で、11 月４日に開催した。家族そろって参加する家庭が多かった。全体的にステージ、模擬店など楽しんでいるようであった。

・すきっぷ教室への職員派遣（1～3 月）

全　　回（１回は体調不良のため欠席）、キャップが参加した。療育につながる前の子どもと保護者と接する機会がこれまでなかったため、子どもの行動観察により気づきを得る視点や、保護者とのやりとりなどを経験できた機会となった。

・すくすく親子教室への職員派遣

児島地区のすくすく親子教室（年２クール）に、チーフが心理相談員として参加した。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
集団療育、個別療育の目的が分かる	当初は活動を実施することで手一杯であったが、チーフや先輩職員と日々振り返りを行うことで、活動や児によって異なるねらいがあることを伝えていった。集団療育計画を立案する際には、子どもの特性や、伸ばしたい力を考慮した活動を提案しており、チーフ、キャップとともに具体的な活動計画を立てた。
個々の発達段階が分かる	子どもの姿や変化を観察する力はあるため、発達の道すじに照らし合わせて、クリアしてきた段階は何か、次にどの段階に進むのかについて振り返りを行った。定型発達との違いに戸惑うこともあったが、個々の姿を捉えていく中で、徐々に発達段階を捉えることができるようになってきた。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・不明な点等については上司・他のチーフに確認を取りながら業務にあたった。 ・業務改善等について積極的に提案し、協力を得て改善に取り組んだ。 ・キャップ会に参加することで、キャップとしてのについて考える機会ができた。後半、本人なりに事業所におけるキャップの役割を考えながら業務にあたる姿が見られた。 ・後輩指導に課題を感じている姿があったため、チーフと定期的に話し合いの場を設け、役割分担をしながら後輩指導にあたった。 （２年目） ・親子療育の季節の活動（月１回）について、立案・計画・実施を担ってもらった。準備や役割分担等を計画的に行うことへの苦手さが見られた。 ・日々の業務で手一杯になっている様子がしばしば見受けられたため、定期的にチーフとの話し合いを行った。精神面の弱さがあり、肯定的なフィードバックを行いフォローをしていく必要がある。 （新任職員） ・日々の療育活動について振り返りを行っていくことで、療育の目的と支援方法を学んだ。専門的な知識をさらにつけていくことが課題である。 ・社会人経験があるため、OJT の共通項目については自立度が高かった。専門的な項目については、項目に沿って本人の理解度を確認し、必要なスキルを身につけていくように話し合った。
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	該当なし

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幼児安全法・安全法	６月	全員	発作やケガ等、緊急時の対応、蘇生法、AED の使用法について学んだ。
実践研究発表	１月	小山・森下・筒井・牧	ボランティアの受け入れ体制づくりをテーマについて発表した。
事故対応勉強会	９月	全員	発作やけが等、緊急時の対応について、ロールプレイを通して学んだ。
事業部学習会	２月	全員	出張・研修等の報告により、情報交換と質疑応答を行った。
倉敷学園勉強会	通年	全員（参加できる者）	療育や発達障がいに関わる様々なテーマについて、情報交換と質疑応答を行った。
リスクマネジメント研修	年３回	小山・森下・筒井	リスクマネジメントについて、講義・演習により学んだ。
【組織性関係】			
階層別研修	研修計画に基づく	全員（各階層ごと）	第三者評価、QC 活動について、講義・グループワークにより学んだ。
五法人研修	６月	小山	クムレの取り組みについての報告と、他法人の職員との交流を行った。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
倉敷発達障がい支援フォーラム	11 月	小山・牧	発達障がい児・者を取り巻く現状と支援について学んだ。
発達障がい児支援フォーラム	１月	小山・森下・筒井・牧山中	岡山県内の発達支援に関わる取り組みや、発達障がい児およびその家族への支援に大切なポイントを学んだ。
岡山県保健福祉学会	１月	小山	保健福祉領域の関係機関による取り組みのついての報告を聞いた。
PECS　2days ワークショップ	２月	小山	絵カードを使ったコミュニケーション法について、講義を演習を通して学んだ。
心身協研修会（虐待予防）	２月	小山・森下	障がい者虐待防止法の概要と、倉敷市における現状について学んだ。
【組織性関係】			
サービス管理責任者研修（就労）	１２月	小山	就労支援事業所におけるサービス管理責任者の役割と、支援計画の立案の仕方を学んだ。
サービス管理責任者研修（介護）	１２月	小山	介護支援事業所におけるサービス管理責任者の役割と、支援計画の立案の仕方を学んだ。
CDS ジャパン施設管理者研修	２月	小山	全国における児童発達支援に係る制度や動向についての報告を聞いた。

③ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

倉敷学園の防災計画に沿って、月に１回防災訓練を実施した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

利用者実績については、年間で計画を達成した。ただし、月によってばらつきがあり、安定しているとは言えなかったため、今年度の実績の推移をもとに次年度の受け入れ予測を立て、必要に応じてキャンセル対応や新規契約等行っていく。また、利用枠の空きがなかったため、親子療育からの単独移行が進まなかった。次年度は、単独移行を視野に入れたかたちで親子療育をスタートし、親子療育のあり方について見直しを行っていきたい。

今年度、新たな職員（正規１名、嘱託Ｂ１名）が加わり、マンパワーが増えた半面、職員間での情報共有や役割分担が課題となった。多くの視点で子どもの姿を捉え、それらの情報を共有することによってより良い支援を提供することができる。また、他の職員の意見を聞くことで、職員自身のあらたな気づきにつながる。情報共有や提案していくことの必要性を職員に伝えていったが、消極的な姿が多く、報・連・相の徹底が難しかった。次年度の課題として、職員の気づきを高め、報・連・相の徹底を行うために、これらに対する職員の意識を変えるための機会（勉強会・報告体制など）を設けていきたい。

また、昨年度、川大セミナーＡが未開催だったことや、指導員加配加算算定による職員配置などから、研修に参加する機会を持つことが難しい状況であった。事業所内で定期的な勉強会を開催して知識の共有をしたり、それぞれの職員の育成計画に合った研修情報を収集するなどして、職員の学びの機会を確保し、スキルアップを図っていくことが課題である。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：きらり水島】【事業所責任者:原田佳子】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
アセスメント体制の構築	専門職の勉強会実施
保護者との関係の強化	ペアレントトレーニング、スキップ教室への職員派遣、保護者向け勉強会の実施、行事の実施、就学児懇談の実施
保護者同士のつながりの強化	座談会の実施
普及、啓発活動の充実	行事への参画、ＨＰの更新（月１）、地域の社会資源の紹介
センター化に向けての体制整備	センター化に向けて PT を実施

（説明））週１～２回通園児と毎日通園児の利用形態に分けて、療育支援を展開した。
その中で、保護者や地域のニーズに合わせて支援や啓発活動の充実を図った。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
支援の充実	自己点検、第３者評価指導事項の改善
機関連携の充実	訪問支援（園、学校、家庭）、健診への職員派遣
発達支援の充実	療育システムＰＴによるねらいの整理
人材の育成	階層別研修、事業部内学習会、実践研究、キャリアパス制度、キャップ会、事業所間交流
提案制度の充実	意見、苦情、要望書の活用、提案書の活用

（説明）第３者評価の受審に向けて、指導事項の改善を行った。また、機関連携と発達支援の充実を図った。そして職員や利用者から意見や提案を受けて、改善を行っていった。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画 デイ・通園	開所日実績 デイ・通園	利用者計画 （単位：人）	利用者実績 （単位：人）	利用者計画・実績比
4月	6	9.3	23・21	24・22	440	510	115.9%
5月	6	9.3	24・23	24・23	470	499	106.2%
6月	6	9.3	26・22	26・22	480	515	107.3%
7月	6	9.3	25・23	25・23	480	518	107.9%
8月	6	9.3	24・23	23・23	470	489	104.0%
9月	6	9.3	24・22	23・22	460	491	106.7%
10月	6	9.3	26・23	25・22	490	539	110.0%
11月	6	9.7	25・22	25・22	470	507	107.%
12月	6	9.7	23・22	23・22	450	463	102.9%
1月	6	9.7	23・22	22・22	450	457	101.6%
2月	6	9.7	23・20	23・20	430	443	103.0%
3月	6	9.7	24・23	23・23	460	469	102．0%
合計					5560	5900	

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）実績は達成している。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
家族見学週間	毎月第 3～4 週	家族が療育を見学する	家族と、子どもの姿について共通理解を図る為
個人懇談	5～6 月、９～10 月	就学児の保護者との懇談	よりよい就学先を選択出来るようにする為
座談会	7、11 月	保護者同士での懇談会	保護者間で悩み事を相談したり共有したりする為
保護者向け勉強会	6.8.10.1 月	療育や子育ての知識を勉強する	療育や子育ての知識を得る為
秋祭り	11 月	小ざくら保育園の行事に参画する	地域に事業所を啓発する為
ペアレントトレーニング	年２クール	療育者の育成	保護者を療育者として育成する為

4. 保護者（家族）との交流事業

・家族見学週間の実施
・座談会の実施
・保護者向け勉強会の実施
・季節ごとの行事の実施
・ペアレントトレーニングの実施

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	４０件　対応済
意見・苦情	未対応０件	３件　支援会議にて対策検討、実施済
事故	発生０件	０件

上記を受けての具体的改善活動

・利用児同士の関わりの中での大人の適切な介入
・保護者と日頃から話し合い、大きな意見、苦情にならないようにする

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・小ざくら保育園秋祭りへの参画
・地域に向けた勉強会の実施
・訪問支援の実施
・健診、スキップ教室への職員派遣
・ホームページの活用(情報発信)

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
接遇、態度	社会人としての最低限のマナーを身につけられるよう、身なりを整えることや先輩職員の姿勢を見習えるよう指導した

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・事業計画に基づき運営した ・自身の意見や提案を上司に挙げていった ・利用者、保護者に適切な助言を心がけた ・リーダーシップをとりクラスをまとめた ・自身の目標に向かい日々努力した ・利用者、保護者への丁寧な対応を行った ・上司と協同し業務にあたれた ・自身の目標を持ち、日々努力した ・利用者、保護者に対して明るく元気に接した
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・該当しない ・ ・ ・該当しない ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幼児安全法	６月	全職員	幼児安全法を学んだ
実践研究発表会	１月	全職員	実践研究発表を行った
事業部学習会	２月	全職員	出張報告を行った
【組織性関係】			
事業所実習	11 月	新人、一般職員	他事業所の療育を学んだ
階層別研修	年間を通して	全職員	法人方針や階層に合わせた研修を受けた

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
フォーラム	随時	全職員	障がいや、療育について学び、復命した
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

・年に３回の訓練を実施
・月に１回の安全点検を実施

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・２階廊下にロールカーテン設置
・各階の廊下に空調を設置

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

H２５年５月に現小ざくら園へ移転する。準備を進めていく。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：倉敷発達障がい者支援センター】【事業所責任者:佐分利尚孝】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

倉敷発達障がい者支援センターには、今年度も青年期・成人期の多くの相談が寄せられた。又、その相談の多くが、長い期間の相談を要するケースである。そのため、ケースが滞留してしまい、支援センターが資源として機能しなくなってしまう状況が迫ってきていた。

そこで、平成 24 年は、発達障がい者支援センターの機能として、アセスメント機能の強化、バックアップ機能の強化を図っていった。そして、18 歳未満の相談者は倉敷総合療育相談センターへ引き継ぎ、その他、地域生活が安定しているケースに関しては、他機関の相談機関と協力体制を計って来た。その中で、各々の事業所の役割分担がより明確になってきている。

目標（値）	施策及び結果
連携体制の充実	ケース会議の充実を図った。ケース会議数は、約 30 ケースであった。
機関連携の充実	アセスメントの実施、および、巡回相談相談を行った。機関コンサルテーション数は約 20 ケースであり、検査実施数は約 40 ケースであった。
ピアカウンセリング事業の体制整備	ペアレント・メンター養成事業に参加した。来年度の運用に向け、会議などにも出席した。
普及啓発活動の充実	研修会などの実施を行った。第 3 回くらしき発達障がい支援フォーラムを実施し好評を得た。研修数は約 50 回であった。
支援の充実	当事者会を 4 回開催した。また、健康料理教室を倉敷で行った。

（説明）

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
月１回	啓蒙活動を実施した。計画数の 4 倍のを啓蒙活動を実施した。
ケース会議の実施(随時)	コーディネート機能の充実を図るため実施した。
ボランティアの育成	ペアレントメンター養成のスキルの習得を研修等を通じで学んだ。
保護者支援の仕組みの構築	ペアレントトレーニングの普及を目指し、発達支援事業部で取り組んだ。

（説明）

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	2	2	23	24	125	140	1.12
5月	2	2	20	24	131	154	1.18
6月	2	2	23	24	139	158	1.14
7月	2	2	23	26	136	167	1.23
8月	2	2	21	24	138	133	0.96
9月	2	2	21	25	133	133	1.00
10月	2	2	21	28	135	150	1.11
11月	2	2	21	24	139	142	1.02
12月	2	2	22	21	136	100	0.74
1月	2	2	22	23	136	124	0.91
2月	2	2	20	25	144	126	0.88
3月	2	3	22	22	130	101	0.75
合計			236	290	1,622	1628	1.00

※　　職員数は、常勤換算で記入してください。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
子育て応援講座Ⅰ	6/2	発達が気になるお子さんの子育てについての講演を実施。	好評であった。
子育て応援講座Ⅱ	6/9	発達が気になるお子さんの子育てについての講演を実施。	好評であった。
子育て応援講座Ⅲ	6/16	発達が気になるお子さんの子育てについての講演を実施。	好評であった。
第３回くらしき発達障がい支援フォーラム	10/17	・シンポジウム 「子どもの支援について」 ・講演 梅永雄二先生 「成人期における発達障がいの課題を探る～就労と生活」	くらしき発達障がいフォーラム参加者　260 名 ・アンケート回収率 68.5% ・88%の方から講演が良かったという感想を頂いた。
クラ☆コトフェスティバル	11/4	利用者や地域の方を招いてのお祭り。	好評であった。
子育て応援講座Ⅰ	11/10	発達が気になるお子さんの子育てについての講演を実施。	好評であった。
子育て応援講座Ⅱ	11/24	発達が気になるお子さんの子育てについての講演を実施。	好評であった。

4. 保護者（家族）との交流事業

・子育て応援シリーズ講座(6/2,6/9,6/16) (11/10,11/14)

何か発達が気になる、育てにくいといった背景に、発達障がいの特性を持つ子ども達が多く存在します。よき子育てには、よき理解を欠かすことはできません。この講座では子育てという切り口の中で、発達障がいの特徴を理解していただくと同時に、医療、保健、療育、専門機関、行政機関などの情報を伝え、現在どのように我が子を理解し、そしてどのように見通しを持って育てていけばよいのか戸惑われている保護者の方々の支えとなれればと考えています。

・クラ☆コトフェスティバル（10/22）

気になる子ども達について、クムレンジャーショーという劇を通じて普及啓発を行った。たくさんの子どもたちや保護者が観賞し、好評であった。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	1 件……倉敷学園の園児がセンターの事務所に入って来るようになったため、扉に視覚的な案内を作った。それ以降の入室は激減した。
意見・苦情	未対応0件	1 件……発達障がい者支援センターの電話が繋がりにくいとの苦情を受け、支援者の社用携帯の番号の公開を行った。しかし、初回の相談者などからの苦情が続いたため、事務所に支援センターの電話を受けてもらうようになった。そのことによって、苦情は減った。
事故	発生0件	0 件

上記を受けての具体的改善活動

上記の発生件数の欄に記入している。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

1. 発達障がいについて市民や関係機関の方々に正しい理解を深めていくための活動を実施
   - ・倉敷発達障がい支援フォーラム(1 回/年)
   - ・子育て応援講座(6 回/年)
   - ・クラコトフェスティバルへの参加（10/21）
2. ペアレントトレーニングの実施

親は自分の子どもに対して最良の治療者になれることができるという考え方に基づき、ペアレントトレーニングを、3 クール実施しました。発達障がいの子ども達の育ちを考えた時、子どもと共に保護者の方も子育ての中で、成功経験を味わう機会が不足している現状があります。このトレーニングを通して親子がうまく向き合うことができるきっかけとして活用していただきたいと考えています。

3. 倉敷総合療育相談センターへの専門相談員、臨床心理士の派遣

倉敷総合療育相談センターの依頼に基づいて、専門相談を実施しています。今年度より、専門相談と共に、臨床心理士による検査の依頼も多くあがってきており、発達障がいのある方々の有効な見立ての一つとして活用している現状があります。

4. 健康料理教室への参加と実施

中国学園大学とおかやま発達障がい者支援センターが主催の健康料理教室（計 8 回）に参加した。倉敷市からも該当者が 1 名参加した。また、倉敷発達障がい者支援センター主催の健康料理教室を開催し、計 6 人が参加し好評であった。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

※該当者なし

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ	・事業計画に基づき業務を遂行することを目標にした。結果、事業計画に基づいての業務を概ね達成することができた。 ・
	・リーダー、キャップ	・ ・該当者なし ・
	・新任、一般職	・ ・該当者なし ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー	・事業部の運営統括者として実践できるための研修を積極的に受け、取り入れた。 ・
	・サブマネジャー	・ ・ ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幹部研修	4/14,10/3	佐分利　尚孝	事業部統括者として実践ができるようになった。
チーフ・サブマネ研修	6/1,10/20	福島　阿也子	チーフ業務を実践するためのスキルを学んだ。特に苦情対応についてリスクマネジメントの観点から学んだ。
実践関係発表会			
【組織性関係】			
幼児安全法			
五法人研修	6/15～16 11/30　～ 12/1	佐分利　尚孝	先駆的な取り組みを学ぶことができた。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
ペアレントメンター養成講座 ～ベーシックコース～			
ペアレントメンター養成講座 ～アドバンスコース～	12/6～7	佐分利　尚孝 福島　阿也子	来年度実施のペアレントメンター事業に向けて、スキルを学んだ。
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名　てとて　　】【事業所責任者:　大原久美子　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
支援体制の充実	ケース会議に参加する中で、相互に子どもの見立てを伝えあい、直接支援に結び付くような話し合いを重視した。
保護者への支援体制の構築	親子教室や直接の相談場面において、子どもや保護者の状態に応じて、現在の状況や今後の見通しに関する情報を伝えてきた。
連携体制の充実	巡回相談においては、園での状況や職員体制などについても把握しながら、個々に合わせた集団の中での取り組みを共に考えてきた。各機関との連携は強くなっている。

（説明）

「てとて」の業務の中心は、指定障がい児相談支援事業となり、対象者がやや限定される傾向もあるが、現在までの各機関との連携によって、発達が気になる段階の子どもの支援も行っている。福祉制度の変化に合わせながら、対象者に応じた支援体制を確立させることが必要である。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
ケース会議の充実（支援体制の充実）	ケース会議に参加する中で、相互に子どもの見立てを伝えあい、直接支援に結び付くような話し合いを重視した。
移行支援体制の整備	就学先への移行に関しては、倉敷学園を中心に教育委員会や学校との連携を重視し、体制を整備している。
ボランティアの育成	支援現場を持たないてとての中では、ボランティアの受け入れが難しく、着手できていない。発達支援部門の事業所と連携して取り組む必要あり。

（説明）

「てとて」として、指定障がい児相談支援事業の指定を受けたことにより、対象者や業務に変化があり、中期経営ビジョンに対する取り組みが十分に出来ていない部分がある。各事業所と連携し、取り組む必要あり。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績								
	定　員	現　員	相談		すくすく親子教室（回）		幼・保巡回相談		すきっぷ教室（回）		利用者計画・実績比
4月	2	2	10	9	0	0	3	1	0	0	0．77
5月	2	2	10	12	3	3	5	1	2	2	0．87
6月	2	2	10	7	4	4	10	24	2	2	1．55
7月	2	2	15	13	2	2	10	19	2	2	1．28
8月	2	2	15	28	2	2	5	0	2	2	1．40
9月	2	2	15	21	3	3	5	15	2	2	1．80
10月	2	2	15	17	2	2	5	18	2	2	1．75
11月	2	2	15	18	2	2	5	24	2	2	2．10
12月	2	2	15	25	1	1	5	5	2	2	1．50
1月	2	2	10	17	1	1	3	9	2	2	2．00
2月	2	2	10	23	3	3	3	0	2	2	1．77
3月	2	2	10	27	1	1	3	3	2	2	2．30
合計	2	2	135	217	25	25	62	119	22	22	1．70

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

指定特定相談支援事業所・指定障がい児相談支援事業所として、児童発達支援事業所を利用する前の子どもを対象に、インテークや定期的なモニタリングでの保護者の相談を計画的に行ってきた。また、幼稚園、保育園からの巡回相談の依頼も多く、日程調整をしながら、対応してきた。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
第３回くらしき発達障がい支援フォーラム	10/17	・シンポジウム 「子どもの支援について」 ・講演 梅永雄二先生 「成人期における発達障がいの課題を探る～就労と生活」	くらしき発達障がいフォーラム参加者　260名 講演内容が好評であった。
クラ☆コトフェスティバル	11/4	利用者や地域の方を招いてのお祭り。	好評であった。

4. 保護者（家族）との交流事業

・倉敷学園単独療育の前段階として、プレ療育での保護者との交流、情報交換
　場所の確保や職員体制が整わず、未実施。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	0件
意見・苦情	未対応0件	0件
事故	発生0件	0件

上記を受けての具体的改善活動

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・倉敷市 1.6 ヶ月健診要観察児フォロー教室への職員派遣
　年間計画通り、職員派遣を行い、保健師との連携を基に、発達の遅れや障がいのリスクのある子どもの発達確認や保護者に対して関わり方を伝える等の支援を行った。
・倉敷市障がい福祉課との連携によるすきっぷ教室への職員派遣
　年間計画通り、職員派遣を行い、行政機関との連携を基に、発達の遅れや障がいのリスクのある子どもの発達確認を行った。また、保護者に対しては、関わり方や今後の支援に関する情報提供を行った。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について　　（該当者なし）

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・ ・ ・ ・ ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ 事業計画に基づき業務を遂行することを目標にした。事業計画に基づいての業務を概ね達成することができた。

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
実践関係発表会	１／20	大原　久美子	今年度の障がい児相談支援事業に関する発表を行った。関係者に、事業概要を伝えられた。
【組織性関係】			
チーフ・サブマネ研修	6/1,	大原　久美子	チーフ業務を実践するためのスキルを学んだ。特に苦情対応についてリスクマネジメントの観点から学んだ。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
自閉症児を育てる会 支援者養成セミナー	５月	大原　久美子	発達障がいに関して、医療の視点から本人への告知や受容の過程等、学んだ。
相談支援専門員実践研修	６月	大原　久美子	相談支援専門員の基本的な業務について学んだ。
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：あ　し　た　ば　】【事業所責任者:　長　須　　守　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
施設内外の行事等を通じて地域住民との交流の機会を増やす	四季折々の園内行事を開催したり、地域行事に積極的に参加し、職員・利用者(利用者家族)と地域住民が交流する機会を設けた。
ボランティア受入体制の整備	ボランティア受入体制について、その内容や活用方法を検討した上で、地域の公民館や大学等を訪問して募集広報を行なった結果、通年度で 12 名の登録があった。
アセスメント表・個別支援計画書の書式及び運用方法の見直し	本年度当初より新様式の書式に変更し、キャップ会を中心に、外部有識者や相談系事業所の協力も得ながら、その作成手法の検討や機能分析を行ない、改善を図った。
快適な利用者の生活空間の確保・維持	施設内外の補修・美化を積極的に行なった。特に、食堂及び日中活動場所の個別スペースについては、著しい環境改善が図れた。
利用者の安心・安全を第一に考えた継続的な取り組み	外部有識者の協力を得ながら、人員配置・職員の役割分担・業務内容の見直しを行なった。また、看護師を中心に発作や心肺蘇生法の勉強会を定期的に開催した。

（説明）

今年度は、事業目標を「地域とともにが実感できる取り組み」・「一人ひとりの利用者ニーズを実現する」・「人材育成」・「環境整備」の４点とし、施設運営に取り組んだ。

具体的には、職員や利用者家族が「地域移行」に現実味を持って日々の支援にあたることが出来る様な意識改革や、利用者個々の特性やニーズに沿った個別支援計画の作成・実行に取り組んだ。

また、職員の専門性を伸ばすことを主目的に、施設内で４つの委員会活動を展開し、職員個々が役割を持ってその活動に参画する取り組みも行なった。その結果、ボランティア受入体制の整備・利用者個別スペースの環境整備・業務体制等の見直し・看護師を中心とした発作や心肺蘇生法の勉強会の定期的な開催等が、職員主導のもと年度を通して実行でき、全般的に職員の能力向上が図られた。

ただ、利用者のスムーズな地域移行に欠かせない地域住民の理解を得る為の交流や、利用者家族の意識改革については改善の余地が多々あり、次年度も継続して粘り強く努力していきたい。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
入所施設の機能充実	外部有識者の協力を得て、キャップ層職員を中心に抜本的な業務の見直しを行なった。
ショートステイの体制整備	男性及び女性短期入所専用室を設けた。
家族との意見交換	定期的に家族会を開催し、家族からの意見・要望等の聴取に努めるともに、担当職員との懇談する機会や、権利擁護等について勉強する機会とした。

（説明）

一昨年度、利用者の入浴中の死亡事故もあり、美作大学の薬師寺准教授の協力を得て、抜本的な業務の見直しを行ない、次年度より新体制で業務を開始する予定である。

また、利用者間の関係性に配慮したうえで部屋替えを実施し、男性及び女性短期入所専用室を確保した。

利用者家族との意見交換については、日頃は帰宅時に必ず家庭連絡表を家族に渡し、円滑なコミュニケーションが図れるようにしている。また、通年で８回家族会を開催して、家族と職員が懇談する機会を設けている。しかし、来園機会がほとんどない利用者家族や、家族会に参加されない利用者家族の方も多数おられ、その方達との活発な意見交換については、今後の課題である。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

	職　員		計　画				実　績			
月	配置基準	現員	施設入所	生活介護	短期入所	日中一時	施設入所	生活介護	短期入所	日中一時
４月	27.4	30.1	1,370	1,050	70	35	1,362	1,056	74	44
５月	27.4	30.1	1,310	1,100	70	35	1,363	1,088	83	46
６月	27.4	30.1	1,360	1,050	70	35	1,366	1,042	85	52
７月	27.4	30.1	1,380	1,100	75	35	1,391	1,094	98	67
８月	27.4	30.8	1,320	1,100	70	35	1,309	1,057	90	59
９月	27.4	30.8	1,340	1,050	70	35	1,332	1,058	91	57
１０月	27.4	29.8	1,350	1,100	70	35	1,414	1,130	107	65
１１月	27.4	29.8	1,320	1,050	70	35	1,341	1,066	116	69
１２月	27.4	29.8	1,300	1,100	70	35	1,347	1,115	83	58
１月	27.4	31.8	1,290	1,100	70	35	1,271	1,066	75	62
２月	27.4	32.8	1,240	1,000	65	30	1,285	997	66	47
３月	27.4	32.8	1,350	1,100	70	35	1,431	1,148	90	85
合計	328.8	368.8	15,930	12,900	840	415	16,212	12,917	1,058	711

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

今年度は、年度を通して開所日に様々な行事を開催したこと、また感染症等の発生もなかったこと、更には、年度途中より在宅から２名の利用者が生活介護に通園され始めたこともあり、全てのサービス項目で計画を上回る実績となった。

特に、短期入所及び日中一時の項目については、他の事業所と連携を密にした効果があり、計画を大幅に上回る実績となった。

3. 行事報告

4. 行　事　名	実　施　月	内　　容	結　　果
障がい者スポーツ大会	４月・５月	フライングディスク ボーリングに参加	希望者(6 名)のみ参加。
お花見会	４月	園内及び近隣神社の桜を囲んでの花見会	利用者家族、地域の方を含め 118 名が参加し、概ね好評であった。
ボーリング招待	６月	サンフラワーにて実施	利用者全員(50 名)参加。
納涼大会	８月	模擬店、ステージなど実施	利用者家族、地域の方を含め 563 名の来園があり、概ね好評であった。
クッキング教室	９月	利用者家族対象のクッキング教室	アンケートにより参加希望者を募り実施(16 名)。概ね好評であった。
いきいきふれあいフェスティバル	１０月	職員及び利用者で模擬店を出店している	アンケートにより参加希望者(8 名)を募り実施。
お月見会	１０月	お団子作り・会食	利用者家族、地域の方等 121 名が参加。概ね好評であった。
バス旅行	１１月	３コースに分かれて参加	利用者(52 名)及び利用者家族参加。概ね好評であった。
荘園の里ふれあい祭り	１１月	職員及び利用者で模擬店を出店している	希望者(14 名)のみ参加。
ゆうあい文化祭	１１月	他施設の発表等見学	希望者(21 名)のみ参加。
クリスマス忘年会	１２月	1.2.3.5 班実施	４班(9 名)は個別外出。
節分行事	２月	豆まき・お餅つき等	利用者家族、地域の方を含め、109 名が参加。概ね好評であった。
ツーデーマーチ ふれあいウォーク	３月	コースに分かれて参加	希望者(42 名)のみ参加。
班行事	各班年４回	内容については各班の職員が企画して実施。	４班(9 名)は個別外出。

5. 保護者（家族）との交流事業

・家族会総会(4 月)、家族作業日(6 月、7月、9 月、11 月、12 月、2 月、3 月)を開催し、家
族と職員が懇談する機会を設けた。またその中で、利用者の「地域移行」や「権利擁護」更には「健康管理」といった事柄を題材に、職員が講師となって勉強会を実施した。

6. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	130 件
意見・苦情	未対応0件	11 件
事故	発生0件	173 件

上記を受けての具体的改善活動

・ヒヤリはっと　設備改善や備品導入で防止することが出来る事案については、随時早急に対応した。また、発生した事案については、各種会議において職員間で共有し、改善策を検討して実行した。更には、発生した事故事案を通年でまとめ、その傾向を分析したデータを全職員に配布し、事故防止に努めている。

・意見、苦情　地域住民の方から、職員の車の運転についての苦情が３件寄せられており、それを受けて、施設近隣道路は時速 30ｋｍを励行すること、譲り合い等のマナーの良い運転を心掛けることを徹底している。
利用者家族からは 8 件の意見、苦情が寄せられており、その内容は居室備品に関わるものが３件、提供している支援内容に関わるものが５件である。いずれも施設側が担うべき事案については早急に対応しているが、利用者家族側が当然担うべき事案については、話し合いのうえご理解いただいている。

・事故　設備改善や備品導入で防止することが出来る事案については、随時早　急に対応した。また、発生した事案については、各種会議において職員間で共有し、改善策を検討して実行した。更には、発生した事故事案を通年でまとめ、その傾向を分析したデータを全職員に配布し、事故防止に努めている。

7. 地域貢献活動・地域との交流事業

・職員及び利用者で、日中活動で頻繁に利用している地域の公園や通勤途上の道路等を、定期的に清掃した。
・地域の町内会の清掃活動に、毎回欠かさず参加した。
・実習生(保育実習・相談援助支援)の受け入れを、年間を通して行なった。
・日中一時支援や行事等でボランティアの受け入れを行なった。特に夏季のボランティア体験では中高生も受け入れ、利用者及び利用者家族と交流していただいた

8. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
服薬支援を間違いなく確実に行なう。	利用者に応じた服用方法で、間違いなく確実な服薬支援が出来るように支援書を作成して配布した結果、通年を通して服薬事故は防止出来ている。また、職員間で統一した服薬支援も出来ている。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・リーダー、キャップ	・利用者の活動や生活の様子を確認し、必要に応じて適切な対応方法を取る。また、個別支援計画にあげた活動を日々実施出来ているか確認し、部下に適切な助言や指導をすることを目標にした。結果、大きな事故もなく概ね目標は達成したが、通年で職員の入れ替わりが相次ぎ、日常の基本的な業務の教授に終始した部分もあり、そのことが大きな負担となっていたように思われる。
	・新任、一般職	・利用者の活動や様々な生活の場面で、個々に応じた適切な支援ができる。また、自分の担当利用者の個別支援計画にあげた活動を計画的に実施することを目標にした。結果、勤務歴２年以上の職員については概ね目標は達成したが、新任職員については日常の基本的な業務の習得に追われ、目標を意識した業務の遂行は出来ていなかったように思われる。
監督職→管理職	・サブマネジャー	・自ら策定した事業計画に基づき、業務を遂行することを目標にした。結果、大きな事故もなく、事業計画に基づいての業務を概ね達成した。

③研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
チーフ・サブマネ研修	６月・10月	長須・中野	・苦情対応について、リスクマネジメントの観点から学んだ。 ・第三者評価受審の意義について学んだ。
リーダー・キャップ研修	６月・11月	井本・竹内・山本・藤江・藤澤・岩藤・藤原	・第三者評価受審の意義について学んだ。
一般職員研修	７月・12月	18名	・第三者評価受審の意義について学んだ。
【組織性関係】			
五法人研修	６月	長須・中野	・各法人の先駆的な取り組みを学んだ。

(2).外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
福祉 QC 入門講座	６月	池添	・基本的な福祉 QC 手法について学んだ。
OJT スキルアップ研修	12月	岡	・基本的な OJT 手法や OJT の活性化方法について学んだ。
てんかん基礎講座	７月	岡本・郷原	・てんかんの基本的な症状や対処方法について学んだ。
【組織性関係】			
国際福祉機器展　実践発表	９月	池添・藤澤	・環境改善委員会での実践事例を発表している。

④　その他（自己啓発援助）

9. 防災安全衛生活動

・毎月スチュエーションを変えて、利用者を交えて避難訓練を実施している。また、毎年３月には倉敷市消防署参加のもと、実際に消化器を使用して消火訓練も実施している。

・今年度(12 月)、倉敷警察署の協力を得て、交通安全教室を実施している(利用者 16 名参加)。

・職員及び利用者家族を対象に、毎月職員会議や家族会の機会を利用して、看護師や管理栄養士が中心となって、てんかん発作・心肺蘇生法・食物アレルギー等の勉強会を実施している。

10.施設設備工事及び高額什器備品購入

・マイクロバス

10.その他特記事項

・特になし

11.総括及び次年度の課題

今年度は、大きな事故や施設内での感染症等の発症もなく、施設利用状況も全ての項目で計画を上回った。また年間を通して、地域住民を招いての園内行事を増やし、利用者も例年以上に地域行事に参加して地域住民との交流を図った。

また、施設内外の補修・美化を積極的に行なった結果、特に食堂及び日中活動場所の個別スペースについては著しい環境改善が図れ、概ね事業目標は達成した。

更には、外部有識者の協力を得ながら、次年度へ向けて人員配置・職員の役割分担・業務内容の見直しも行なった。

次年度については、上記の人員配置等の見直したものを実践に移す年で、生活介護サービス提供場所も移転することもあり、引き続き利用者の安心・安全を第一に考え、各所に職員の意見を取り入れながらより良いものに改善して、定着させて行きたい。

また、利用者のスムーズな地域移行に欠かせない地域住民の理解を得る為の交流や、利用者家族の意識改革については改善の余地が多々あり、次年度も継続して粘り強く努力していきたい。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：あしたばケアホーム】【事業所責任者：立石敦嗣】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域の協力体制を作る	継続した地域清掃に参加で、地域の方が直接利用者自身に話しかけている場面が多く見られている。
地域の中で安心して過ごせる仕組みを作る。	近隣の医療機関への定期通院を通して、利用者が単独で通院しても対応可能となり、健康面の以外の相談にも乗って頂ける関係ができつつある。
地域移行の推進	女性の利用者の地域移行を進めてきたが、地域からの苦情や価格面での折り合いがつかずにホームの設立は行えていない。
利用者確保。	各支援センターや他法人のＧＨ・ＣＨに対して、連絡協議会等で情報を伝え、直接顔が見える関係を作ることで定期的に入居希望者のお話を頂いている。
精神 CH 創設に向けての準備	職員が精神障害者関係施設へ見学、参考書の購入、外部研修への参加で知識を高めることが出来たが、世話人までの情報の共有が出来ていない。
支援の質の向上。	世話人会議を定期的に設けることで、個別支援計画のお落とし込み、自閉症や虐待防止法の勉強会を実施した。

（説明）

あしたばケアホームは、地域の方からの入居者に対しての声かけが会話に変わり、定期通院を続けることで１人でも対応可能となって来ている為に、少しずつではあるが地域との関係作りが身を結び始めたように感じられた。

地域移行の推進に対しては、障害者が居ることの理解は広まっているが未だ差別はある。また、ずっと同じ地域に住まわれている方と引っ越しをしてきた方とでは理解の差が大きかった。

クムレ栗坂の設立に伴い、利用者確保・創設準備に努めた。建物の完成後はイメージが付きやすいようで見学などの連絡を多く見られている。工事期間の急な変更などもあり年度末に慌ただしく準備をする事になった。

世話人会議を設けることで、「お世話をする人」から「支援者」への第一歩に繋がった。今後も継続して情報の共有かはもちろんのこと、勉強会を実施して、世話人の支援の質の向上を図りたい。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
自己点検の実施	年に１回のみ行なっているが、内容の精査が必要。
障害の重い方の地域移行の実現	障害の重い方の地域移行については、全く話を進めることができていない。
権利擁護への意識を高める	職員が勉強会に参加し、その内容を会議の場で、情報を共有し支援の振り返りも行う事が出来た。

（説明）

自己点検においては、実際の業務内容と点検項目に大きな差があり、現状の業務に近いものへの、点検項目の精査が必要であった。

障害者虐待防止法の外部の研修会に参加することができなかったが、事業部内の勉強会等に参加をすることで、補うことができた。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

	S責任者		支援員		世話人		利用者	
月	配置基準	現　員	配置基準	現　員	配置基準	現　員	計画	実績
4月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	370	380
5月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	360	374
6月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	380	353
7月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	360	366
8月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	360	357
9月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	350	347
10月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	460	350
11月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	450	410
12月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	450	403
1月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	450	389
2月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	430	383
3月	1	1	0.8	1	2.4	2.5	460	419
合計	１２	１２	9.6	１２	28.8	30.0	4880	4531

※職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

６月に１名退所した為に 11 月に入居するまで目標値は下回っているが帰宅が少なかった事で大きな差は出ていない。10 月より１棟のホームの設立を計画した為に目標値を下回っている。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
障害者スポーツ大会	５月	フライングディスク・ボウリングに参加	４名の利用者が参加
ビアガーデン	７月	倉敷駅屋上にてビアガーデンに参加	７名の利用者が参加。好評であった。
入居者交流会	７月	利用者の交流会	６名の利用者参加 好評であった。
野球観戦	８月	マスカットスタジアムにて観戦	７名の利用者が参加 好評であった
あしたば納涼大会	８月	あしたばにて模擬店、ステージ発表	１１名の利用者が参加 好評であった。
大相撲観戦	１０月	水島福田公園にて相撲巡業	７名の利用者が参加 好評であった。
コトノハレルヤ	１１月	コトノハにて模擬店、ステージ発表	７名の利用者が参加 好評であった。
荘園の里ふれあい祭り	１１月	庄小学校にて模擬店、ステージ発表	７名の利用者が参加 好評であった。
クリスマス会	１２月	各ホームで実施	好評であった。
年越し、初詣	１月	年越しそばの作り 近隣神社へ初詣・外食	帰宅の無い方５名参加
ツーデイマーチ	３月	倉敷市内をコースに分かれて参加	９名利用者が参加

4. 保護者（家族）との交流事業

・帰宅をする際に、家庭連絡表を直接お会いして情報の共有化を図っている。また、ホームに来られない家族については、電話にて口頭で本人さんの状態について、その都度連絡をしている。

・本人さんの大きな状態の変化が見られたときには、関連施設の職員、家族を、本人を含めてケア会議を設けている。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	３件
意見・苦情	未対応０件	４件
事故	発生０件	３件

上記を受けての具体的改善活動

・ヒヤリはっと　利用者の服薬を忘れており遅れて服薬をしていることが見られた為に、本人への薬の必要性のケースワークの実施、世話人への確認、チェック表の作成をして服薬忘れに努めている。

・意見・苦情　地域住民の方から、車の運転について苦情が寄せられており、施設近隣道路は 30km を励行すること、譲り合い等のマナーの良い運転を心がけることを徹底した。また、携帯電話を使用することが多いので、ハンズフリーを購入して対応した。

上東地区でのケアホームの増設について、地域の方か意見・苦情が寄せられている。地域の方はケアホームの建設が確定していると思っておられ、説明が無い・隣接道路が通学路になっている・隣接の建物で音楽教室や賃貸物件の大家をしていることで営業妨害になる等言われている。その為に未だ検討中であることをお伝えして、確定し次第、ご連絡、説明会をさせていただくことをお伝えしている。

・事故　入院中の利用者が病院の売店で万引きをしたことで、病院側と会議を設けて、主治医、病院事務員、看護師、売店の定員、ホーム職員と連携、本人にも約束をしてもらい再犯防止に努めた。

利用者の服薬忘れがあり、本人への薬の必要性のケースワークの実施、世話人への確認、チェック表の作成をして服薬忘れに努めている。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・上東ホーム町内会清掃活動に利用者と一緒に継続して参加している。
・地域行事への参加
（山地祭り、サンライフ祭り、庄の里の祭り、荘園の里ふれあい祭り、人権フェスタ庄）
・地域の医療機関への定期通院。
・年２回のクリーンキャンペーンに参加している。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・チーフ業務については、事業部内のほとんどが１年目ということがあり、直接事務局へ連絡をして、分からない事連絡をして対応した。担当利用者や現場に入ることも多く、事務的業務が時間外になることが多かった。事業計画に基づき、業務を遂行した。事業計画については、大きな事故も無く概ね達成した。 ・異動して来たばかりということもあり、１日の業務の行う事で精一杯になってしまい、チーフ業務の代理・補佐をすることが難しかった。また、利用者との関係が築くことが難しいこともあり、個別支援計画を計画通りに遂行できていない現状もみられた。 ・ ・ ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
手洗い講習会	４月	全員	手洗いの基本を学んだ
救急法	６月	全員	救急法の復習をした。
リスクマネジメント研修	６、９月	全員	リスクマネジメントの考え方を学んだ。
てんかん勉強会	９月	全員	てんかんの知識を学んだ
虐待防止法勉強会	９月	立石	障害者虐待防止法の基礎を学んだ
サブマネ・チーフ研修	６月、１０月	立石	チーフ業務を実践するためのスキルを学んだ。特に苦情対応についてリスクマネジメントの観点から学んだ。
リーダー・キャップ研修	６月、１１月	大江	第三者評価受診の意義について学んだ。
【組織性関係】			

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
精神障害者施設見学	４，５月	全員	精神障害者の特性を学んだ
岡山県 GH･CH 世話人等研修会	７月	大江、世話人１名	GH･CH の現状を学んだ
防火管理者講習	１月	大江	防火管理の基礎を学んだ
統合失調症フォーラム	２月	立石	統合失調症の特性を学んだ
【組織性関係】			
福祉サービス苦情解決研修	２月	立石	苦情解決の対応を学んだ

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

・定期的にホームの設備安全点検の実施。
・防災に関する管理規程に基づき、消化器、誘導灯などの定期点検を実施。
・各ホームの避難経路、避難場所の図面による説明、掲示。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

・地域移行の推進
・クムレ栗坂の入居者の安心した生活が送れる体制整備

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：　　コトノハ　　】【事業所責任者:　上村昌平　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
アートプロジェクトにおいて、アートを媒体として地域・本人・家族を巻き込んだイベントを実施	事業所内・外での取り組みを計画として掲げ、情報期間も活用することで、より多くの方に利用者理解・事業所理解等を伝える機会となった。
商品開発と販路の拡大	五法人研修や庄公民館、福祉系大学へ出向くことで、事業所での取り組みを伝えると共に、作品の販売を行ない、売上を利用者へ還元した。
人権プロジェクトにおいて、職員の人権意識の向上を図る	スローガンを作成し、掲示することで、職員が意識して支援するように努めた。8 月に実習生を交えた人権についての勉強会、10 月以降障がい者虐待防止法について、職員に向けての勉強会の実施。あしたばと合同でガイドラインの整備を行ない、実践研究発表で報告した。
個別支援計画の見直し	川崎医療福祉大学の寺尾教授と連携し、個別支援計画、評価についての勉強会を下半期に自立支援事業部の有志で取り組んだ。次年度継続して取り組む課題である。
職員の知識の向上	接遇リーダー、障がい者虐待防止法、介護技術の向上、自閉症支援（TEACCH）など、専門的知識を得るための外部研修、アート関係の施設へ見学を行なった。

（説明）

アートプロジェクトを主とした取り組みでは、事業所へ来てもらうだけでなく、出向くことで新たな繋がりを構築していくことができた。特に 11 月末からの展示会では、情報誌や新聞等へも情報を発信することで、より多くの方に取り組みを知って頂く機会となった。

人権意識の向上は、10 月に障がい者虐待防止法が施行されたことで、事業所のみに留まらず自立支援事業部や家族会でも勉強会の機会を設けたり、外部研修の際に職員・家族が参加して共に知識を得る機会とした。

個別支援計画は、コトノハでは従来の様式を継続して使用しているが、寺尾教授の指摘の通り、「評価」の部分が曖昧であるため、次年度の取り組みに繋げて継続して行なっていく必要がある。

職員の知識の向上については、専門職に関しての研修への参加やアートの視点から支援について、作品展や他法人の実際の取り組みをみて学ぶ機会を設けた。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
第三者評価の自己点検の実施	全職員対象に、第三者評価の自己点検を行ない、現在の事業所に必要とされている課題の洗い出しを行なった。各業務に関するマニュアルの作成をすすめ、整備を行なった。
地域移行への取り組み	次年度地域移行を目指す利用者について、家族・成年後見人、関係法人職員、相談機関がケース会議を行ない、段階的な移行整備を行なった。

（説明）

マニュアルの作成や整備が課題の１つとして挙がってきたが、実施管理者以下全員が日中現場に出ていた状況であり、新年度に向けての整備も整っていないのが現状である。

地域移行に関しては、次年度継続していく取り組みであるため、明確な成果としては挙げることは困難であるが、関係者が顔を合わせ情報交換・共有を行なうことで、報告・連絡・相談の体制を整えることが出来た。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	18.7	20.5	22	22	830	813	0.97
５月	18.7	19.6	23	23	880	903	1.02
６月	18.7	20.5	23	23	860	879	1.02
７月	18.7	19.9	23	23	870	918	1.05
８月	18.7	18.4	23	23	830	852	1.02
９月	18.7	19.8	22	22	790	841	1.06
10月	18.7	19.9	24	24	870	955	1.09
11月	18.7	19.8	22	22	860	865	1.00
12月	18.7	20.4	22	22	790	793	1.00
１月	18.7	19.4	22	23	760	795	1.04
２月	18.7	19.6	21	21	780	681	0.87
３月	18.7	20.7	23	23	830	872	1.06
合計			270	271	9940	10167	1.02

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

４月は､１日の辞令交付式の日を当初は開所予定としていたが､閉所とし職員全員出席したため､予定を下回っている。

１月は年末年始の休みが計９日の計算でいたが、家族からの「休みが長すぎる」「長期間家庭で利用者をみることが難しい」との声が多かったために、１日多く開所している。

２月はインフルエンザが事業所内流行し、罹患者及び罹患の恐れがあるために利用を自粛して頂いたために予定を下回っている。しかし、年間通して見ると、計画を上回る利用数となっている。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
ふれあい旅行	７月	利用者・家族・職員との日帰り旅行（NEW レオマワールド、おかやまファーマーズマーケット　ノースヴィレッジ）	車内や現地にて、利用者・家族との積極的な関係づくりができた。参加延べ人数 93 名 計画の段階で、家族への情報伝達が異なり混乱を招いた点は次年度の課題
コトノハナイトクルーズ	８月	アートや音楽を通して、地域と利用者、家族との交流を図る	今年度は紙芝居、音楽、クラシスによる軽食等内容を充実させて実施。季節感のある催し物の開催となった 来場者約 100 名
クラコトフェスティバル 2012	11 月	利用者、家族、地域の方を招いての祭り	5 月頃より栗坂地区の事業所が話合いを重ね、開催。天候にも恵まれ屋外で開催することができた。来場者延べ約 700 名
クセの展示会	11･12 月	利用者の作品展示 利用者が講師となりワークショップの開催 商品の販売	初の事業所単位では単独の展示会を開催。利用者の拘りなどを「クセ」と捉え視点を変えてみることをテーマとした 来場者約 1,000 名
クリスマス会	12 月	作業収入における利用者への還元行事	各班で外食、催し物、調理等を企画し、全利用者、職員が何かしらの会に参加することができた。

音楽療法発表会	１月	音楽療法で行なったことを家族・地域に披露する	年間通して取り組んできた成果を、個別演奏、グループ演奏等の形で発表家族・地域の方含め 20 名ほどが来場

4. 保護者（家族）との交流事業

・当初の年間計画では２ヶ月に１度の家族会の開催としていたが、毎月開催し、定期的に情報交換を行なうことができる機会とした。

・家族に向けての昼食会を年 10 回実施（延べ人数：６名）。平日の日中ということもあり、参加することが難しい様子であった。

今年度は、家族会の場に職員が参加し昼食を摂りながら家族と情報交換が出来る機会を設けた。

・ふれあい旅行、音楽療法、クラコトフェスティバル、クセの展示会等で利用者の日常の取り組みを実際にみていただく機会を設け、理解を深めていただくこととした。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	197 件
意見・苦情	未対応０件	33 件
事故	発生０件	68 件

上記を受けての具体的改善活動

・ヒヤリはっと…６月の事故発生以降、細かい事例に関しても報告するように徹底したことで、件数は増加している。このことは、職員の気付きの意識が高まってきていることを表しているとも捉えることができる。事例に関してはその日のうちに解決できるものは早急に対策をとり、全職員に伝えることを徹底した。

毎月の安全点検会議の際に、作成したハザードマップ等の見直しも行ない、各作業部屋の危険箇所の洗い出しと改善を行ない、減らすことが可能なハザードマップの危険箇所の削減を行なっている。

・意見、苦情　…家族からの苦情については、謝罪の意を伝えるとともに改善策を伝えている。

あしたば、なないろ等の法人内他事業所を併用している利用者についての意見、苦情は、双方で謝罪をすると共に、再発防止についての対策を検討し家族へ連絡している。

・事故　　…６月の事故後、過去６年間の利用者一人ひとりのこれまでのヒヤリはっと・事故発生

の事例を全て見返し、利用者の特性や拘り等から発生する事例と集計し傾向、全職員に目を通してもらっている。繰り返し同じ事例が発生する件や、支援員の確認不足によって発生する件の減少を目指して会議や終礼で繰り返し伝えていった。
設備改善や備品導入による改善策は年度内には行なうことが出来ていない。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・田植えの時期を前に、栗坂地区の事業所で付近の溝掃除を行なった。（5 月）
・庄地区人権学習交流会において、1 名の受け入れを行なった。（6 月）
庄地区人権推進委員会に参加し、意見交換を行なった。（7・9 月）
人権推進事業へ参加した。（7・10・11 月）
・ナイトクルーズを開催し夜の事業所を開放。DM を配付するなどし地域の方、福祉職でない方にも足を運んでもらう機会とした。（8 月）
・手をつなぐ育成会　岡山大会　出店販売(9 月)
・吉備国際大学　学園祭　出店販売(11 月)
・庄人権フェスタ　出店販売(11 月)
・「クセの展示会」(11 月)
・クラコトフェスティバルの開催（栗坂地区事業所合同)。（11 月）栗坂の各区長様へ挨拶に行っている。
・音楽療法の発表会に伴い、栗坂地域の方に案内を配付させていただき、来場いただいている。（1 月）
・見学者、実習生受け入れ
5 月…ボランティア 1 名(5/18)、職場体験 1 名(5/24)、倉敷支援学校生徒 1 名(5/28)
6 月…見学者 7 名(6/9)、庄人権推進委員交流会 1 名(6/14)、1 日体験(6/18)
四国学中央医療福祉総合学院　実習 1 名(6/5～6)
川崎医療短期大学　実習 5 名(6/12～27 の期間内)
7 月…川崎医療短期大学　実習 4 名(7/3～11 の期間内)
8 月…倉敷支援学校　体験実習 1 名(8/1～3)、
岡山県立大学　介護実習 3 名(8/20～24)
川崎医療福祉大学　見学・体験 3 名(8/27)
9 月…岡山県立大学　介護実習 3 名(9/3～7)、
川崎医療福祉大学　現場実習 3 名(9/6、7)
美作大学　現場実習 1 名(9/11)、
九州保健大学　現場実習 1 名(9/13、14)
他事業所より　見学 2 名(9/5、27)、
早島支援学校　見学 2 名(9/14)
岡山南支援学校　見学 2 名(9/25)
10 月…岡山南支援学校　体験実習 1 名(10/10～12)、
早島支援学校　見学 4 名(10/4)
11 月…早島支援学校　体験実習 2 名(11/19、20、29、30)
川崎医療福祉大学　見学・ボラ 2 名(11/20)
福祉新聞社　見学 1 名(11/21)
水島地区主任児童委員　見学 22 名(11/26)

12 月…(福)宇和島福祉協会　　見学 6 名(12/8)
2 月…厚生労働省　逸見課長　　見学(2/1)
3 月…美作大学学生、岡山西支援学校教師　見学(3/6、13、15)

7. 人材育成計画

① 新人育成のOJT　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
挨拶・笑顔・言葉使い 基本業務	・新年度になり、職員も変わったために、利用者、家族への対応を第一に考え挨拶や言葉遣いについて意識を高めていくように取り組んでいったが、年度内には保護者から「今まで出来ていた対応が出来ていない」「挨拶がない」などの苦情も何度か寄せられていたため、会議等を通じて職員に働きかけることで、改善している。 ・ルーティンの基本業務を行なうことが出来るように、マニュアルを使用して業務を伝えたり、意見交換を行ない進捗状況や悩みなどを聞いていった。担当利用者・班以外の支援に入ることも徐々に増加していくに従い、周囲を気にかける様子や指示を出すなど視野を広く持つことが出来ていることを確認している。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ	・事業計画に基づく業務の遂行。概ね計画通りに達成している。担当利用者を持ち、利用者がいる時間帯はほぼ現場に入っているため、事務的業務の大半が時間外か休日に行なっている。
	・リーダー	・職員欠員のため、リーダーが担当利用者を持ち、キャップの下で班運営を行なうという体制が年間通して続いてしまったため、当初予定していた業務や動きを行なうことができていない。
	・キャップ	・キャップ自身経験年数も少ない為に、現場に出ているリーダーやチーフに確認しながら班体制を整え、班全体をまとめて運営していった。1 日の運営を行なうことで精一杯になってしまい、個別支援計画を計画通りに遂行できていない現状もみられた。
	・新任、一般職	・1、2 年目の職員が半数以上であるため、基本業務を確認しながら 1 つずつ確実に行なうこと、個別支援計画の遂行を目標にした。概ね基本業務、OJT、個別支援計画を達成出来ているが、細かい所で決められた手順、作業が出来ていない部分もある。

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
サブマネ・チーフ研修	６・10月	上村	・第三者評価受診について、意義を学んだ。 ・リスクマネジメントについて、苦情解決の手法やマニュアル作成について学んだ。
リーダー・キャップ研修	６・11月	岡本ひ、林、仲山、武政、三木	・第三者評価受診の意義について学んだ。 ・事業所内の問題解決のための手法を学んだ。
一般職研修	７・12月	小山田、岡本な、楠戸、中村、千後瀧、鳥越、渡辺	・第三者評価受診の意義について学んだ。 ・事業所内の問題解決のための手法を学んだ。
新任研修	８・１月	戸井	・OJT 等の振り返り、２年目からの目標管理の立て方を学んだ。
リスクマネジメント研修	５・６・９月	武政、林、渡辺、上村	・リスクマネジメントの考え方を学んだ。
KYT 講習	８月	全職員	・川崎医療福祉大学の田口教授を招き、KYT トレーニングを実施。
てんかん勉強会	９月	全職員	・外部講師を招き、てんかんについての基礎知識を学んだ。
実践研究発表	１月	全職員	・各事業所の取組み発表
新採用職員宿泊研修	２月	小山田、戸井	・
寺尾講座	年間	新採用職員 武政、鳥越	上半期：自閉症について 下半期：個別支援計画、評価について
【組織性関係】			
五法人研修	６月	上村	・各法人の先駆的な取り組みを学んだ。

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
接遇リーダー研修	６月	鳥越	・利用者、家族、地域、来客に対しての対応や電話対応等、社会人としての対応を学んだ。
障がい者虐待防止法・権利擁護研修	９・10・２月	仲山、武政、鳥越	・法についての理解を深めた。
介護職員実技講習	10･11 月	鳥越、戸井	・利用者介護についての基礎知識を学ぶと共に演習を通して身につけることを目的とした。
行動援護従事者研修	２月	武政	・行動援護サービス提供にあたり、対象となる利用者の特性理解と演習を通してシュミレーションを行なった。
自閉症支援現任者セミナー	３月	小山田、上村	・自閉症支援についての基本的知識を学ぶと共に、先駆的取り組みの報告を受けた。
【組織性関係】			
安全運転管理者講習	６月	岡本ひ	・運転する上での、留意事項や、利用者の安全を守るための啓発について学んだ。
相談支援従事者初任者研修	９月	林、武政、鳥越	・サービス管理責任者の役割等について講義・演習を受けた。
社会福祉士現場実習指導者講習	10月	鳥越	・現場実習受け入れのための講習を受けた。
サービス管理責任者研修	11･12 月	仲山、林	・サービス管理責任者としての、必要とされる分野について講義・演習を受けた。

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

・年４回の避難訓練を実施。出火場所や避難場所、点呼の仕方など意見を出し合い改善を図った。
・手洗い講習会に参加（6/21）５名
・救急法講習会に参加（6/28）全員
・緊急時対応シュミレーションを実施（9/20）全員

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

10.その他特記事項

・倉敷市実施指導（12/13）
・指定更新手続き（2/25）
・月１回ペースでまなべ歯科による訪問検診を実施
・音楽療法（週３回）、美術（月5～6回）、陶芸（月１回）の継続実施
・NPO 法人はれるや設立準備 PT（上村）
・県社協　福祉紹介キャンペーン（新見市、赤磐市、岡山市）（上村）
　　DVD 作成等検討委員会（上村）撮影：あしたば

11.総括及び次年度の課題

今年度は、６月 28 日に発生した利用者事故により、管理者をはじめとする全職員が利用者の“安心・安全”とは何かと考えさせられることとなった。事故後の対応は不手際が目立ち対応が後手になっていたが、講習・研修を重ねていくに従い職員の危険意識の向上は高まってきている。しかしながら、繰り返し同様のヒヤリはっとや事故が発生し続けていることも事実であるため、再度利用者一人ひとりの特性を把握して支援していく必要がある。

２月にはインフルエンザＡ型の影響で、利用者、職員ともに罹患者が多く出てしまったが、さらなる感染拡大防止のために、行政への報告、家族への報告、法人内への水平展開等然るべき対応を実施することができた。

個別支援計画の作成・実施や、そのための利用者一人ひとりの評価については、川崎医療福祉大学の寺尾教授にも参画頂いて検討・議論を積み重ねてきているが、ようやく評価を行なっていく段階になり年度が変わるため、利用者のニーズを正確に把握するためにも、継続して取り組んでいき成果を事業所・事業部へ還元したい。

次年度は、更なる職員の入れ替わりがあり、コトノハ立ち上げ当時の職員がほぼいなくなる中、第三者評価の受診も控えているため、キャップ会を主とした業務改善のための取り組みの中で意見を出し合い、再度日常業務の見直し等を行ない、必要とされる職務遂行要領書やマニュアル等の整備にも取り組んでいきたい。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：クラシス　　】【事業所責任者:　　小林　章伸　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

今年度は、4 事業に分かれ、クラシスの作業の基盤が出来たことが一番大きい。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
作業内容充実	作業内容別に担当者を決め、クラシスの中心的な作業を 4 事業（ケーキ、農業、清掃、洗車）としスタートしている。4 事業の各担当者が、年間の事業計画を作成し、先の見通しを立て、事業を進めることが後半になりできるようになってきている。
工賃アップ	昨年度は、利用者一律 3,000 円の工賃から利用者の作業内容に合わせ、日給を決めている。今年度からは、さらに利用者の作業態度、作業内容など 20 点の採点で日給を決めている。年間収入が昨年度は、190 万円に対し、今年度は 260 万円と上がり、平均工賃も上げることが出来ている。
積極的な地域貢献	年度前半は、積極的に地域に出かけ、清掃を取り組んできたが、4 事業化に伴い、清掃活動を縮小している。
人財育成	法人内研修、その他の研修に参加したり、事業所内での勉強会を開催して、レベルアップを行う。

（説明）

ケーキ、清掃は、昨年度に引き続き行ってきたが、4月に農業の話があり、5月から農業をスタートし、洗車は、8月から専門の職員を配置している。利用者の所属も8月にお試し期間とし様々な作業を行い、9月には4事業（ケーキ、農業、清掃、洗車）のどれかに選択して頂いている。利用者にとっても4事業に分かれることにより、1つの事業内容を行う事で、スキルアップ、所属意識、向上心など持ち、作業をすることが出来ている。各事業も試行錯誤をしながら、年度後半には、体制、方向性が整いつつある。

工賃についても、昨年度なかった清掃事業が安定した収益を上げ、事業全体の収入を上げることが出来、工賃アップにつながっている。昨年度の平均工賃が 190 万円を利用者 25 人で割ると月当たり 6,300 円に対し、今年度は、260 万円を利用者 26 人で割ると月当たり 8,300 円と平均工賃が 2,000 円アップしている。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
第三者評価受信準備	自己点検の確認、課題の整理の確認、前回指摘事項の改善を行っている。また、職員が第三者評価受信に当たっての研修を受けている。
継続した研修への取り組み	各職員が自分の得意分野について勉強会を開いている。自閉症についての勉強会、リスクマネージメントについての勉強会、支援についての勉強会を開催している。
ボランティアの育成	特定のボランティアを育成することは、出来ていない。しかし、学生の実習や見学の受け入れ、地域の人の見学など積極的に受け入れて、クラシスを知ってもらう機会を作っている。
成年後見制度利用充実に向けて	ＮＰＯ法人はれるやの設立による、説明会を開催している。家族の方が、多く参加しており、成年後見制度に関しての興味は高いと思われる。しかし、はれるやの加入に関しては、家族の方が元気な方が多く、まだまだ説明が必要と感じる。

（説明）

ボランティアの育成は、なかなか出来ない状況である。

まずは、クラシスに来て下さった見学の方には、丁寧にクラシスの１階での作業内容、２階での作業内容を見て頂き、さらに、パソコンを用い、クラシスで行なっている農業の写真、外出活動の写真を、調理活動の写真を見て頂き、クラシスの活動を理解して頂く事を大事にしてきている。

成年後見制度に関して、ＮＰＯ法人はれるやの立ち上げに関わり、はれるやの事を知って頂く活動を行っている。年２回行い、はれるやのその時の情報を提供している。成年後見を利用したい気持ちはあるが、保護者の方の年齢が若く、利用者も元気な為、まだまだ自分たちで出来ることはする気持ちが強い保護者が多い。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月	2.8	5.7	22	22	462	447	△15
5月	2.8	5.7	23	23	483	468	△15
6月	2.8	5.7	22	22	462	446	△16
7月	2.8	5.7	23	23	483	468	△15
8月	2.8	6.7	23	23	483	466	△17
9月	2.8	6.7	22	22	462	442	△20
10月	2.8	6.7	23	23	483	471	△12
11月	2.8	6.7	22	22	462	476	14
12月	2.8	6.7	23	23	483	471	△12
1月	2.8	7.4	23	23	483	468	△15
2月	2.8	7.4	20	20	420	396	△24
3月	2.8	8.4	23	23	483	489	6
合計	33.6	84.5	269	269	5649	5508	△141

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

昨年度から比べ、1 名の利用者がもっと給料が欲しいという理由でクラシスを退所されている。しばらく利用者が入らない状態が続いている。

11 月に女性利用者が 1 人入り、利用実績がプラスになっている。しかし、翌月からは、インフルエンザなどの影響でクラシスを休む人が多く、計画以上になることが少なくなっている。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
入社式	４月	新利用者、新職員の入社式	利用者が司会、あいさつ、出し物など参画している
花見	４月	３グループに分かれ出かけている	日応寺公園、酒津公園などで花見をしている
招待ボウリング	６月	倉敷のアミパラへ行き、２ゲーム行う	商品があり、大いに盛り上がっている
夏祭り	未実施		
他施設交流会	６月	ワオンに行き、見学をしている	前職員がいて、たくさん話をしている
旅行	１１月	広島へ泊りがけの旅行、境港へ日帰り旅行を行っている	参加者全員充実した時を過ごしている
クリスマス忘年会	１２月	クラシス内でオードブルを取り実施	ゲーム、カラオケなどあり、楽しく過ごしている
初詣	１月	３グループに分かれ実施	最上稲荷、由加山へ出かけている

4. 保護者（家族）との交流事業

○８月に４事業に分かれることもあり、クラシスの事業説明会を開催している。

・２回実施し、１０名の方に参加して頂いている。パワーポイントを用い、クラシスの職員、事業の内容、様子など現状を説明している。

・参加して頂いた保護者からは、クラシスの事がよく分かったと好評であった。

○２月にはれるやの説明会を行っている。

・２回実施し、１１名の方に参加して頂いている。はれるやの事業内容を説明するが、法人後見には関心があるが、身上看護には、まだまだ利用者も若く、保護者も元気な方は、必要ないと考えている人が多い。

・今後の不安にもついて聞いている。グループホームの利用を考えている保護者の方が多く、今後グループホームの事についての情報、見学会の必要性を感じた。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	10 件　・職員の利用者把握不足 ・利用者同士の関係など
意見・苦情	未対応0件	0 件
事故	発生0件	1 件　・職員の把握不足による散歩中の利用者の行方不明

上記を受けての具体的改善活動

・把握が必要な利用者には、散歩など外出するときは、職員が必ず付いて行動をすること、さらに、1 階から 2 階へ移動する際も職員が 2 階へ上がるまで、1 階に入るまでを必ず把握するようにしている。

・利用者同士の関係については、感情の起伏のある利用者に対して、やや感情的になっている場合は、職員が目を離さないようにして、何かあった場合にすぐ間に入れる対応をとるようにしている。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

〇地域の行事へ参加している

・7/27　サンライフ夏祭り
・8/24　あしたば夏祭り
・8/25　庄の里夏祭り
・8/25　コトノハナイトクルーズ
・9/23　手をつなぐ育成会
・11/4　水島スイーツフェスタ
・11/4　吉備国際大学学園祭
・11/4　クラコトフェスティバル
・11/11　プラザ祭り
・11/11　庄人権フェスティバル
・11/18　荘園の里祭り
・12/18～20　イオン元気市
・2/2　くらしきフォーラム

〇月１回の清掃活動

・庄地区の公園を掃除している（庄桜苑の公園、庄中央公園など）。
・地区の清掃活動にも参加している。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
支援の方法	利用者との関わりについて(挨拶、言葉遣い、対応など)を指導している。言葉遣いが年相応でなかったり、口調がきついこともあったりすることを指摘している。秋以降は、改善され問題なく接することが出来ている。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ	・現場をうまくまとめること。職員が多くなるにつれ、難しさがある。達成状況は、未達成。
	・リーダー、キャップ	・職員への指導を行う。毎日のミーティングの際に豊富な知識で指導、情報提供をすることは出来ている。 ・全体を見ることが出来る。４事業に分かれ、全体を見ることは、クラシス内にいない為難しい状況であった。
	・新任、一般職	・作業を覚える。支援の質をあげる。作業を覚えることは、日に日に覚え、上達をすることが出来ている。支援の質をあげることは、利用者が出来ることを行っていることもある為、もっと利用者の先を見て支援する必要がある。
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ ・ ・ ・ ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
チーフ研修	6/1、10/20	小林	リスクマネージメント等について学んでいる
リスクマネージメント	6/25、9/14	中田、小郷	手順書、危機管理に対する考え方を学んでいる
救急法	6/28	小林、越智、中田、小郷、守屋	心肺蘇生の手順を学んでいる
寺尾セミナー		中田	付表などの書式を整理、新しく作っている
【組織性関係】			
リーダーキャップ研修	6/23、11/10	中田	福祉ＱＣ活動について
一般職員研修	6/21、12/15	越智	福祉ＱＣ活動について
一般職員研修	7/28、12/14	小郷、小西	危険予知、福祉ＱＣ活動について
新任研修	8/18、1/26	守屋	接遇などに関して

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
自閉症基礎講座	6/30	小郷	自閉症について学び、クラシス利用者に活かすことが出来ている
就業支援基礎研修	8/2	中田	一般就労するにあたり、どのような支援がよいか学んでいる
ワークひるぜん視察	8/29	小林、越智、中田	職業指導員、福祉職員の上手な役割分担について学んでいる
手をつなぐ育成会	8/23	小西	様々な実践の話

ＤＶや虐待の事	10/23	越智	虐待防止法に関して
【組織性関係】			
中四国職員研究協議会	7/27～28	小林	アムダの話
環境福祉学会	11/18	小林	総社障害者千人雇用の取り組みに関して
工賃向上勉強会	2/5	小林、越智	工賃を上げる取り組みについて、損益分岐点について

④ その他（自己啓発援助）

・8/5　総社千人雇用フォーラム　職員５名参加（小林、越智、小郷、中田、守屋）

8. 防災安全衛生活動

〇平成 24 年　９月 19 日に避難訓練を行っている。

参加者　26 名

地震を想定し、避難訓練を行う。避難場所まで避難するのに３分かかっている。

〇平成 25 年　３月　７日に消防署から立ち入り検査がある。

指摘箇所　　目隠しカーテンが燃える素材であった為、防災の布にするように言われる。

改善個所　　目隠しカーテンの素材を防災の布に２週間後にはかえている。

〇平成 25 年 12 月 20 日にコトノハの利用者と合同で交通安全教室を受けている。

内容　　横断歩道の渡り方、命の大事さを学習している。

参加人数　　利用者　８名、職員２名

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

〇公用車　ニッサン　クリッパー(農業用)

〇公用車　ニッサン　キャラバン(洗車用)　２６０万円

〇洗車道具一式（コンプレッサー、水圧機、掃除機など）　1,551,000 円

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

４事業に分かれて、より事業化、より作業の質をあげる、より利用者の作業へ取り組む姿勢を高め収益を増やすような体制が出来ている。この１年で４つの事業の基盤が整い、やっとスタートラインに立ったのが現状である。職員も計画を立て、作業に取り組むことにも慣れていなく、年度後半になり、計画、お金の事、見通しを立て、事業に取り組む姿勢が身についてきている。

次年度においては、今年度の経験、利用者の力量を踏まえ、どう各事業の作業内容をより充実し、高度なものにしていくかが問われる１年と考えられる。

農業も総社に拠点を移し、クムレ総社が新しく出来る。クラシスとクムレ総社の連携もより強くし、事業だけでなく、職員のスキルアップも協力して行う必要があると考えられる。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：　なないろ　　】【事業所責任者:　角谷　昌彦　　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域貢献への取り組み	日中一時支援においては、月に１・２回清掃活動を行い、その中で地域の方とあいさつをしたり、会話ができてきている。
第三者評価受信後の改善事項の取り組み	事業所内にて、事故・苦情発生時のマニュアルを作成した。
安定した事業運営	４ 月より訪問介護事業を開始し、１ 年間で順調に利用者・時間数も増えてきている。 日中一時支援においても、７月に小学生の活動場所の再構造化を行うことで、利用者の増加・トラブルの減少につながっている。

（説明）

地域貢献については、清掃活動を行うことで、近隣住民の方から声を掛けてくれることや、活動場所に話をしに来てくださる方も増えてきており、少しずつではあるが、地域に溶け込むことができてきているのではないかと思う。

今年度より、４つの事業(居宅・日中一時・訪問・相談)でのサービス開始となったが、職員会議で進捗状況を報告しあったり、可能な所では違う事業の業務に同行するなどして内容を把握できるようにしたことで、職員間同士での協力体制ができつつある。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
目に見えるサービスの変化	アンケートの実施は行えなかったが、定期的に利用者のニーズを本人や保護者の方と話し合い、ニーズに近づけるよう努めた。
利用者満足の向上	アンケート実施を行えなかった為、明確な満足度を図ることは出来ていない。居宅介護においては数名の利用者については対応できる時間や曜日の関係で折り合いがあわず、契約解除となってしまっているが、その他の利用者とは大きな苦情等もなく、継続して支援に入っている。
現在のサービスの問題・課題掌握	毎月の職員会議で、各事業で抱えている問題について、共有し職員全員で意見を出し合い、問題解決を行えるよう努力した。
ボランティアの育成	行事の際に、近隣の大学生ボランティアを募ることで、数名のボランティアが集まったが、単発であり特定のボランティアを育成することは出来ていない。

（説明）

利用者のニーズに少しでも応えれるよう、支援前後において、本人や保護者の方との会話を積極的に行うことで、ニーズや困り感を把握し、支援の形を提案していき、常により良い支援を目指した。

居宅・訪問介護支援については一人の職員だけで支援するのではなく、複数の職員を派遣することで、それぞれの観点から意見や課題を出し合い、問題解決に努めた。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	居宅介護・訪問介護				移動支援		日中一時支援				相談支援			
	職員数		時間		時間		職員数		利用人数		職員数		件数	
	定員	現員	計画	実績	計画	実績	定員	現員	計画	実績	定員	現員	計画	実績
４月	2.5	4	500	531	250	220	4	4	330	402	1	1	10	4
５月	2.5	4	500	598	250	234	4	4	330	343	1	1	10	5
６月	2.5	4	500	637.5	250	268	4	4	330	343	1	1	10	5
７月	2.5	4	550	577	250	292.5	4	4	400	416	1	1	10	7
８月	2.5	4	550	672.5	250	262	4	4	450	481	1	1	10	7
９月	2.5	4	550	688.5	250	231	4	4	330	388	1	1	10	7
10月	2.5	4	600	684.5	250	299	4	4	330	388	1	1	10	7
11月	2.5	4	600	645	250	266.5	4	4	330	358	1	1	10	7
12月	2.5	4	600	662	250	274.5	4	4	330	450	1	1	10	9
１月	2.5	4	600	387	250	261.5	4	4	330	353	1	1	10	9
２月	2.5	4	550	432.5	200	250	4	4	300	331	1	1	10	9
３月	2.5	4	600	580.5	250	310.5	4	4	330	375	1	1	10	9
合計			6,700	7,096	2,950	3169.5			4,120	4,628			120	78

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

移動支援・日中一時支援においては、安定して計画をクリアすることができている。居宅介護・訪問介護においては、利用者の入院等の影響で目標値を達成できない月もあったが、年間通しては達成することが出来ている。

相談支援においては、新規利用者の開拓が難しく、年間通して目標値をクリアすることができなかった。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	
日中一時支援	毎月１回	４月　お花見・バーベキュー	砂川公園
		５月　動物園	池田動物園
		６月　バター作り	安富牧場
		７月　自動車博物館見学	福山自動車博物館
		９月　ドラえもん展	岡山シティーミュージアム
		１０月　サツマイモ堀り	水車の里フルーツトピア
		１１月　クラフト作り	たけべの森
		１２月　クリスマス会	コトノハ
		１月　初詣・餅つき	木華佐久耶比咩神社
		２月　いちご狩り	中山いちご園
		３月　紙すき体験	夢すき公園

4. 保護者（家族）との交流事業

日中一時支援において、すべての利用者の方に対し、なないろ独自の連絡帳を作成し配布することにより、近況報告や困り事・悩みなどについて、タイムリーに把握できるようになった。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	２件
意見・苦情	未対応０件	２件
事故	発生０件	１５件　（日中一時支援１４件　　行動援護１件）

上記を受けての具体的改善活動

日中一時支援における事故が多く上がってきているが、原因としては毎日 10 名前後の違う利用児が来ることに対し、対応するスタッフも日々変わっており、スタッフ同士の引継ぎ・連携がとれていないことが挙げられる。その為、日中一時支援用の連絡ノートを取り、タイムリーに状況を伝えるようにした。また、事故に対しては、職員だけでなく、パート・アルバイトと共に解決案を考え、共有することでスタッフのレベルアップ及び事故防止に努めた。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

日中一時支援において、月に１・２回程度、利用児と一緒に活動場所周辺の清掃活動を行っている。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果
社会人としての自覚を養い、定型業務を実践・習得する。	報連相の徹底及び率先力を身につけ、保護者への対応を確実に行えるようにすることを留意した。 新人職員が１名配属となったが、社会人経験豊富であった為、報連相については確実に行えており、また、自発的に考え、行動することができている。利用者および家族への対応も問題なく、信頼を得ることができている。

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・各事業が協力し合える体制作りを行った。相談支援だけでなく、各事業に積極的に入ることで改善点・アドバイスを行った。 ・ ・ ・新規事業(訪問介護)の開始により、利用者確保及びヘルパー確保に努めた。H25 年３月時点で 80 時間を超え、利用者数・時間数を順調に伸ばすことができている。 ・ ・ ・それぞれが事業の責任者として、契約や苦情に対してチーフの指示を仰ぎながらも各自で解決できるようにした。報連相を心掛け、すぐにチーフに相談する形を作った。 ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ ・ ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	備考
【スキルアップ関係】			
サブマネチーフ研修	６月・10月	川崎	リスクマネージメント
リーダーキャップ研修	６月・11月	加来	第３者評価の受診の意義について
一般職研修	７月・12月	角谷・角南 岩山・岡本	福祉ＱＣ活動
【組織性関係】			

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	備考
【スキルアップ関係】			
岡山県福祉職員生涯研修会	５月	角南	福祉の理念･チームワークの基本･コミュニケーションについて
みずきの会	５月	加来	事例の臨床像を描く思考
ホームヘルパー2 級講座	５月-８月	岩山	ヘルパー2 級資格取得
福祉有償運送従事者講習	６月	川崎・岡本	有償運送資格取得
居宅介護・相談支援等サービス研究会	10月	川崎	福祉制度の動向･今後の在り方について
オールジャパンケアコンテスト	10月	加来	介護技術向上
福祉有償運送従事者講習	11月	加来・岩山	有償運送資格取得
インターシップ事業参加	11月	川崎	違う地域(宮崎県)での相談支援のあり方について学ぶ
防災管理者研修	１月	川崎	防災管理について

くらしきフォーラム	２月	川崎・角谷	地域で生活する障害者について
行動援護従事者研修	２月	岩山	強度行動障害への理解・対応について
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

・防災管理者研修に参加している。(川崎)
・非常口の点検、消火器の有無等について確認している。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

２月、日中一時支援中高生の活動場所において、エアコンを設置している。

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

・日中一時事業において、10 名以上の利用者が卒業で契約終了となる為、新規契約者の発掘
・地域や家族との交流の機会を作る

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：倉敷地域生活支援センター】【事業所責任者:大村　友子】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域活動支援センターⅠ型 指定一般相談支援事業 ①委託相談支援事業者として幅広い相談に対応する。 ②地域自立支援協議会への提言など委託相談支援事業者として中立公平な意見を提案する。 障害児相談支援事業 ③増加傾向にある「発達障がい児」への相談体制を整備する。	・ 個別のケース会議を通して関係機関との連携強化とネットワークの構築を行った。倉敷市総合療育相談センターゆめぱるや倉敷発達障がい者支援センターとの密な連携と医療とのチームアプローチ体制の構築に向け、事例を通じ連携している。 ・ 自立支援協議会では全体会を７月と３月に実施している ・ 障害児相談支援事業については市の意向もあり、今年度の作成は無かった。
指定特定相談支援事業 （計画相談支援） ①毎月定期的に年間平均１ヶ月約１８ケース以上 ②継続サービス利用支援（モニタリング）の強化	・ 計画相談支援については、市全体としての相談支援の導入の考え方が、４月以降に発表されたこともあり、当初の計画とは変更になっている。今年度は、市内に複数ある相談支援事業所に繋ぐ役割も果たしている。
倉敷地域自立支援協議会 ①全体会の開催：年２回を予定 ②ホームヘルパー研修会・ガイドヘルパー研修会の開催 ③第８回くらしきフォーラム開催 ④社会資源の開発（基幹相談支援センターの提案） 地域貢献 ①ボランティアの育成 ②見学者への丁寧な対応	・ 全体会（７月、３月）を年２回開催している。また、２月にはくらしきフォーラムを開催している。 ・ 基幹型の支援センターは市内５か所のⅠ型の支援センターの整備後になる。 ・ サロン活動を通して今年度は延２１名のボランティアに体験の場の提供を行う。 ・ 外部からの視察については積極的に意見交換を交わし、こちらのノウハウの提供を行っている。

（説明）

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
①ボランティアの育成	年間８名以上の育成をめざしたが、発達障がいの方のボランティア希望もあり、今年度は延２１名の方にボランティア活動をしていただいている。

（説明）

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

	職　員		計　画		実　績		
月	配置基準	現　員	地域活動支援センターⅠ型	計画相談支援	地域活動支援センターⅠ型・住宅	計画相談支援	地域定着支援
４月	5	5	680	18	457	12	0
５月	5	5	680	18	440	11	11
６月	5	5	680	18	390	11	11
７月	5	5	680	18	450	12	11
８月	5	5	680	18	490	12	13
９月	5	5	680	18	563	12	13
10月	5	5	680	18	671	13	12
11月	5	5	680	18	653	14	13
12月	5	5	680	18	520	14	13
１月	5	5	680	18	554	14	13
２月	5	5	680	18	593	11	10
３月	5	5	680	18	700	11	10
合計	60	60	8,160	216	6481	147	130

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

新人職員が業務になれた年度後半には多くの相談をお受けできるようになっている。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
お花見	４月１１日	備中国分寺の桜を観に行く	５名参加
ボーリング大会	６月１３日	障害者の招待ボーリングでサンフラワーボウルに行く	７名参加
お食事会	７月３日	外食を行う	１１名参加
レオマワールドへの旅	９月２６日	公共交通機関を利用し、テーマーパークに遊びにいく	７名参加
お食事会	１０月２４日	外食を行う	７名参加
クリスマス会	１２月２１日	カラオケ屋にてクリスマス会を行う	１２名参加
ランチ	２月１４日	バレンタインデーに外食を行う	２名参加
焼きそばパーティ	３月３０日	支援センター内で昼食に焼きそばを皆で作り食べる	１４名参加

4. 保護者（家族）との交流事業

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	
意見・苦情	未対応０件	２件。公用車での移動中の苦情。
事故	発生２件	・訪問途中で、自転車と公用車との人身事故。 ・訪問時、駐車場で駐車してる車との接触事故。

上記を受けての具体的改善活動

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

４月２６日　地域の清掃活動への参加。
１１月２５日　菅生学区コミュニティまつりへの参加。
２月２日　　くらしきフォーラムの開催。

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・事業計画に基づく業務の遂行。結果、年度の終わりには事業計画に基づいた業務を概ね達成した。 ・ ・ ・該当者なし ・ ・ ・新任職員は担当業務を一人でこなせるようになることを目標に一年目を過ごしている。報告、連絡、相談を密に行うことで、日常業務は一人でこなせるようになっている。 ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・事業部の運営統括者として実践できるための研修を積極的に受け、取り入れた。 ・ ・ ・該当者なし ・ ・

③ 研修計画

(1).内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
幹部研修	4月14日 10月3日	中尾	
リスクマネジメント研修	5月17日	中尾・大村	リスクマネジメントについて学ぶ
寺尾ゼミ	5月30日 6月14日 7月26日	赤澤・三宅	自閉症について学ぶ
サブマネ・チーフ研修	6月1日	大村	
一般職員研修	7月 12月	赤澤・三宅・蛭田	
リスクマネジメント研修	9月14日	赤澤	リスクマネジメントについて学ぶ
てんかん勉強会	9月19日	全職員	てんかんについて学ぶ
緊急時シュミレーション	9月21日	大村・赤澤・三宅・蛭田	緊急事態が発生した際の対応方法を学ぶ
チーフ研修	10月20日	中尾・大村	
実践研究発表会	1月20日	全職員	
新採用職員宿泊研修	2月21・22日	三宅	
【組織性関係】			
五法人研修	6月15・16日	中尾・大村	
救命救急法	6月28日	全職員	救命救急法を学ぶ
第三者評価勉強会	11月5日	中尾・大村	第三者評価について学ぶ

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
ＧＨＣＨ世話人等交流会	７月７・８日	中尾・赤澤	入居者の交流を実施
中国・四国地区知的障害関係職員研修会	７月２６・２７日	大村・赤澤	発表および他施設の取り組みを学ぶ
障害者虐待防止研修会	９月６日	中尾・大村	虐待防止法の施行を受けての行政説明。窓口対応を学ぶ
相談支援専門員初任者研修	９月３・４・１０・２６・２８	中尾・赤澤	
精神障がい者の地域移行支援に関わる研修会	１０月１７日	中尾・大村・赤澤	行政説明を受ける
ガイドヘルパー研修会	１１月２４・２５	赤澤	ガイドヘルパーの養成研修
ミラクルQ研修会	１１月１日	中尾・大村	相談支援について学ぶ
くらしき発達障がい者支援フォーラム	１１月１７日	大村・赤澤	啓発フォーラムの開催
サービス管理責任者研修　就労、地域生活精神・知的	１２月	赤澤	
児童発達支援管理責任者研修	１２月１０・１１日	大村	
岡山県保健福祉学会	１月２８日	中尾・大村	学会発表を行う
障害児相談支援に関する勉強会	２月１日	大村・赤澤	行政説明を受ける
障がい児の福祉サービスに関する関係者連絡会	３月１９日	大村	行政説明を受け、倉敷市の今後のサービスを学ぶ
【組織性関係】			
集団指導	２月１９日	大村	行政説明を受ける

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

１０月１９日消防訓練の実施

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

特になし

10.その他特記事項

特になし

11.総括及び次年度の課題

新人職員を半数以上抱えての年度スタートとなり、職員の育成に力を入れた一年となった。朝礼や職員会議に力を入れ、新人職員が相談をしやすい環境を作っている。新人職員も、報告、連絡、相談のなかで、担当業務をこなしていけている。今後は部長（所長）が退職することもあり、より一層、職員ひとりひとりの相談支援のスキルの向上が必要となってくる。

次年度は、専門的知識を持ちながら、一人ひとりの利用者に寄り添える支援者の育成と、質の高いサービスの提供の継続、ボランティアの育成と障がい福祉の啓発を３つの柱に事業運営を行っていきたい。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：　居宅介護支援事業所クムレ】【事業所責任者:　藤本知里】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
利用者確保の取り組み	４月に訪問介護、６月に通所介護が開設され、サービス事業所と連携をとり、利用者確保に取り組んだ。又12月に居宅を中庄、庄新町と２拠点とし、庄新町では相談からサービスへスムーズに支援していける様整備を行ったが、目標達成には至ってない。
利用者の自立した生活	法人内のサービス事業所と連携をとり、利用者のサービスの質の検討を行った。
専門職の資質向上	各種研修、勉強会に参加。５年毎のケアマネ更新研修受講し更新手続きを行った。

（説明）４月に訪問介護なないろが開設、続いて６月に通所介護事業所クムレが開設され、サービス事業所と連携をとり、広報活動等を行ってきた。１２月には居宅を中庄・庄新町との２拠点で相談事業を行い、相談からサービスへとスムーズな支援を行えるよう取り組んだが、目標数値には至っていない。来年度、地域密着型特養開設に伴い、高齢分野でクムレとしての高齢支援の指針を決め、広報活動を行っていく。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果

（説明）

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		実績				
	定　員	現　員	要支援 1～2	要介護 1～2	要介護 3～5		合計
4月	2	2	1	5	4		10
5月	2	2	1	9	3		13
6月	2	2	2	7	5		14
7月	2	2	3	8	3		14
8月	2	2	3	7	3		13
9月	2	2	2	8	3		13
10月	2	2	2	8	5		15
11月	2	2	3	8	5		16
12月	2	2	3	9	5		17
1月	2	2	2	11	4		17
2月	2	2	2	11	5		18
3月	2	2	2	11	5		18
合計	2	2	26	102	50		178

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）サービス事業所と連携し、町内の行事、座談会でクムレが少しづつ浸透してきているが、数字は伸び悩む。来年できる地域密着特養の広報を行いながら利用者確保に努める。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
第１回　和気藹々座談会	6/23	介護保険の質疑応答	介護保険についての質問があり、町内の関心度が分かった。
第２回　和気藹々座談会	8/25	住宅改修・福祉用具レンタル等についての勉強会	内容は前回参加者からの質問についての勉強会
第３回　和気藹々座談会	10/27	感染症についての勉強会 ホルン生演奏	生ホルン演奏好評
第４回　和気藹々座談会	12/8	居宅クムレ庄新町の紹介	介護保険利用についての説明、質問にお答えする。
第５回　和気藹々座談会	2/2	地域密着型特養開設の説明 インフルエンザ予防について	特養の説明。

4. 保護者（家族）との交流事業

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	
意見・苦情	未対応０件	
事故	発生０件	

上記を受けての具体的改善活動

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

８月２０日(土)盆踊り大会

町内のふより会のメンバーと共に焼きそば屋台の手伝い(２００食)

１０月２３日　庄新町文化祭

たこ焼き屋台出店(１４５食)

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

＊該当者なし

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ ・ ・ ・ ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
リスクマネジメント研修	５・６月	藤本・有森	リスクマネジメントの考え方
寺尾講座「自閉症基礎講座」	５・６・７・９月	藤本・井川	自閉症の基礎知識の習得
救急法研修	６月	有森・井川	救急対応の仕方
【組織性関係】			
チーフ研修	６・10月	藤本	第三者評価受診の意義、リスクマネジメント、苦情対応の処理について学ぶ
一般職員研修	７・12月	有森・井川	第三者評価の意義、、問題解決の手法について学ぶ

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
介護予防ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ従事者研修	４月	藤本	予防介護のﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞの習得
みずきの会	毎月第２木曜日	藤本・有森	事例検討を通しての支援の方法
介護保険改正後の現状と方向性	６月	藤本・有森	介護保険改正後のマネジメント研修
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

・サービス事業所が開設し、なないろ、通所クムレと連携し利用者確保を行ってきたが、数字は伸び悩む。又昨年 12 月から居宅を中庄・庄新町とで２拠点の相談事業を行い、地域に根差し、庄新町での座談会開催・町内の行事に参加し、少しづつクムレが浸透してきている。
来年地域密着型特養開設にあたりクムレでの高齢指針を出し、広報活動を行い、又庄新町での座談会を他の町内でも行い、利用者確保につなげていく。

cumre クムレ

平成 24 年度事業報告書

【事業所名：通所介護事業所　クムレ】【事業所責任者:渡邊　哲也　】

平成 24 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
利用者確保の取り組み	居宅、包括支援センター、診療所等への毎月の訪問と庄新町全戸への訪問挨拶、パンフレットのポスティング等を行い、見学を多くの方にしていただいている。見学をしていただいた方からは高評価をいただいているが、いますぐの利用には繋がっていない。 ３月末での登録者数９名 １日平均利用者は４名である。
地域に根差した事業所へ	地域行事の準備から片付け、反省会まで参加させていただき、行事の中でも役割をいただき、来年度もたこ焼き屋台等をお願いされている。 和気藹藹座談会の開催（偶数月） 座談会を通しての仲間が出来たり、そこから利用につながったケースがあった。

（説明）

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果

（説明）

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4月							
5月							
6月	2.2	2.7	21	0	43	0	0
7月	2.2	2.7	22	22	64	40	0.62
8月	2.2	2.7	23	23	86	44	0.51
9月	2.2	2.7	20	20	107	46	0.42
10月	2.2	2.8	22	22	129	63	0.48
11月	2.2	2.8	22	22	150	81	0.54
12月	2.2	2.8	20	20	172	75	0.43
1月	2.2	2.8	19	19	193	60	0.31
2月	2.2	2.8	20	20	193	65	0.33
3月	2.2	2.8	21	21	193	82	0.42
合計	2.2	2.8	210	189	1333	556	0.41

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
施設見学会	5月２５日 ２６日	施設見学会	８２名の方が見学に来られる。
第１回　和気藹藹座談会	６月２３日	町内の方によるマジックショー、この座談会の目指すべき方向の確認、介護保険についての質疑応答	２１名の参加 介護保険についての質問多数あり
第１回　和気藹藹 ハワイアンコンサート	７月２３日	町内在住の方によるコンサート 懐メロも含めて１４曲	４８名の参加 大変盛り上がる
第２回　和気藹藹座談会	８月２５日	在宅介護、住宅改修、補助具レンタル等についての勉強会	１７名の参加 前回参加者からのリクエストにお応えする形での勉強会
第３回　和気藹藹座談会	１０月２７日	感染症についての勉強会 ホルンの生演奏	１８名の参加 ボランティアさんによるホルンとキーボード生演奏に感動
第２回　和気藹藹 ハワイアンコンサート	１０月２９日	町内在住の方によるコンサート 懐メロも含めて１４曲	３５名の参加 アンコールにお応えしての開催
第４回　和気藹藹座談会	１２月８日	居宅クムレ庄新町の紹介とケアマネージャーの役割についての理解	１９名の参加 介護保険の仕組みについてまだまだ知らない方がたくさんいることを感じた。
第５回　和気藹藹座談会	２月２日	地域密着特養開設予定の説明 インフルエンザ予防について	１６名の参加 特養、老健、等の違いについて等の質問が出てきていた

4. 保護者（家族）との交流事業

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	
意見・苦情	未対応０件	１件 平成２４年９月１０日 生活保護の方に対して通所介護の職員が生活の状況（金銭の事まで）を聞いてくるのはおかしいとの苦情 担当ケアマネさんにも連絡を取り、すぐに謝罪をして和解できた。
事故	発生０件	

上記を受けての具体的改善活動

・通所介護事業所として必要な情報以外はケアマネさんを通して情報を得るよう
全スタッフで確認する

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・５月２２日（日）庄新町大運動会（職員参加）

前日の準備から片付け反省会まで参加する。当日は職員の子供まで参加させていただく

・８月２０日（土）盆踊り大会
会場準備～片付けまで参加
当日は町内のふより会のメンバーとともに焼きそば屋台をお手伝い
２００食を焼く

・１０月２２日・２３日　庄新町文化祭
１０月２３日（日）町内会からの依頼もあり、たこ焼き屋台を出店
１４５食を売り上げる

7. 人材育成計画

① 新人育成のＯＪＴ　活用について

重点的に指導を行った項目	指導上留意した点と結果

② キャリアパス

区分	職位名	職位毎の育成目標（事業所において特に重きを置く点）及びその達成状況について
一般職→監督職	・チーフ ・リーダー、キャップ ・新任、一般職	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
監督職→管理職	・マネジャー ・サブマネジャー	・ ・ ・ ・ ・ ・

③ 研修計画

⑴.内部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
衛生管理	5月	渡邊、山下、宮根 難波、今井、長曽我部	食品衛生、手洗い等の注意点の確認を行う
救急蘇生法	6月	渡邊、山下、宮根	心肺蘇生方法と誤嚥時の対応方法を学ぶ
寺尾講座　自閉症講座	9月	渡邊	自閉症についての理解
【組織性関係】			
リスクマネージメント研修	6月、9月	渡邊	問題解決方法について学ぶ
緊急時の対応と説明	9月	渡邊、山下、宮根	現場で起こる可能性のある利用者様の対応方法を学ぶ
階層別研修			

⑵.外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
きのこグループ全体発表会	１１月	渡邊、山下	高齢者介護の基本的な考え方と、取り組みについて学ぶ
岡山県保健福祉学会	１月	渡邊	他法人の様々な取り組みについて学ぶ
【組織性関係】			

④ その他（自己啓発援助）

8. 防災安全衛生活動

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

庭の剪定を業者に依頼する　年間管理料
除草作業、剪定（夏、秋）２回、病害虫作業２回で 186,900 円

10.その他特記事項

11.総括及び次年度の課題

・継続して和気藹藹座談会の開催が出来、参加者も 20 人程度が続いており、クムレを理解してくださっている方は増えていっている。町内行事等でも参加させていただき仲間として認められつつあるのでこれは継続して行かなければいけない。利用者確保とはかなりの苦戦を強いられている。庄新町だけではなく範囲を広げて座談会のような会の開催を早期に開催し、利用者確保につなげていきたい。また、来年度完成する地域密着特養の広報活動に力を注いでいきたい。

平成24年度　委員会　事業報告

平成 24 年度　研修委員会　年間報告書

（2013.3.31　岡本　出）

1、　委員会の目的

（1）社会福祉法人クムレの事業である「階層別研修会」の開催をはじめ、24 年度より本格実施する

キャリアパス制度の推進、福祉サービス第三者評価受審へ向けての取り組み、毎年推進してきた実践研究を継続して実施する。

（2）委員会の推進体制については、これら４つの主要課題について専門のチームを設置し取り組む。

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月　　第４木曜日　15：00　～　17:00

（2）　実施日（予定）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	26	24	28	26	23	10/3	25	22	27	24	28	28

（3）場所　本部２Ｆ会議室　＆　小ざくら保育園２Ｆ会議室

3、　委員会責任者　　委員長　岡本　初江

4、　委員会メンバー

本部：理事長・副理事長・本部長　　久保・稲垣・森川

子育て支援事業部：岡本・中谷・渡辺・藤原

発達支援事業部：佐分利・篠原・原田・小山

自立支援事業部：中尾・長須・上村・渡辺

5、　活動内容

6、

	主な活動内容
４月	研修委員会年間計画についての確認
５月	24 年度研修計画に基づくチーム編成と役割について
６月	階層別研修（マネジャー・サブマネチーフ・リーダーキャップ）の振り返り 第三者評価受審に向けての協議 キャリアパス制度運用における問題点について

７月	階層別研修（一般職）の実施と振り返りについて 実践研究の取り組みについての進捗確認と委員の役割分担について キャリアパスにおける職務基準書未着手についての協議
８月	後期階層別研修の担当の割り振りと階層別研修（新任）の振り返り 第三者評価勉強会に向けての確認事項 キャリアパス運用手引きの整合性の確認と今後の作業について
９月	階層別研修（マネジャー）の振り返りとサブマネ・チーフ・新任研修の検討 第三者評価受審についてのスケジュール確認
10 月	階層別研修（サブマネ・チーフ）の振り返りと リーダー・キャップ、一般職員、新任職員研修の検討 実践研究の進捗状況と今後の作業・スケジュール・役割分担について 岡山県保健福祉学会発表について
11 月	階層別研修（リーダー・キャップ）の振り返りと一般職員、新任職員研修の検討 実践研修の進捗状況と今後の作業について
12 月	実践研究発表会開催についての協議・確認 階層別研修（一般職員）の振り返りと新任職員研修の確認 新採用職員研修実施について
１月	実践研究発表会開催の振り返りと次年度の課題
２月	階層別研修（新任）の振り返りと新採用職員研修の振り返り キャリアパス運用手引き作成に向けての協議
３月	１年間の振り返りと 25 年度の教育・研修計画について

7、　　活動内容（補足）

（1）「階層別研修」推進チーム

日程	研修名	内容	講師
4/14	マネジャー研修	研修の体系化について （チーフ以上の業務・職務の明確化）	安斎 先生
6/1	サブマネ・チーフ研修	部下・後輩の育成指導の推進とスーパービジョン、コーチングの実際	新井 先生
6/23	リーダー・ キャップ研修	福祉サービス第三者評価とは何か 前回第三者評価受審指摘事項等についての取り組み状況	安斎 先生
7/21 7/28	一般職員研修　Ⅰ 〃　　Ⅱ	福祉サービス第三者評価とは何か あなたの職場での問題解決の力を高めるために	安斎 先生 新井 先生

8/18	新任職員研修	第三者評価概論と着眼点 半年を振り返って	安斎 先生 柳田 先生
10/3	マネジャー研修	キャリアパス制度に基づく研修のあり方について	
10/20	サブマネ・ チーフ研修	リスクマネジメントについて	村岡 先生
	リーダー・ キャップ研修	福祉ＱＣ活動の意義と人材育成 福祉ＱＣ活動のプロセス	新井 先生
12/15 12/22	一般職員研修　Ⅰ 〃　　Ⅱ	乳児保育園ＱＣ活動の取り組みについて 福祉ＱＣ活動の意義と実際	乳児 職員 新井 先生
1/26	新任職員研修	座禅・写経 目標管理活動について	円通寺 チーフ代表
2/21 ～23	新採用職員研修	理念・クムレ１０の心得について 社会人・組織人として	職　員 柳田 先生

（2）「キャリアパス制度」推進チーム

①24 年度キャリアパス運用の確認と進捗管理

②高齢分野の職務基準チェック表の作成

③未着手のＯＪＴ・職務基準チェック表の作成検討

④25 年度キャリアパス運用手引きの作成

（3）「第三者評価受審」推進チーム

①第三者評価概論研修の実施

②各事業所における「自己評価」の実施

③メイアイヘルプユーによる勉強会開催

③25・26 年度受審に向けてのスケジューリング

（4）「実践研究」推進チーム

①実践研究の課題設定と推進

②「実践研究発表報告書」の刊行

③「実践研究発表会」の開催：平成 23 年１月 20 日

8、　活動を通じ得られた成果

階層別研修においては、キャリアパス制度に基づきそれぞれに求められる役割に沿った内容の研修を実施した。また、第三者評価受審に向けて、リスクマネジメントなど、法人としての課題別研修も組み込むことで、参加者は理解が高まったように思う。

9、　浮上した問題点

法人としての階層別研修の考え方を明確にし、研修の体系化を図ることが必要ではないかという意見あり。

10、　問題点に対する対応策（案）

24 年度末に作成した研修体系図をもとに、今後のクムレとしての研修のあり方を検証し、より確かな研修の実施を図っていく。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

・25 年度用キャリアパスの手引きに基づき、各々の職員のキャリア・アップを目標とした階層別研修の内容検討と実施、あるいは、各専門職としてのスキル・アップを目指した事業部ごとの研修の実施をサポートする。

・チューターとしての役割を確認するととともに、確実にＯＪＴ、目標管理活動が推進できるよう、各事業所における職務遂行要領に基づいた指導体制を確立することを目標とする。

・ＱＣ手法、あるいは、問題（課題）解決技法を使っての業務改善を行い、そのまとめとして実践研究発表の場で互いに学びを深めていくことのサポートを行う。

11、反省点・感想

今年度 4 つの主要課題について、それぞれのチームを基本として取り組んだが、どの内容も法人職員への影響力が大きい課題ばかりで、メンバー全員が共通認識し、じっくり取り組めたかというと難しい部分も多かったように思う。役割分担をしながら進めてはいったが、研修委員内での報告・連絡・相談も課題が残ったように思う。

次年度に向かっては、それぞれが課題を共通認識し、同じ方向に向かってどう取り組んでいくかをしっかり話し合い、課題に取り組んでいきたいと思う。

平成２４年度　サービス向上委員会　年間報告書

（2013.3.31　尾崎暁代　出）

1、　委員会の目的

（1）委員会のメンバーがリスクマネジメント研修を受け、学んできた事を深め、法人内の職員へ伝える事で自己研鑽を図る

（2）勉強会を実施する事で福祉施設におけるリスクマネジメントのあり方を学び、リスク、気づきへの視点が広がるきっかけ作りとする。

（3）中期ビジョンを受け、職員間の意思の疎通の円滑化が図れる取り組みを行う。

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月第３回目の金曜日　16:00～18:00

（2）　実施日

月	４	５	６	７	８	９	10	11	12	１	２	３
日	２４	１４	１１	２０	１７	１４	１９	１６	２１	１８	８	１５

（3）場所　法人本部２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　尾崎暁代（小ざくら乳児）

4、　委員会メンバー　財前理事長、江草統括本部長、久保、岩藤、井本、越智、武政、井関、岩佐、大隈、横田、五嶋

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	２４日：委員会（今年度の取り組みについて）
５月	１４日：委員会（リスク研修について） １７日：村岡　裕先生のリスクマネジメント研修 （チーフ以上参加）
６月	１１日：委員会（リスク研修の振り返り、懇親会について） ２３日：リーダーキャップ研修懇親会の実施 ２５日：第１回法人内リスクマネジメント研修（ＫＹＴ演習など、村岡先生参加）

７月	２０日：委員会（懇親会について） ２１日：一般職研修懇親会 ２８日：一般職研修懇親会
８月	４～５日：地域貢献活動⇒水島港祭りへの参加 （商店街清掃活動、駐輪場警備、夢ｋｏｉ踊りへの参加） １７日：委員会（地域貢献活動の反省、在りかたについて、第２回リスク研修について） １８日：新任職員研修懇親会の実施
９月	14 日：委員会（村岡先生交えての勉強会） 第２回法人内リスクマネジメント研修(手順書について、村岡先生参加)
10 月	19 日：委員会
11 月	16 日：委員会
12 月	３日：地域貢献活動（子育て事業部、清掃活動） 21 日：委員会
１月	５日：地域貢献活動（子育て事業部、清掃活動） アンケートの実施：（職員のコミュニケーションのあり方について） 18 日：委員会（アンケート集計）
２月	８日：委員会（次年度に向けて）
３月	４日：地域貢献活動（子育て事業部、清掃活動） １５日：委員会（報告書の書式の検討）

6、　活動内容（補足）

・ リスクマネジメント研修は、今まで委員会で準備した事をまとめ、法人内の職員へ研修という形で伝える事ができた。今年度初めて、外部講師の村岡先生をお招きし、わかりやすく、専門的な研修ができた。
・ 職員の意思の疎通の円滑化においては、中期ビジョンを受けて、昨年に引き続き階層別研修後に実施した。

7、　活動を通じ得られた成果

・ 今年度村岡先生をお招きしてリスクについてチーフ以上の方を対象に演習を交えた研修を行うことで法人全体での危機管理、気づきについて再認識できたように思う。又、委員会メンバーが法人内の研修を実施する事で知識の向上につながったと思う。

8、　浮上した問題点

・ 法人内のリスクマネジメント研修をしたが、参加できる職員が限られていた。

・ 職員の意思の疎通の円滑化において趣旨の理解が得られず、学びの場として捉えにくかったように思う。

9、　　8、問題点に対する対応策（案）

・リスクマネジメント研修を階層別研修に入れ、全職員に浸透できるようにしたい。

・懇親会を階層別研修後に実施したが、なかなか意思の疎通が図れなかった為、まずは、各事業部、事業所内での枠組みからしていく必要があるため、H25 年度は、事業部ごとでの実施とし、風通しのよい風土作りがリスクマネジメントに繋がるという根本をふまえての実施をしていく。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

・Ｈ２５年度はリスクマネジメント委員会として活動する。

（１）中期ビジョンから職員の意思の疎通の円滑化⇒事業部ごとでの懇親会の実施

（２）リスクマネジメント研修の実施

（３）法人内のヒヤリはっと、事故報告書などの書式の統一化

（４）各事業所のリスクマネジメントの確認、改善策の検討、水平展開

（５）他法人の取り組みについてベンチマーク

11、反省点

- 職員の意思の疎通についての色々な意見があったためアンケートを実施した。アンケート結果より見えてきた部分を次年度につなげていきたい
- 地域貢献活動の必要性に気づけた⇒まずはできる事から始めるとよいのでは（清掃活動など）
- 多くの事に取り組み不十分な事も多かった。広く浅くになり深められていない。
- ヒヤリはっとなどの報告書だけでなく事業部間の情報共有をしていきたい
- ＨＰを活用する事が出来なかった

12、感想

・リスクマネジメントは、法人全体として活性化し、意欲的に取り組むべき内容であるが、事業所も多く意識統一や浸透、情報の共有が難しい現状にあると思う。委員会として出来ることから少しずつしていくという形で進めていったが、理解を得られないことも多く、メンバーとしては、大変さが残ったようだ。

- 地域貢献活動や職員のコミュニケーションなども今まで、サービス向上委員会がしてきた事を、各事業部で引き続きよい形で残しすすめていっていただけるとありがたい。

懇親会の様子







リスクマネジメント研修の様子









平成２４年度　広報委員会　年間報告書

（2013.3.31 山本　出）

1、　委員会の目的

（1）広報誌を通して、法人クムレの取り組みの様子を情報公開する。

（2）ホームページを通して、地域・学生等ニーズに沿った情報をタイムリーに公開する。

2、　開催日日時・場所

（1）　隔月（偶数）第４回目　水曜日　１６：００　～　１７：３０

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	２５		２７			６	２４		２６		２７	

（3）場所　本部会議室

3、　委員会責任者　　委員長　山本己晴

4、　委員会メンバー　　吉田（幼）、朝島（乳）、橋本（夜）
物部（小）、高下（倉）
山本（あ）、林（コ）、高尾（コ）
久保（本事）、森川（本事）

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	ふれあい広報誌の発行について ホームページについて マスコミへの情報提供について
６月	〃
９月	〃 ＤＶＤ作成について
１０月	〃
１２月	〃
２月	今年度の反省 次年度のふれあい広報誌について

6、　　活動内容（補足）

４月　〇ふれあい広報誌の発行について

・年３回発行・・・５月頃、１０月頃、３月頃

今年度　１回目　５月発行予定で進めている。

〇ホームページについて

・月１回の更新を定着する

・更新講習会の開催・・・・目標は、各事業部で更新してもらえるようにすることとし、その為に、まずは委員が講習を受ける。アイアットへ依頼。

＊委員会のメンバーの変更があった為

６月　〇ふれあい広報誌の発行について

・２回目　発行の内容の確認

〇ホームページについて

・月１回の更新状況の確認

〇マスコミへの情報提供について

・あしたば夏祭り、フォーラム、クラコト、育メン、実践研究発表についてマスコミへの連絡担当者を決める。

９月　（８月２２日→９月６日に変更）

〇ふれあい広報誌の発行について

・２回目（１０月頃）発行に向けて準備

〇ホームページについて

・月１回の更新状況の確認

〇マスコミへの情報提供について

・新聞社等へ連絡することの確認

１０月　〇ふれあい広報誌の発行について

・３回目発行（３月）の内容を決める

〇ホームページについて

・固定ページの更新

〇マスコミへの情報提供について

・クラコト・・・ケーブルＴＶ、山陽新聞に連絡済み

〇広報担当者のスキルアップについて

２月　〇次年度の広報誌について

・年３回発行・・・・・１回目　５月発行

・内容の検討

〇ホームページについて

・組織体制が変わるため、承認者の確認が必要

〇今年度の反省と課題について

【広報誌について】

① 広報誌の発行・・・・・前期、後期の年２回でも良いと思う。（３人）

② 広報誌を発行しているが、配布した保護者や職員から感想や意見がなく、何か反応が欲しいと感じた。

③ 広報誌の作成が終わるとすぐに次の広報誌に取り掛からなければならない為、行事と時期が重なり難しく
感じた。

④ 広報誌は年三回で良いと思います。二誌であると、一度に載せる情報量が多くなり、枚数が増えたり記事
の記入が多くなったり、行事連絡のタイミングが難しかったりすると思います。

⑤ 年２回がいいのか、年３回がいいのか、どちらがよいのかわかりません。でも、２回にすると、年度始めの挨拶と、年度のまとめになるので、途中が見えないのでやはり学期ごとがいいのかとも感じます。

⑥ 今年度、タイムリーな記事が載るように配慮してきましたが、やはり事後報告が多かったように思います。

しか　し、発行回数を増やすことは印刷会社さんとの関係、各事業所等の記事の取りまとめにより難しいか

と思います。また、あしたばだけで言えば、毎回発行された広報誌を利用者の方と一緒に近隣住宅へ配布に行き、地域の方とのつながりを深められるよう努力しております。また、今年度より「地域連携委員会」というものを発足させており、地域の方をお招きしたイベントを年に４回あしたばで開催しております。その他、地域住民の協力を得ながらペットボトルのリサイクル活動にも取り組んでおり、夏場には特にペットボトル回収の依頼のちらしを配ったりもしています。上記のような小さな内容ですが、地域の方へ知っていただきたいイベントやお願いもでてきます。

そこで、各事業所や事業部単位等で小さな新聞（チラシ）のようなものを作成し、定期的に配ることはどう

でしょうか。あしたばのように利用者の方と一緒に配布することで、地域の方とのつながりも深められると思います。広報誌ですと、年に３回しかありませんので、利用者の方にも活動として定着しにくい部分もあります。全事業所・事業部が行うことは難しいとは思いますが、あしたばや多くのイベントを行うコトノハ・各事業を行っているクラシス等は知っていただきたい情報も多くあるのではないでしょうか。行いたい事業所・事業部だけで定期的に小さな広報誌を発行することで、様々なご協力や事業所を知っていただけるのではないかと考えます。

【ホームページについて】

①┌ホームページを上手く活用できていないので、しっかり更新できるようにしていく。

② タイムリーにする方が良いので、各事業所毎に、月１回更新をするようにしてはどうでしょうか。

③ ホームページの更新方法が変わり、少々扱いづらいソフトであったため、更新ができないという声が多かったと思います。私自身も何度か他事業所の更新を行うこともありました。このソフトを変えることは難しいと思いますので、広報委員引継ぎの際にしっかり説明できたらと思いました。

④ 事業所によって更新の頻度が異なっていると思います。月一回の更新が難しければ、月ノルマを増やして、二ヵ月に一回等にしても良いのでは？と思いました。

⑤ 今はパソコンでいろいろなものが見えるようになりました。でも、パソコンの苦手な人やネットをしない人にとっては情報が滞ってしまう気もします。最新の情報発信もいいのですが、苦手な人でも書面でお知らせできるものがあればいいですね。（それが広報誌になるのかな？）

７．活動を通じ得られた成果

・ホームページの更新・・・委員会のメンバーが意識して更新できるようになってきた。

・広報誌・・・・・・・・・見てわかるような紙面作りを工夫できるようになってきた。

８．浮上した問題点

・組織体制の変化に伴う承認者の確認

９．８．問題点に対する対応策（案）

・２５年度の組織体制に合わせた承認者の決定（要相談）

１０．次年度以降の活動計画（概要）

・新規事業に合わせたＤＶＤ作成

平成 24 年度　安全運転管理者委員会　年間報告書

（2013.3.31　稲垣　出）

1、　委員会の目的

（1）車両関連事故発生０を目指す

（2）事故を起こさない運転者の育成

（3）上記の具体的施策を協議の上策定し、経営会議に提案する。

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月/隔月（奇数/偶数）**曜日　10：00　～　12:00

（2）　実施日（予定）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	18	16	20	18	15	19	17	21	19	16	20	21

（3）場所　倉敷学園２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　稲垣　俊吾

4、　委員会メンバー　理事長・江草本部長　子育…中田　発達…手嶋　自立…岡本、藤江　本部…稲垣

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	年間計画の策定
５月	経過報告
６月	安全運転教育について
７月	ケース検討・スローガン
８月	ケース検討・スローガン
９月	交通安全教室について
10 月	交通安全教室スケジュールについて
11 月	交通安全教室実施報告・帳票点検
12 月	交通安全教室実施報告・帳票点検
１月	次年度委員会について
２月	帳票の改訂について
３月	年間のふりかえり　反省

6、　活動内容（補足）

毎月

・スローガンの制定をおこない、啓発用のポスター・シールを作成、配布

・交通安全マップの作成、各事業所への配信

その他

・安全運転管理者講習への派遣

7、　活動を通じ得られた成果

・スローガンを作成、配信することで、安全に対する動機づけが出来た。

・今年度から 4 事業所において、利用者対象の交通安全教室を開催し、利用者への安全確保へ活動の範囲を広げることが出来た。

8、　浮上した問題点

・職員に対する安全運転教育のあり方について。負担感を感じない方法での実施を検討する必要がある。

9、　8、問題点に対する対応策（案）

・他法人の取り組み等の情報収集する。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

・25 年度から、委員会のテーマに「防災」が加わることになり、より計画的な委員会運営が必要となる。

11、反省点

・交通安全教室の実施等、昨年に比べ活動の範囲を広げることは出来たが、一部に課題を残す結果となった。

12、感想

・委員会メンバー各自の役割を明確化し、新たな課題にもチャレンジしたい。

平成２４年度　専門職委員会　年間報告書

（2013.3.31　中尾出）

1、　委員会の目的

（1）社会福祉法人クムレにおける専門職が連携を持つ

（2）相談及び支援計画策定のプロセスの検証を行う

（3）組織としての資質向上を図る

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月第４金曜日　１５：３０　～　１7:００

（2）　実施日（予定）

月	4	5	6	8	8	9	10	11	12	1	2	3
日	27	25	29	3	31	28	26	30	―	25	22	29

（3）場所　倉敷学園サロン

3、　委員会責任者　　委員長　中尾　浩二朗

4、　委員会メンバー　橋本・新谷（児童家庭支援センタークムレ）田邉（てとて）
川崎（なないろ）岡（あしたば）大村（倉敷地域生活支援センター）
有森（介護支援事業所クムレ）福田（小ざくら乳児保育園）
藤原（あしたば）

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	年間計画検討
５月	委員会の位置づけ
６月	委員会の位置づけ
７月	事例検討住宅コーディネーター
８月	事例検討相談支援専門員
９月	事例検討精神保健福祉士
10月	事例検討介護支援専門員
11月	地域の中での機関連携・専門職の活用について たまの発達障がい者支援センター所長　間庭氏
１月	事例検討社会福祉士
２月	事例検討臨床心理士
３月	事例検討言語聴覚士

6、　　活動内容（補足）

毎回、委員会メンバーが事例の提示を行い、事例検討を行っている。また、情報提供シートを持ちより、情報交換をしている。

7、　　活動を通じ得られた成果

法人内の専門職の業務内容の相互理解が深まるとともに、各専門職の分野が良く分かり、法人内に限らず専門職との連携がとり易くなった。

8、　　浮上した問題点

委員会のあり方について。専門職委員会の役割とは何か。

9、　　問題点に対する対応策（案）

専門職委員会としての活動は今年度で終了する。次年度からは、委員会の再編により権利擁護委員会となる。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

なし

11、反省点

専門職が多く集まっていた為、委員会にどうしても出席出来ない職員が見られた。
委員会のあり方、方向性が見出しにくく今年度の計画をたてるのに時間を有した。

12、感想

専門職委員会のあり方、役割は何なのかを考えながら、運営をしてきた委員会です。今後は委員会再編により権利擁護委員会としての活動となり、役割の見えやすい委員会になると思われます。また、役割がはっきりしますので、活動内容も役割に応じて行えると考えられます。専門職委員会で、法人内の専門職の役割や業務内容の共有を行えたことが、障がい者・高齢者・児童の権利擁護を検討する際の助けになると思います。

平成 24 年度　看護師連絡会　年間報告書

（2013.3.31　福田　里美　出）

1、　委員会の目的

（1）利用者及び職員の健康診断の実施し、健康の増進と健康管理を行う。

（2）感染症の発生予防に努め、感染症発生時には適切な対応を行う。

（3）施設内の安全及び衛生的な環境づくりに努める。

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月 第４回火曜日　14:00～16:00

（2）　実施日（予定）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	24	22	26	24	28	25	23	27	25	22	26	26

（3）場所　倉敷学園　おひさま

3、　委員会責任者　　委員長　福田　里美

4、　委員会メンバー　岡本（あしたば）、川端（倉敷学園）、友野（コトノハ）、福田（小ざくら乳児）

5、　活動目次

	主な活動内容
４月	年間保健活動計画作成、医療処置（コトノハ）の連携について
５月	職員および利用者の健康診断の計画、研修計画
６月	職員の既往歴、てんかん既往児のプール入水について、実践発表
７月	事故及びけが発生時の対応についての研修内容
８月	実践発表の取り組み計画、事故及びけがの対応マニュアル作成
９月	事故及びけが対応の研修体制について、インフルエンザ予防接種準備
10 月	職員健康診断及び結果整理と報告、健康たよりの作成
11 月	健康だよりの発行、感染症の登園基準について
12 月	感染症の報告、健康たよりの作成
１月	実践発表、次年度の保健活動について、感染症状況確認
２月	感染症マニュアルの見直し、感染症報告、次年度の委員会活動
３月	次年度の活動計画の案作成、感染症マニュアルの改訂検討

6、　活動内容（補足）

- 今年度より、法人職員を対象に「健康だより」を年３回発行し、健康増進への啓発を実施。
- 法人内における医療処置対象であるコトノハの利用者については、各事業所の看護師が連携を取りながら実施する。
- 事故及びけがなどの対応については、手当及び連絡、謝罪についてシミュレーション形式の研修を全事業所で実施した。そこで対応手順についても見直しをして各事業所で作成できた。
- 次年度の職員の健康診断やインフルエンザ予防接種の実施機関の見直し検討をする。
- 感染症のマニュアルの改訂を現在実施中である。
- 子育て事業部においては、安全パトロールを実施

7、　活動の成果

- 職員を対象に、健康だよりで多くの情報提供ができた。
- 事故及びけが発生時の対応研修は、各事業所に出向き職員が不安に思う内容をシナリオに設定し、手当てや連絡を実際に体験する方法を行った為、職員の危機管理意識が高まった。
  実際に、転換発作などで救急車の要請する機会に職員間が慌てず冷静に対応できた。
- 感染症マニュアルの改訂については、コンパクトにして職員が活用しやすいものに検討中である。
- 地域貢献として、クラコトフェスティバルにて献血を実施した。



シミュレーション研修
各事業所で想定されるシナリオで
実際に手当てや救急車要請、心肺蘇
生などの実技練習ができたことがと
ても好評だった。

8、　課題と問題点

・「健康だより」を発行後、職員へ意見など求めたが反応が少なかった。
  その為、次年度はより多くの職員が関心を持てる内容や意見の取り入れ方など検討していく。
  また、内容も専門職からの情報提供を充実させる。
・事故及びけが発生時対応のマニュアルの作成ができてない事業所もある為、連携をとりながら次年度中に作成していく。また、マニュアルが周知できるように研修も並行して実施する。
・次年度は、栄養士、臨床心理士、看護師のメンバーが連携をとり、健康については栄養バランス、心身の健康、安全な食事提供、安全かつ衛生的な環境づくりに努めたい。
・法人内における「ソフト食」の定義を確定し、ＳＴや医師連携して安全な食事提供を実施する。
・職員のメンタルケアの実施を臨床心理士、大学教授などと連携し実施したい。

平成２４年度　栄養士連絡会　年間報告書

（2013.3.31　藤原　出）

1、　委員会の目的

（1）すべての利用者や職員の将来を見据えた栄養支援を行う。

（2）家族・地域支援を念頭に入れ、体験できる取組みを実施する。

（3）嚥下・咀嚼について問題がある利用者の方について多職種と連携して検討する。

（4）クムレでの栄養士業務について水平展開を行う。

2、　開催日日時・場所

（1）　隔月（奇数）木曜日　13：30　～　16：00

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	（12）	10	（14）	12	（9）	13	（11）	10	(13)	12	（14）	14

（3）場所　本部２階会議室　偶数月：各施設で栄養士のみでの開催

3、　連絡会責任者　　責任者　藤原　有里

4、　委員会メンバー　子育て支援事業部：畑野栄養士、福田看護師

発達支援事業部：宮越栄養士、辻栄養士

自立支援事業部：船越栄養士、小郷栄養士、藤原栄養士、平田栄養士

5、　目次

	目　次
４月	（臨時）調理実習会について
５月	２４年度の活動内容の確認、調理実習会について 5/12 ソフト食研究会の研修参加
６月	（臨時）調理実習会の準備・担当決め
７月	調理実習会について 7/19（木）調理実習会開催 7/28 ソフト食研究会の研修参加
８月	（臨時）実践研究について（レシピの考案）
９月	ソフト食の試作について、実践研究について
10月	（臨時）職務遂行要領書について
11月	実践研究発表の原稿について 11/17 ソフト食研究会の研修参加
12月	（臨時）ソフト食の試食

１月	今年度の反省と次年度の課題
２月	ソフト食（ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞ ｻﾞ ｲﾝﾌｰﾄﾞ ）の試食・検討
３月	発達支援とﾍﾟｱﾚﾝﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ についての勉強会 職務遂行要領書について

6、　　活動内容

（1）栄養士にしかできない勉強会のあり方について検討する。（小ざくら：畑野栄養士）

当初は「職員や家族への勉強会」を実施し、その内容を実践発表で報告する予定でしたが、畑野栄養士の都合や今年度各方面からの勉強会が多数あった為内容を変更した。

実践研究の内容を「職員や家族への勉強会」から「朝食の喫食率向上についての取組み」（～簡単朝食レシピの提案～）に変更して、保育園の保護者を対象に９月に簡単な朝食メニューの掲示を行った。その後アンケートを実施して結果をまとめて実践発表会にて報告した。

（2）調理実習会を開催する。（倉敷学園：宮越栄養士）

７月１９日（木）に調理実習会を実施している。（別紙報告書参照）

今後は栄養士が、障がいのある方やその家族へどういった働きかけができるのかを模索しながら、障がいへの理解を深める必要がある。そして、「栄養士のあり方」を各施設で明確にしていく。

（3）ソフト食について検討する。（あしたば：藤原栄養士）

ソフト食研究会の研修に 5/12・7/28・11/17 参加している。

ソフト食について、8/9・9/11・9/28 試作、12/13 試食を行っている。

スベラカーゼミート：肉・魚介類などのたんぱく質の繊維を酵素によって切断し、やわらかくする。

試食から、スベラカーゼミートを使用しても肉や魚の軟らかくなる程度には限界がある。しかし、圧力鍋を使用することで、更に軟らかく形状を残したままで調理することが可能である。

今後は、圧力鍋を使用した料理の調理方法を研究して給食調理にどう導入していくのかなど方向性を検討していく。

また、今後は多職種を招いた試食会を実施する。試食を通してどのような方にソフト食が有効であるかなどの意見交換ができる場を設ける。

（4）職務遂行要領書を改定する。

職務遂行要領書については、ＩＳＯで使用していたものをまず参考に共通する部分について見直しを行っている。　プラン書については各施設で異なる為、統一書式での運用を検討する。また、必要な箇所は独自の項目に変更して作成する。

今後は、キャリアパスとの整合性を図っていく。

7、活動課題と問題点

各施設での栄養士の役割（職務）にバラツキがある。職務遂行要領書を活用し、安心・安全な食事提供の実現に向けて栄養士が各施設での役割を明確にして活動する必要がある。

平成 24 年度　臨床心理士連絡会　年間報告書

（2013.3.31　福島阿也子　出）

1、　委員会の目的

（1）福祉施設における臨床心理士の役割を明確にしていく。

（2）メンバーの能力向上を目指す。

（3）法人内外に対しての臨床心理学に関する啓蒙・研修を行う。

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月金曜日　15：30　～　17：00

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	13	11	8	13	10	14	12	9	14	11	8	8

（3）場所　法人本部２階　会議室

3、　委員会責任者　　委員長　福島阿也子

4、　委員会メンバー

香取満彦（鶴心寮）、小山裕子（きらり中庄）、齊藤舞（倉敷学園９月除名）、
新谷雅人（児童家庭支援センタークムレ）。

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	８日　臨床心理士連絡会 14 日　職員向け勉強会に向けて稲田先生の SV を受ける
５月	13 日　臨床心理士連絡会 学習会（田中・ビネー知能検査法・WISC-3 について）
６月	10 日　臨床心理士連絡会 15 日　五法人研修にて実践研究を発表 18 日　職員向け勉強会に向けて稲田先生の SV を受ける 29 日　法人職員向け勉強会第１回開催
７月	８日　臨床心理士連絡会

８月	12 日　臨床心理士連絡会 笠岡市発達支援コーディネーターの高田先生との交流会 26 日　事例検討会 30 日　HP の更新
９月	９日　臨床心理士連絡会 上旬　実践研究のアンケートを配布
10 月	14 日　臨床心理士連絡会 学習会（村瀬嘉代子先生の著書について）
11 月	11 日　臨床心理士連絡会 29 日　職員向け勉強会に向けて稲田先生の SV を受ける
12 月	９日　臨床心理士連絡会 14 日　法人職員向け勉強会第２回開催
１月	13 日　臨床心理士連絡会 20 日　実践発表会にて発表 27 日　事例検討会 28 日　岡山県保健福祉学会にて発表
２月	10 日　臨床心理士連絡会
３月	８日　臨床心理士連絡会

6、　活動内容（補足）

今年度からの新たな取り組みとして、連絡会の中での学習会、情報交換会を行った。それぞれの専門分野での最新の情報を共有することができた。

7、　活動を通じ得られた成果

①法人職員向け勉強会では、「ストレスと上手に付き合おう」というテーマで行い、計９名が参加した。アンケートを行ったところ、５段階評価で平均 4.8 ととても良い評価を受けた。

②事例検討会では、心理学的視点でのスーパーバイズが得ることができ、福祉職で活かせる心理の視点を共有することができた。事例を通して学ぶことで、細かな配慮点や大きな物の見方を学ぶことができた。

③HP の立ち上げたことで、法人外の臨床心理士などが HP を閲覧していることが分かった。法人での臨床心理士の取り組みを知ってもらうことができた。

④連絡会の中での学習会、情報交換会はそれぞれの専門分野での最新情報を共有することができた。

8、　　浮上した問題点

①法人職員向け勉強会では、参加者が計９名と少なく、予定していた 40 人の 1/4 の人数となった。

9、　　問題点に対する対応策（案）

①法人職員向け勉強会では、開催場所・時間の調整がより必要と思われる。また、広報の仕方や内容の精査が必要である。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

安全・衛生委員会の一員としてメンタルヘルスの研修などを行っていく。

11、反省点

臨床心理士として、法人に貢献できる活動を充分に行うことが出来なかった。今後は、安全・衛生委員会の一員として、職員に対してメンタルヘルスの研修などを行い貢献していきたい。

12、感想

３ 年間の取り組みの中で、様々なことさせて頂いた。その中で、１ 人職場でバラバラになりがちな臨床心理士達が集い、共通の意識を持ち、職務に前向きに向かっていこうと思えるきっかけになった連絡会だったと思う。

平成２４年度　事務連絡会　年間報告書

（2013.3.31　久保出）

1、　委員会の目的

（1）事務の質の向上

（2）事務職の情報共有

（3）事務職のコミュニケーション活性化

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月　第3回目　水曜日　10：00　～　11：00

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	13	16	20	18	17	19	17	21	25	29	20	21

（3）場所　法人本部2階　サロン

3、　委員会責任者　　委員長　久保　巨人

4、　委員会メンバー

理事長・副理事長・本部長・稲垣・森川・守屋・岩藤・柴崎・高尾

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	年間計画打ち合わせ
５月	サイボウズリモートサービスについて検討
６月	ファイリングについて
７月	サイボウズワークフロー導入について検討
８月	実践発表、手順書作りについて
９月	手順書作りについて
10月	勉強会開催について
11月	ファイリングについて
12月	実践発表について
１月	サイボウズワークフローについて
２月	サイボウズワークフロー・次年度委員会について
３月	サイボウズワークフロー・次年度委員会について

6、　　活動内容（補足）

本年度は、サイボウズワークフローを次年度運用に向けた取り組みが主な活動になった。

7、　　活動を通じ得られた成果

サイボウズのワークフローを導入することで決裁までのスピードが上がり業務の効率化が図れた。

8、　　浮上した問題点

サイボウズについてはパソコンでの運用となるため、他人が操作する危険がある。

9、　　8、問題点に対する対応策（案）

サイボウズに限らず、パソコンの利用についての注意を促す。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

次年度は、業務推進委員会となり、本年度行ったサイボウズについて機能を確認し業務効率化できるものがあれば導入していく。また。ファイリングについて将来はペーパーレスを視野に入れ、本年度、まず、何を取り組むべきか検討する。また、法人の事業も多岐にわたり制度の勉強をすることで事務としての知識を増やし事業を支えていく。

11、反省点

仮運用をもっと早く行う予定だったが、部長会議に業務の都合で参加できずのびのびになった。

12、感想

初めて委員長をさせていただき、委員長次第で物事が進んだり、進まなかったりし、委員長としての仕事のむずかしさを感じた。また、メンバーをいかに巻き込み一体感を持って会を進めるかが今後の課題とし、次年度、委員全員をお客さんではなく、主役にできるようにする。